令和3年度
事業報告書

社会福祉法人　敬和会

高齢者生活支援施設　けいわ荘
特別養護老人ホーム　ユニテ　けいわ
特別養護老人ホームユニテけいわ短期入所
居宅介護支援センター　けいわ荘
厚木市荻野地域包括支援センター
え　ま　ー　ぶ　る
ケアプランセンター　けいわ
ケアハウス　えがりて
研修センター　けいわ
けいわ保育園
けいわ星の子保育園

令和3年度
事業報告書

社会福祉法人　敬和会

高齢者生活支援施設　けいわ荘
特別養護老人ホーム　ユニテ　けいわ
特別養護老人ホームユニテけいわ短期入所
居宅介護支援センター　けいわ荘
厚木市荻野地域包括支援センター
え　ま　ー　ぶ　る
ケアプランセンター　けいわ
ケアハウス　えがりて
研修センター　けいわ

令和３年度　社会福祉法人　敬和会　事業報告

事業総括

理事長　小島　　操

令和３年度よりけいわ荘・けいわ星の子保育園が新体制となったことで、改めて山積する課題に向けて法人全体が協力し合い、新しい時代に即応した第一歩を踏み出すことができたのではと考えます。

月に一度の法人全体の連絡会議や二か月に一度の経営戦略会議、人材定着・採用の取り組み会議でその強化に努めており、これからの結果に期待するところであります。

本年度を振り返ってみますと、高齢事業は、特に特養の稼働率が低下し、収入減に繋がってしまいました。如何に空床期間を短縮し、稼働していくかが令和４年度の課題となります。

また、保育事業は、けいわ星の子保育園が定員割れでスタートし、最後まで定員に達することができませんでした。収支的には、問題はありませんでしたが、今後、夜間保育事業の在り方を究め、合わせて両保育園の存在を広く知っていただくアピールがまだまだ必要と考えます。

これからも安定した経営に向けて、稼働率の重視や加算の取得等に取り組み、収束しないコロナ禍でご利用者・園児・ご家族・関係者の皆様に安心していただけますよう、感染防止に努めながら誠実な法人経営を行ってまいります。

施設長　関　　紘太

令和３年４月介護保険改定により、施設運営の在り方が大きく変化した年でありました。
その中核である【科学的介護】の推進に関して基盤づくりをするべく積極的に行動を起こし、各種加算の算定ができるところまで辿り着くことができました。

今後は、さらに各種加算の取得実績を増やし、安定かつ継続的な施設運営を目指してまいります。

新型コロナウイルス感染症に関しましては、ご利用者様の生活を守るため、感染症委員会を中心に協議し、入居者様には一人の感染者を出すことなく過ごすことができました。
しかし、各事業所においては、事業稼働率に対して影響を受ける結果となりました。特に、特養入所に関しまして、入所受入れまでの安全確認時間が必要とされ、他施設でのコロナウイルス発生の報告などの要因も加わり、結果として空床期間が通常以上に取られることが減収の結果となりました。

今後は、コロナ環境と向き合いつつ迅速かつ、安全に配慮し、空床期間を短くするよう努めてまいります。

主な実績

① 新体制の組織化による新化と進化

本年度４月より、関施設長のもとに新体制が組織され、課題が山積する中で法人全体が一枚岩となって協力し合い、新時代に即応した第一歩を踏み出すことができました。

□公益性

個人が人として尊厳をもって、家庭や地域の中で、その人らしい安心のある生活が送れるよう支援してきました。

□ 継続性

利用者のニーズの多少に関わらず、個人に必要なきめ細かい福祉サービスを継続して提供してきました。

□ 透明性

公的な負担（税金）によって行われる事業であることを自覚し、積極的な情報開示、情報提供を行ってきました。

□ 倫理性

公正、誠実な倫理観に基づく法人経営を行ってきました。

□ 非営利性

事業経営で得た成果は、社会福祉事業の発展や地域の生活課題や福祉事業に還元し、地域福祉の充実に努めてきました。

□ 組織性

良質な福祉サービス、地域の課題やニーズに応えられる人材育成及び組織力の強化を図ってきました。

□ 機動性

地域の福祉課題・ニーズ及び制度の変化に素早く対応してきました。

□ 人材定着に向けた取り組みの強化

福祉サービスの継続化と発展のため、働き甲斐のある、魅力ある職場づくりを目指してきました。労働関係法令の遵守と適切な労務管理により、職員の安全と健康を確保し、快適な環境づくりを推進し、ワークライフバランスに配慮した働きやすい職場環境づくりを推進してきました。

② 新型コロナ対策の徹底

前述の通り、新型コロナ感染症に対する対応策は、感染症委員会の適切なる指示のもと、全職員が一丸となって協力し、ご利用者・職員そして職員の家族の安心・安全を守ることができました。また、３回目のワクチン接種も１月下旬に完了いたしました。

③ 各種行事の満足感　ー新たな思い出の一ページーー

新型コロナウイルス感染症予防対策の徹底を図る中で、納涼祭・敬老会は規模を縮小して開催いたしました。内容豊かな企画のもとに、ご入居者の皆様にとっては、大変思い出深いイベントになったかと思います。

④ 特定技能第１号実習生の受け入れ

監理団体㈱コジマホールディングスのご指導のもとに、今年度２名のベトナム人女性を

受け入れました。この事業は、SDGs 取り組みの一環として行われたものであり、国際協力・国際貢献に寄与するものとして高く評価されるものであります。

⑤　経営の安定化への取り組み　―新加算取得に向けて―

４月に介護報酬改定が行われ、前年度と比較して大幅な減収となりました。そのため５月に「加算取得のためのプロジェクト」を立ち上げ、新加算取得に向けた取り組みを行い、下表に示す通りに加算取得申請を行い、認可を受ける中で年度末には増収となり、経営の安定化に繋げることができました。

⑴　高齢者生活支援施設けいわ荘（神奈川県高齢福祉課福祉施設グループへ申請）

加算名	単位数	申請日⇒加算取得月	申請	認可
安全管理体制（基準型）	有	令和３年11月10日⇒令和３年12月～	○	○
安全対策体制加算	20単位/入所時のみ		○	○
LIFEの登録	有	令和３年12月１日⇒令和４年１月～	○	○
栄養ケア・マネジメントの実施	有		○	○
栄養マネジメント強化体制加算	11単位/日		○	○
褥瘡マネジメント加算Ⅰ	３単位/月		○	○
排せつ支援加算Ⅰ	10単位/月		○	○
科学的介護推進体制加算Ⅱ	50単位/月		○	○

⑵　特別養護老人ホームユニテけいわ
（厚木市介護福祉課介護給付係・鎌倉市介護保険課へ申請）

加算名	単位数	申請日⇒加算取得月	申請	認可
安全管理体制（基準型）	有	令和３年11月10日⇒令和３年12月～	○	○
安全対策体制加算	20単位/入所時のみ		○	○
LIFEの登録	有	令和３年12月１日⇒令和４年１月～	○	○
褥瘡マネジメント加算Ⅰ	３単位/月		○	○
排せつ支援加算Ⅰ	10単位/月		○	○
科学的介護推進体制加算Ⅱ	50単位/月		○	○
栄養ケア・マネジメントの実施	有	令和４年１月４日⇒令和４年２月～	○	○
栄養マネジメント強化体制加算	11単位/日		○	○

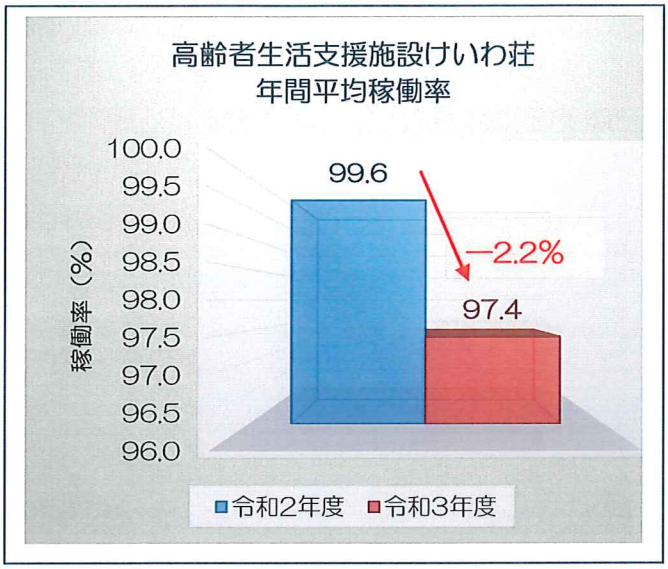
⑶　居宅介護支援センターけいわ荘：通所介護（神奈川県高齢福祉課在宅グループへ申請）

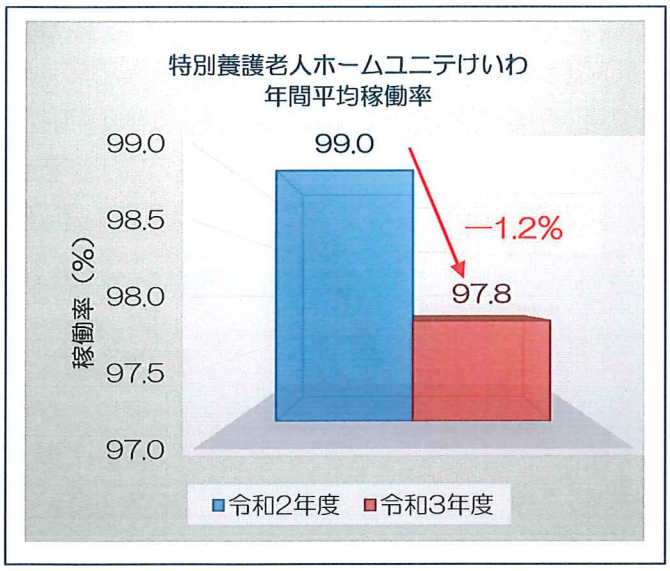
加算名	単位数	申請日⇒加算取得月	申請	認可
LIFEの登録	有	令和３年12月１日⇒令和４年１月～	○	○
入浴介助加算Ⅱ	55単位/日		○	○
科学的介護推進体制加算	40単位/月		○	○

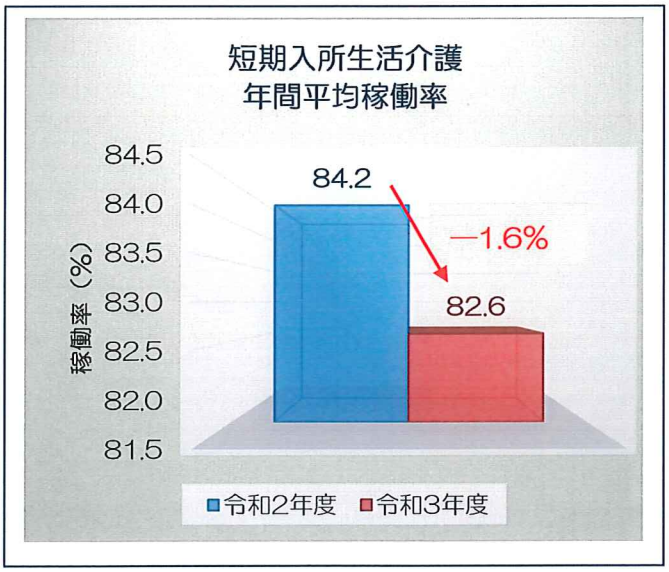
⑷　居宅介護支援センターけいわ荘：総合事業通所（厚木市介護福祉課高齢者支援係へ申請）

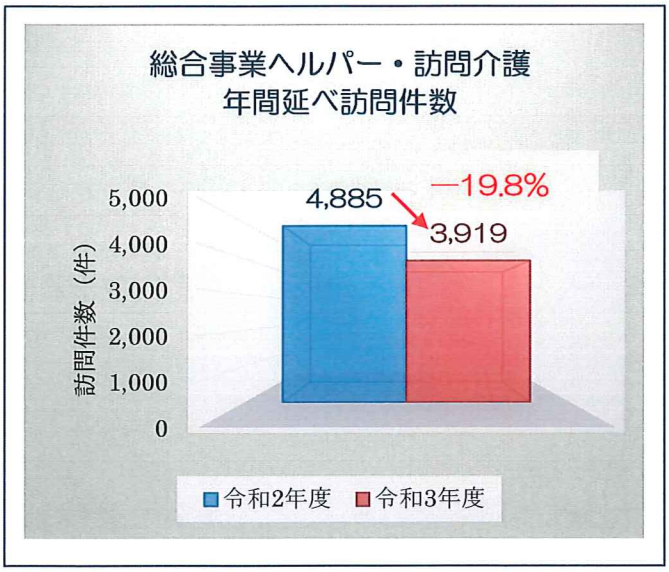
加算名	単位数	申請日⇒加算取得月	申請	認可
LIFEの登録	有	令和３年12月１日⇒令和４年１月～	○	○
科学的介護推進体制加算	40単位/月		○	○

⑥　稼働率・件数実績（前年度比）

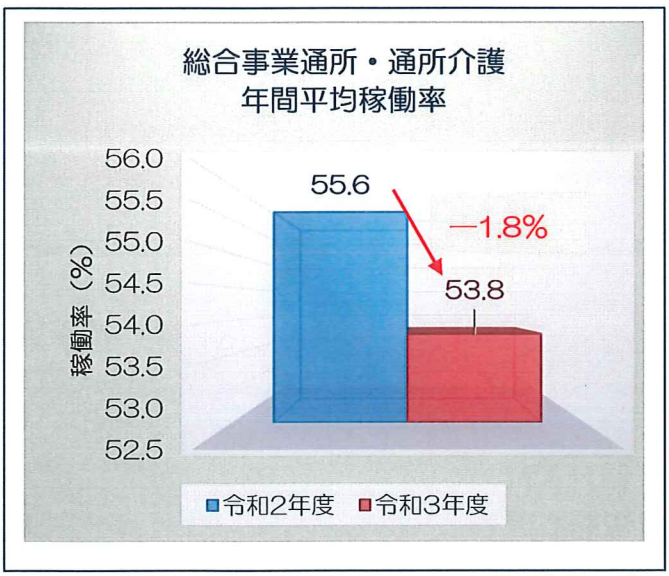


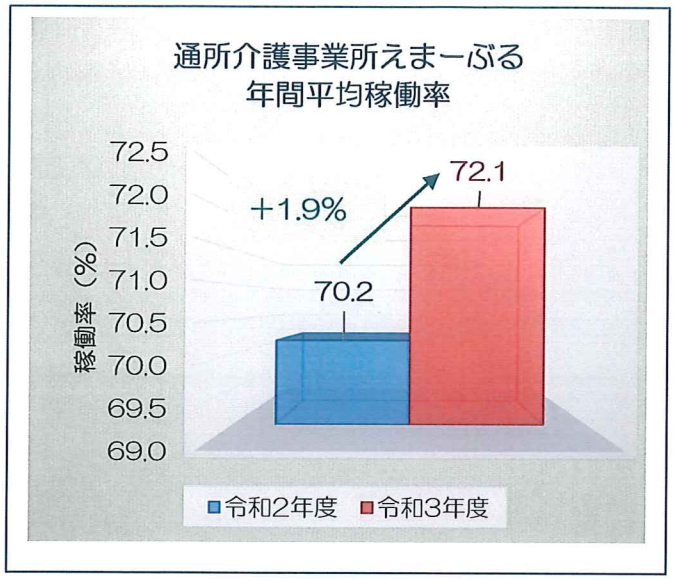


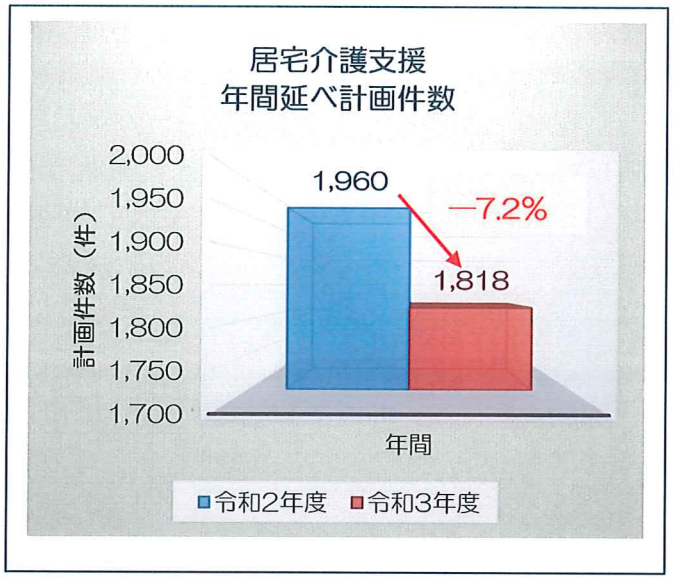


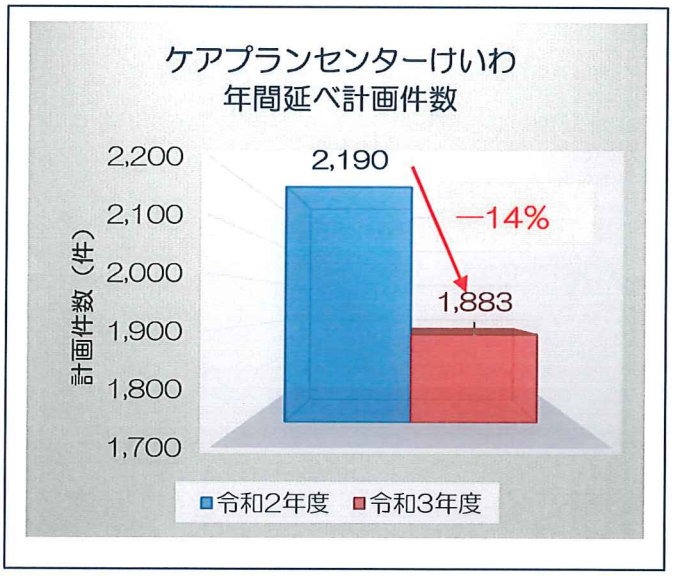


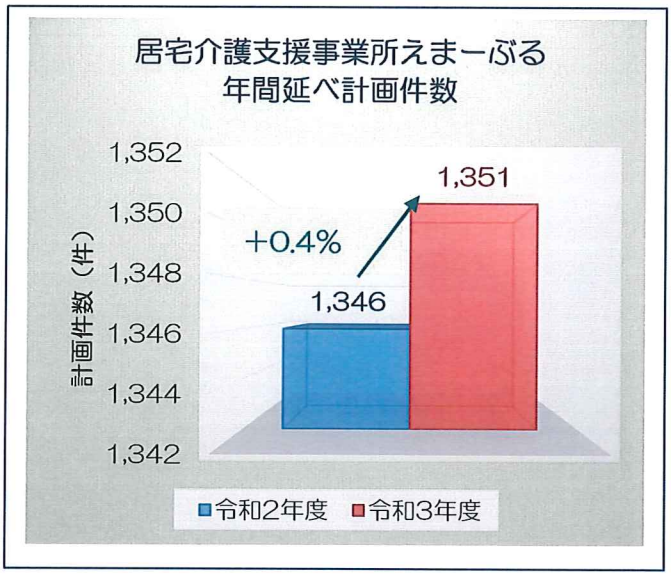


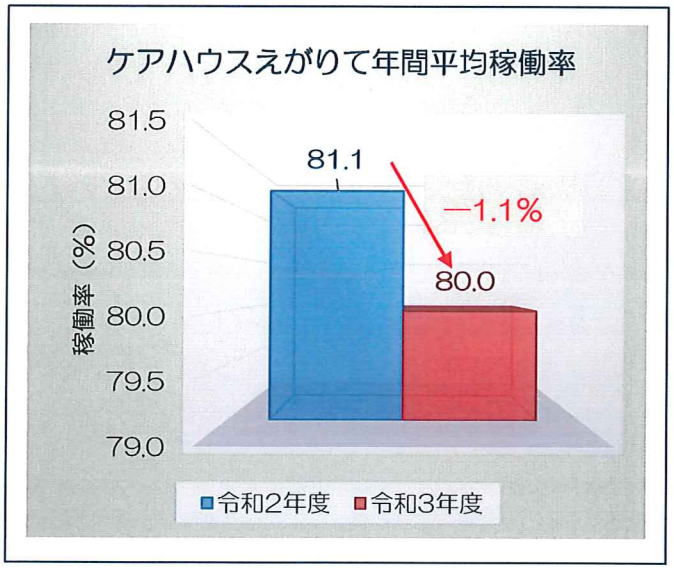


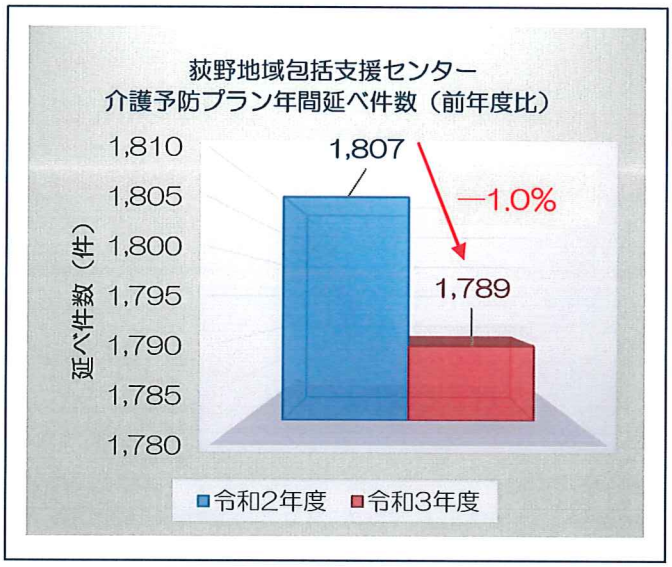

通所介護事業所えまーぶる
年間平均稼働率
稼働率（%）
72.5
72.0
71.5
71.0
70.5
70.0
69.5
69.0
+1.9%
70.2
72.1
令和2年度
令和3年度

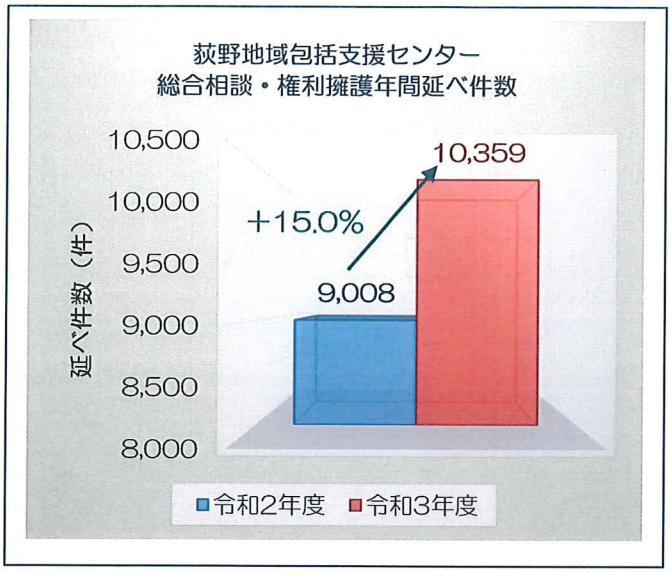

居宅介護支援
年間延べ計画件数
計画件数（件）
2,000
1,950
1,900
1,850
1,800
1,750
1,700
1,960
−7.2%
1,818
年間
令和2年度
令和3年度

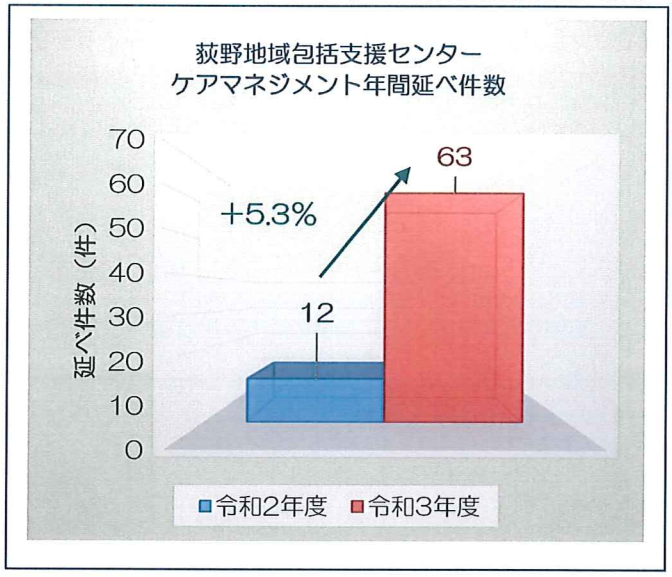

ケアプランセンターけいわ
年間延べ計画件数
計画件数（件）
2,200
2,100
2,000
1,900
1,800
1,700
2,190
−14%
1,883
令和2年度
令和3年度

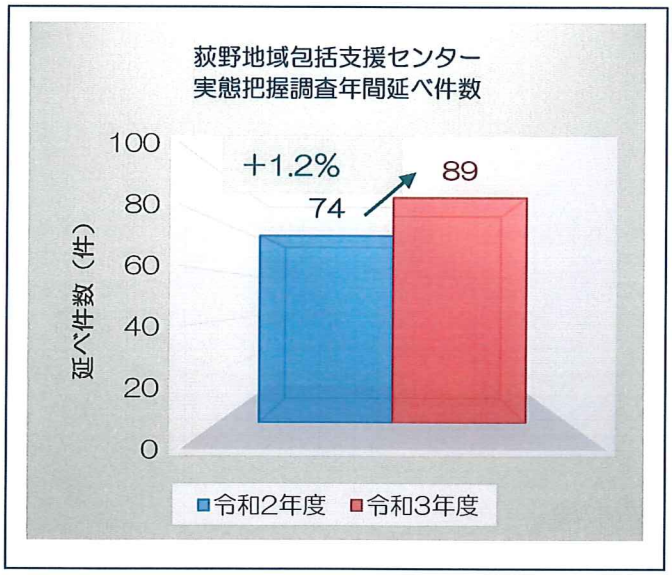

居宅介護支援事業所えまーぶる
年間延べ計画件数
計画件数（件）
1,352
1,350
1,348
1,346
1,344
1,342
+0.4%
1,346
1,351
令和2年度
令和3年度


ケアハウスえがりて年間平均稼働率
稼働率（%）
81.5
81.0
80.5
80.0
79.5
79.0
81.1
−1.1%
80.0
令和2年度
令和3年度


荻野地域包括支援センター
介護予防プラン年間延べ件数（前年度比）
延べ件数（件）
1,810
1,805
1,800
1,795
1,790
1,785
1,780
1,807
−1.0%
1,789
令和2年度
令和3年度







新型コロナウイルス感染症の影響もあり、稼働率が前年度に比べて低下しましたが、来年度に向けて、敬和会の強みである『チーム力』を武器に稼働率の回復を図りつつ、『安定的持続可能な健全経営』に邁進してまいります。

【部門別事業報告】

１．生活支援課

事業総括

新型コロナウイルス感染予防のため、ご家族の面会を制限した時期が長くあり、ご家族との情報共有を図る事が難しい局面もありましたが、ターミナル時期等は面会をして頂き、最期の時間を共に過ごして頂けるように努めました。それに伴い永眠による退所者が多く、次の入所者の対応が迅速にできず、空床期間が長くなってしまい、稼働率の低下に繋がったことは反省すべきものであり、次年度に向けての教訓にしてまいります。

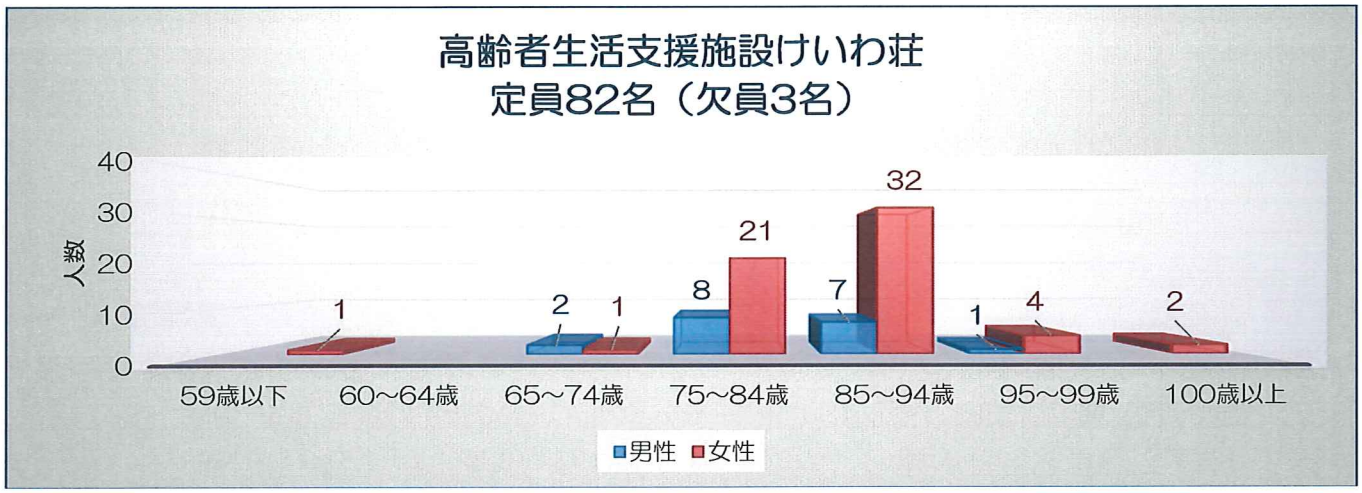
職員間ではコロナに感染した職員もいましたが、ご利用者への感染はなく過ごす事ができ『安心・安全』な生活環境を維持することができました。

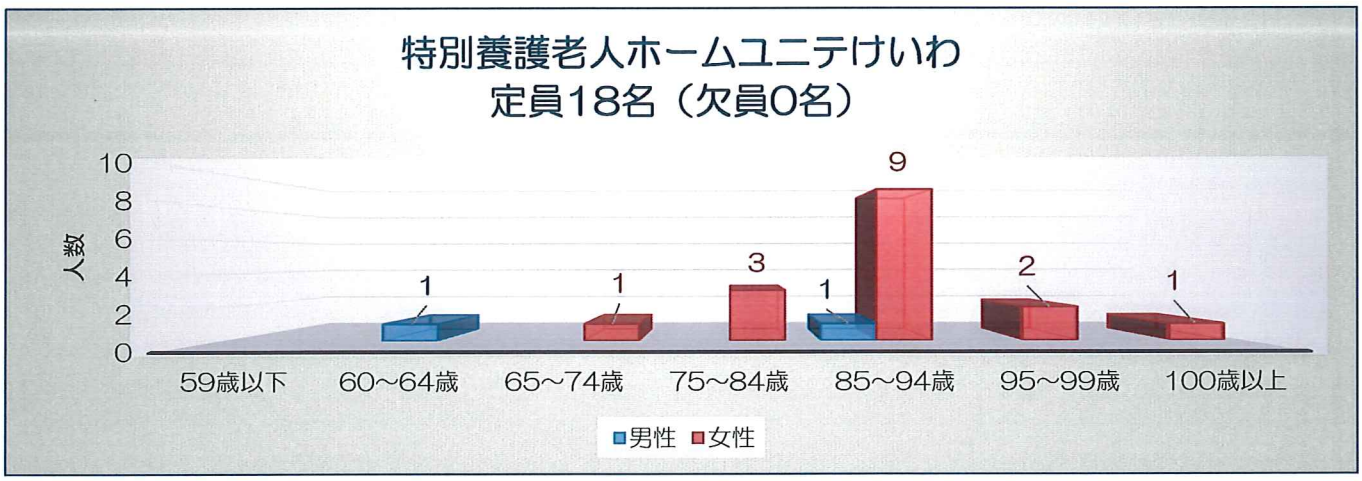
チームとしてケアを行ってまいりましたが、報連相が徹底できない事でチームワークが図れない事もありました。

ＬＩＦＥ制度を導入し新規加算の取得を行い、特養として経営の安定化に努めてまいりました。

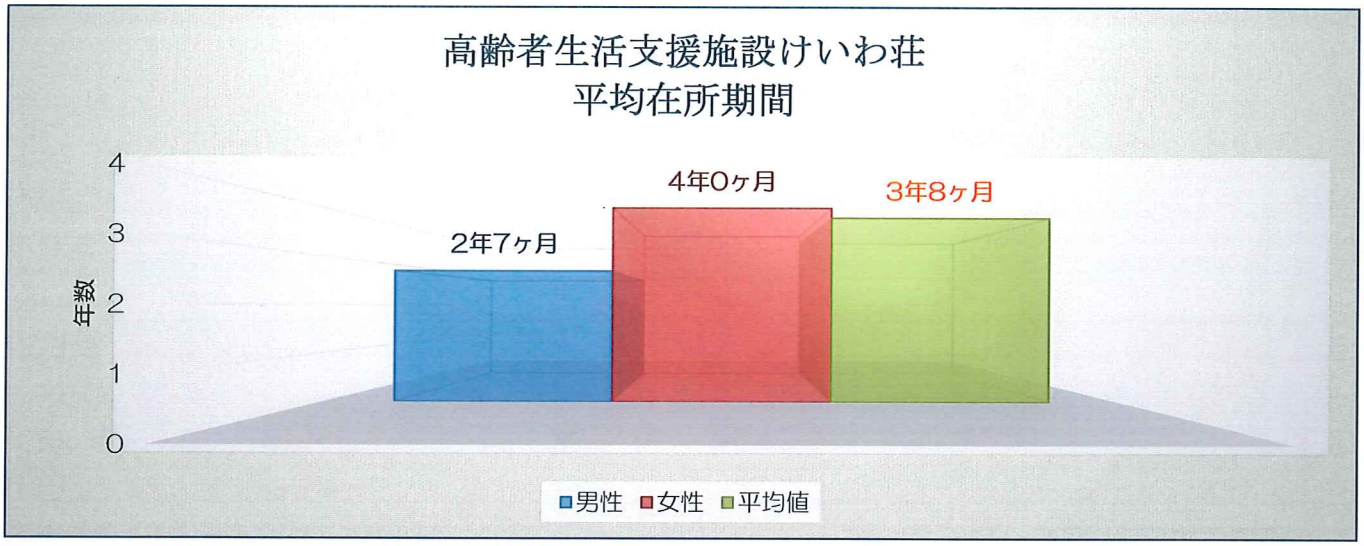
入所者諸状況（令和４年３月31日現在）

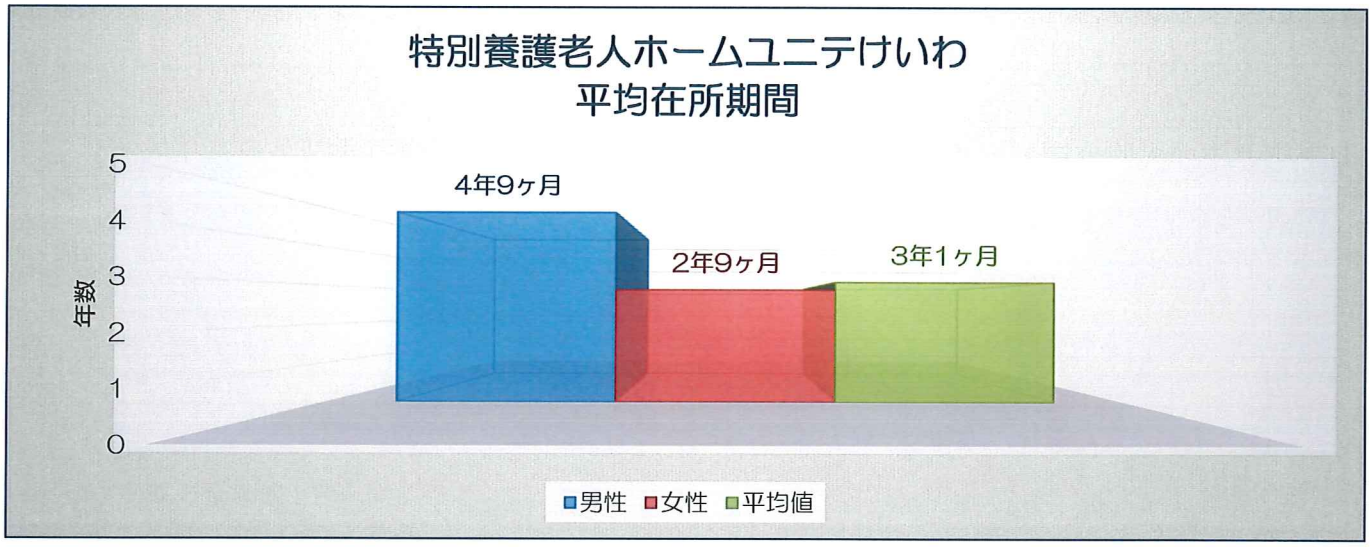
１）男女別入所者年齢構成



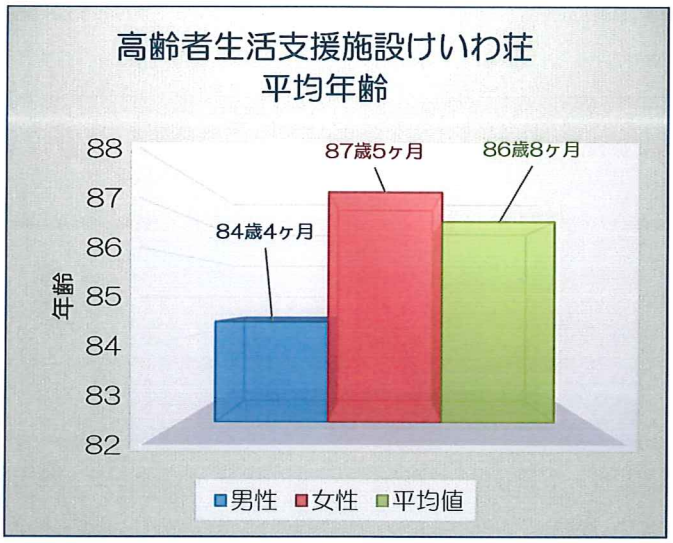


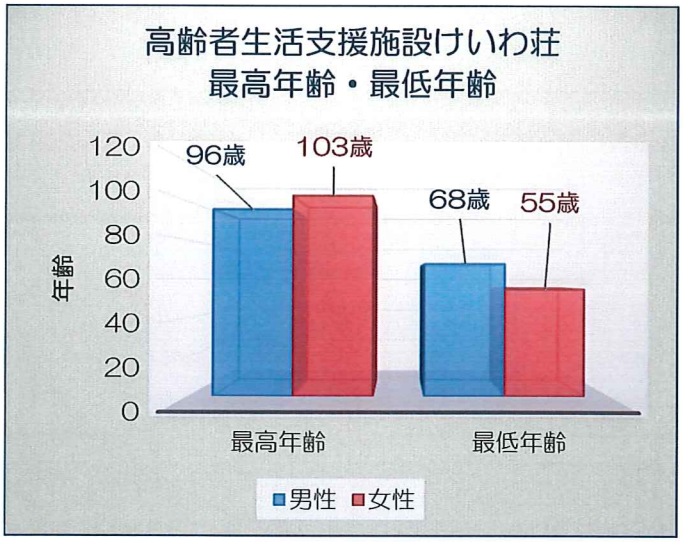
2）平均在所期間

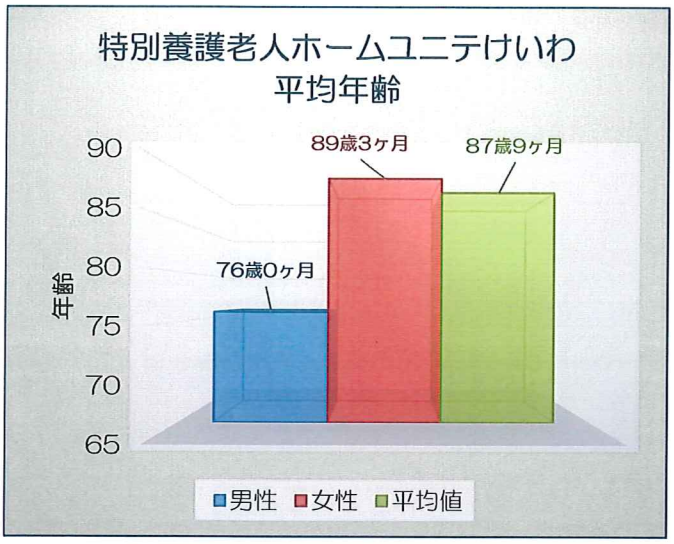


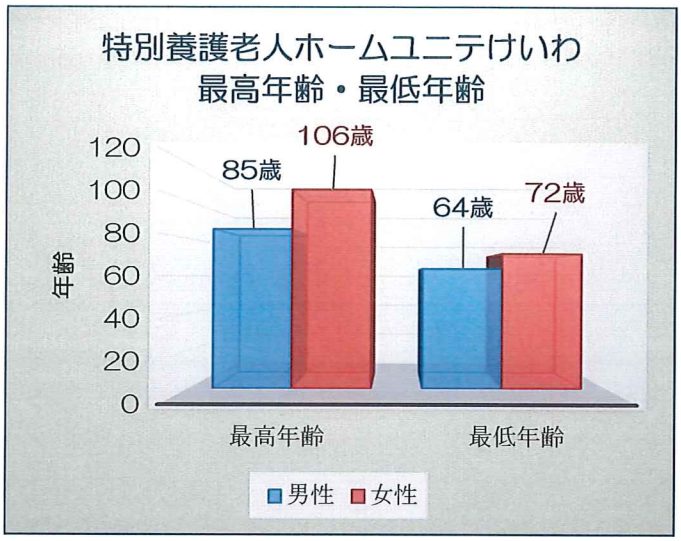


3）平均年齢、最高・最低年齢

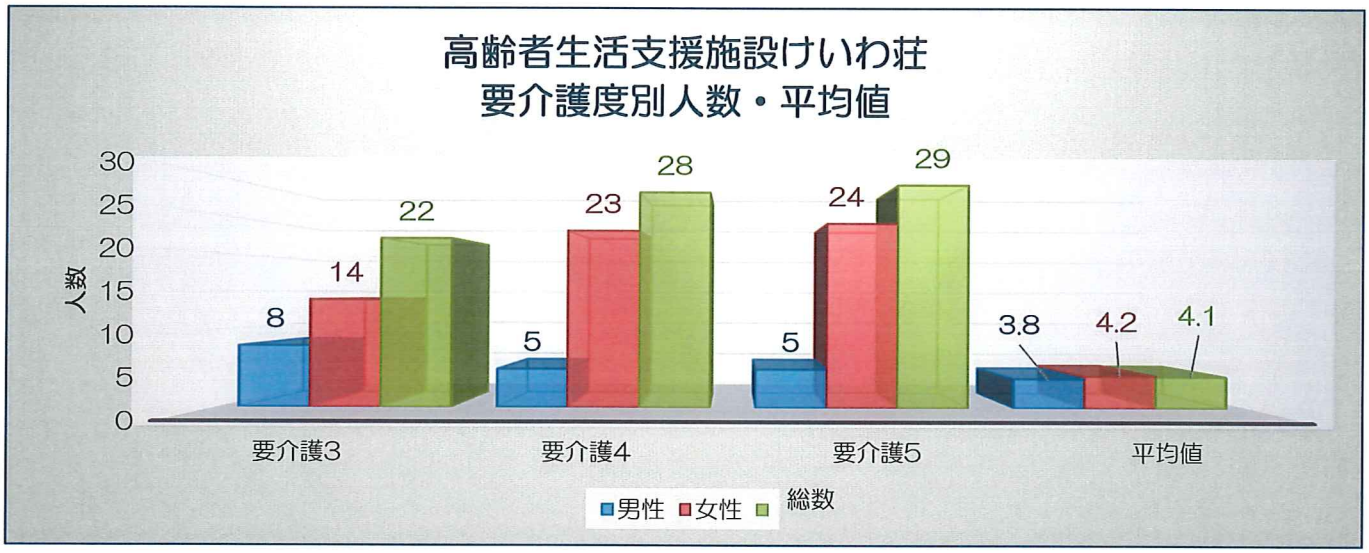


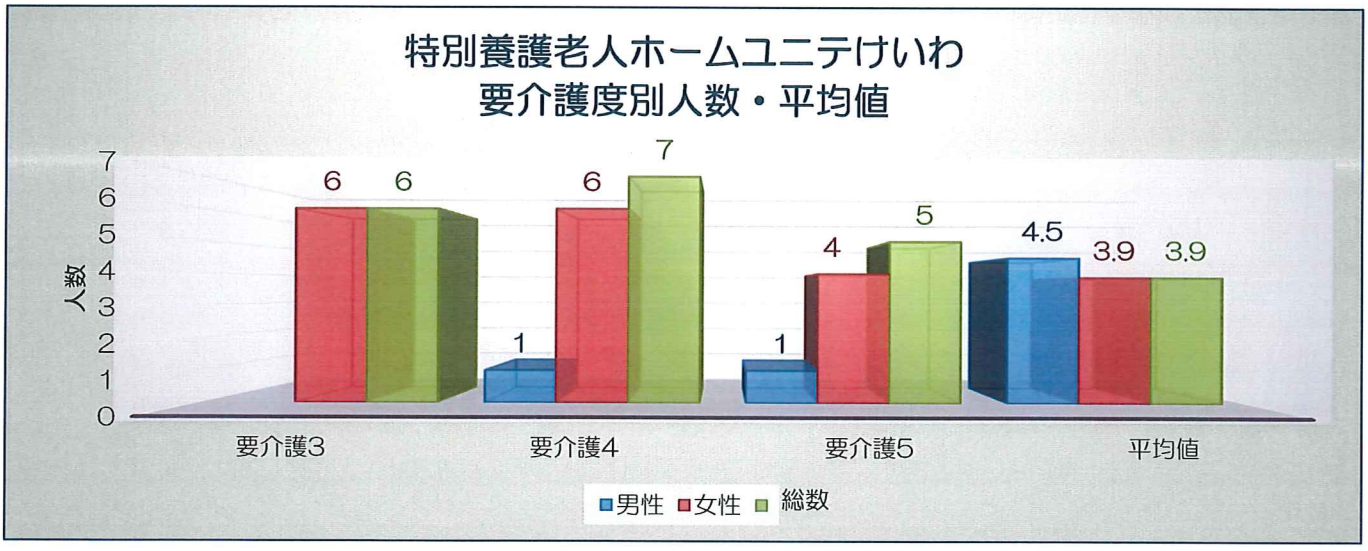






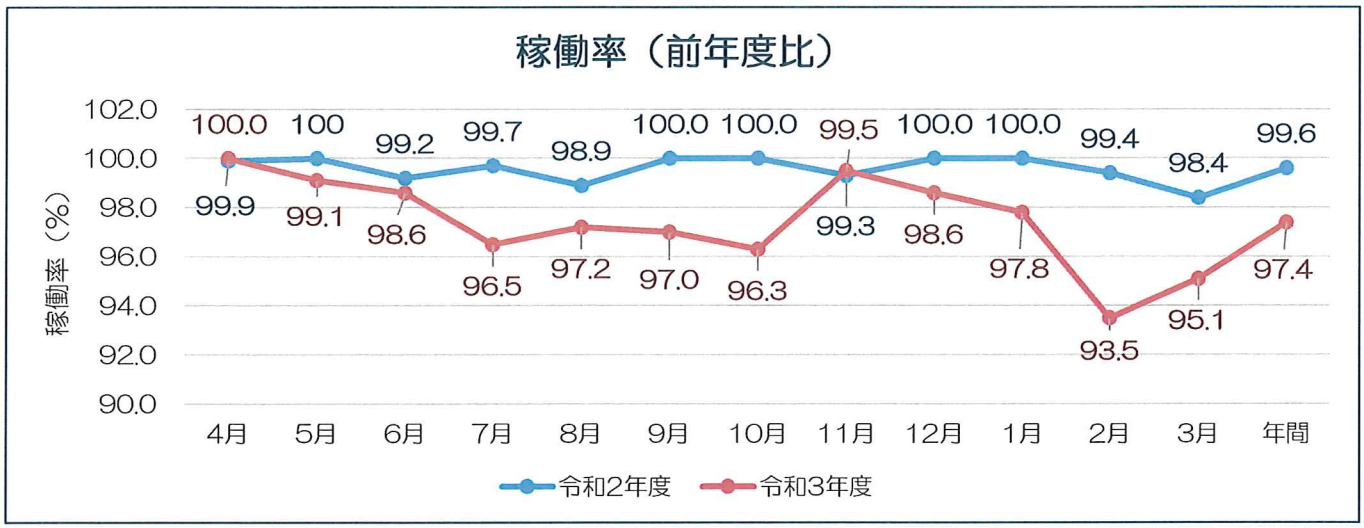
4）介護保険　要介護度別人数



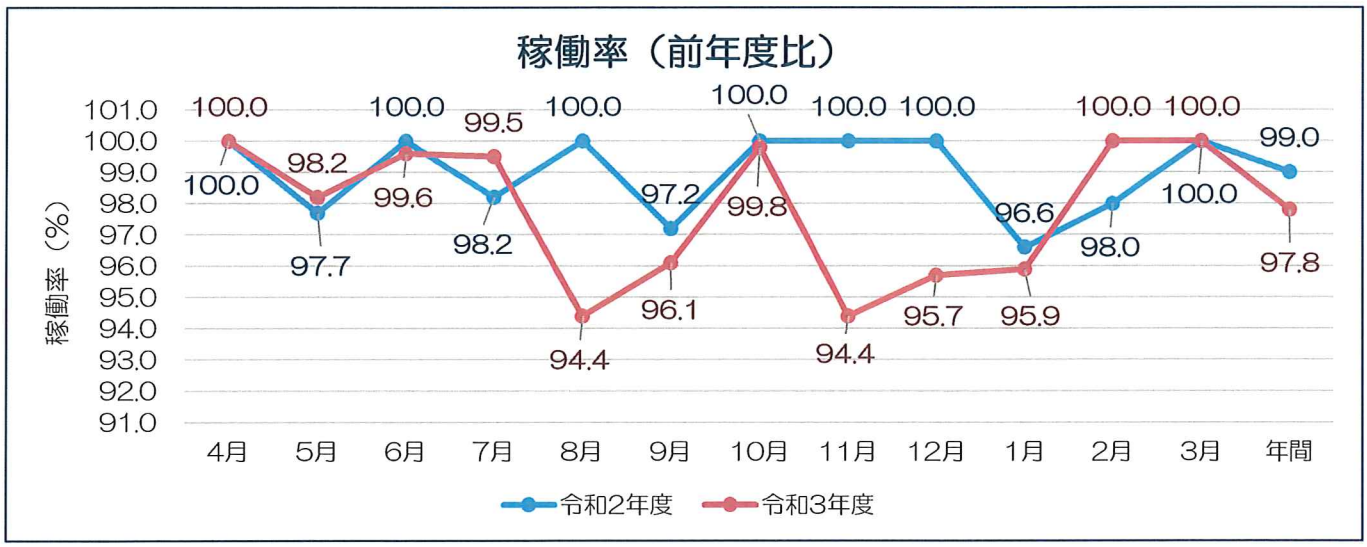


５）年間施設稼働実績表（稼働率）

〔高齢者生活支援施設　けいわ荘〕定員 82 名

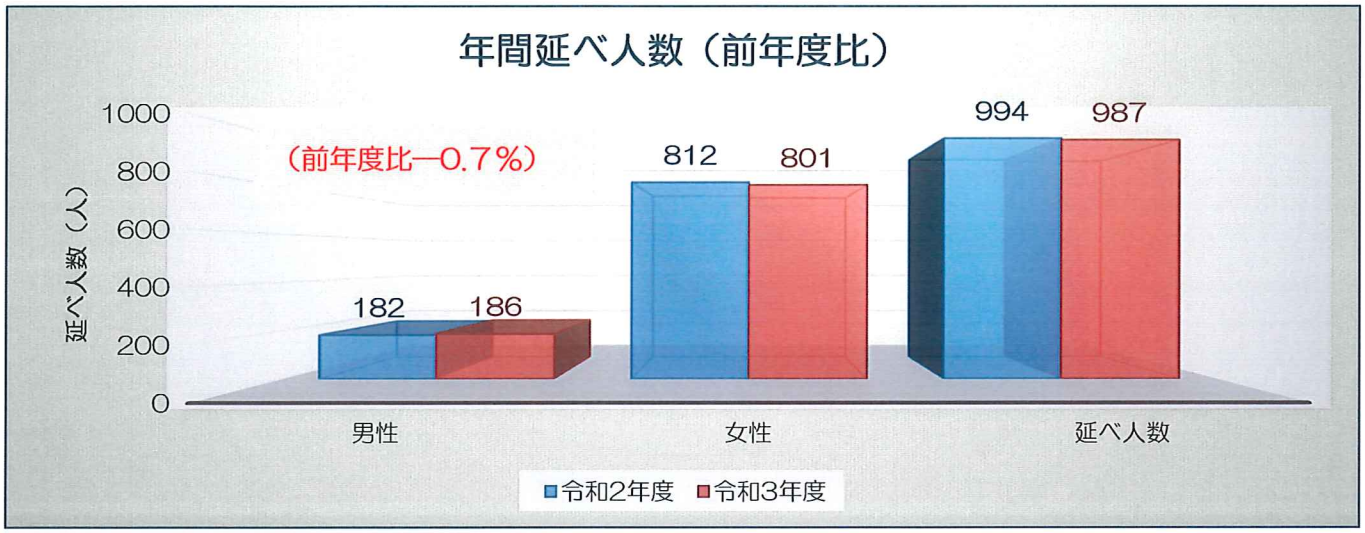


〔特別養護老人ホーム　ユニテ　けいわ〕　定員 18 名

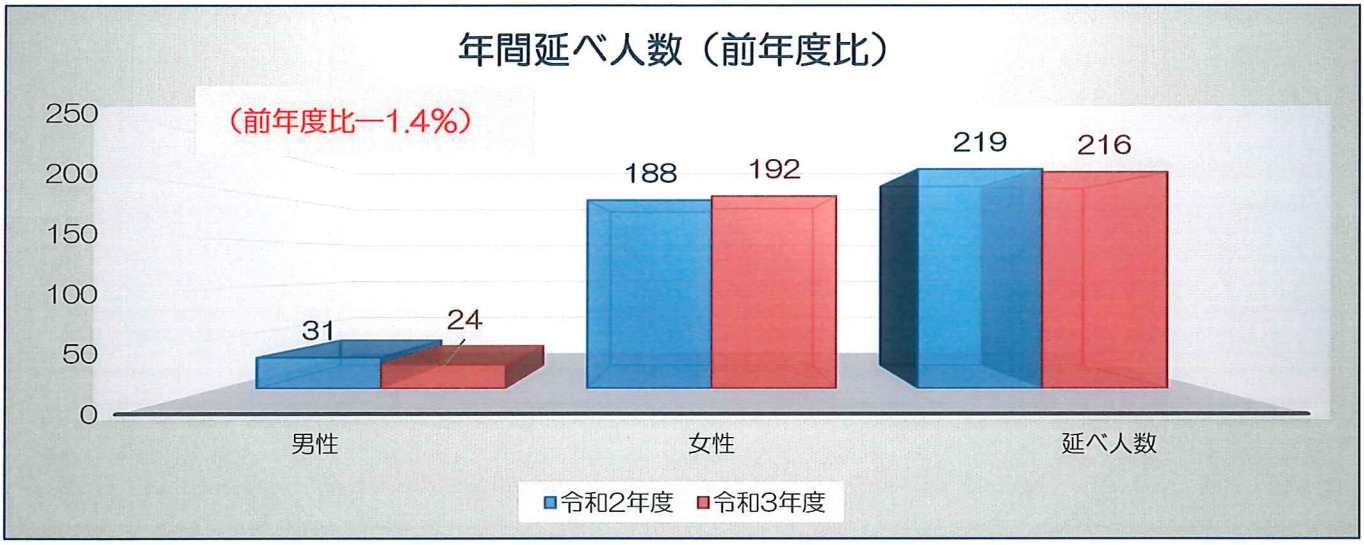


６）年間施設稼動実績表（実数）

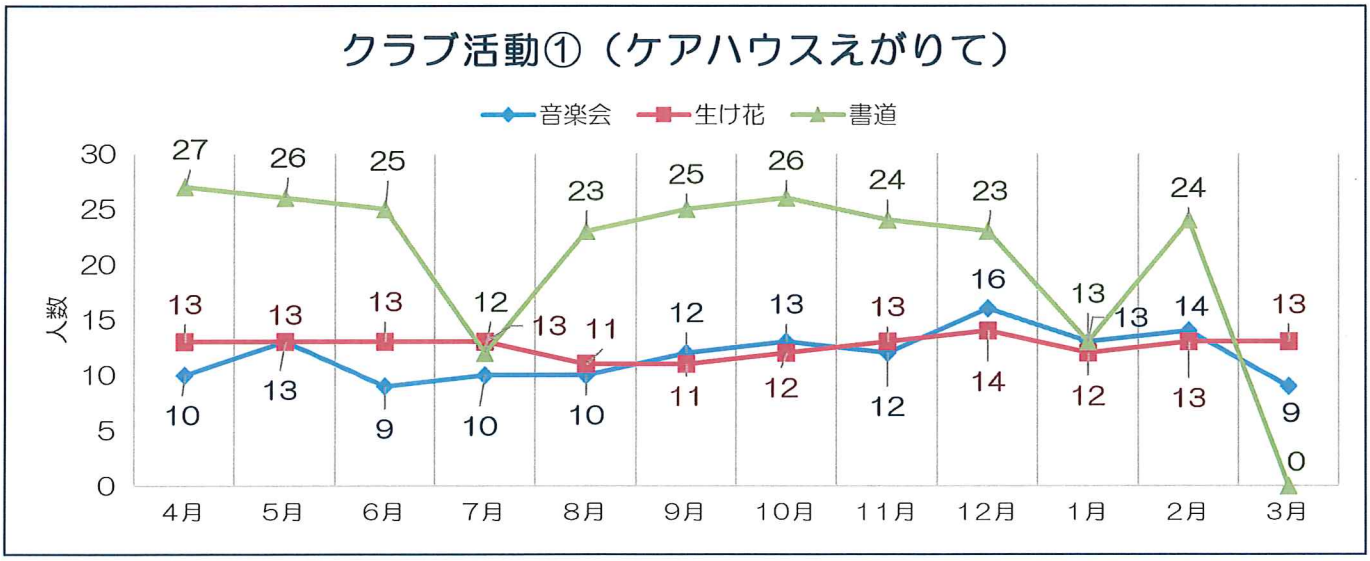
ⓐ　高齢者生活支援施設　けいわ荘

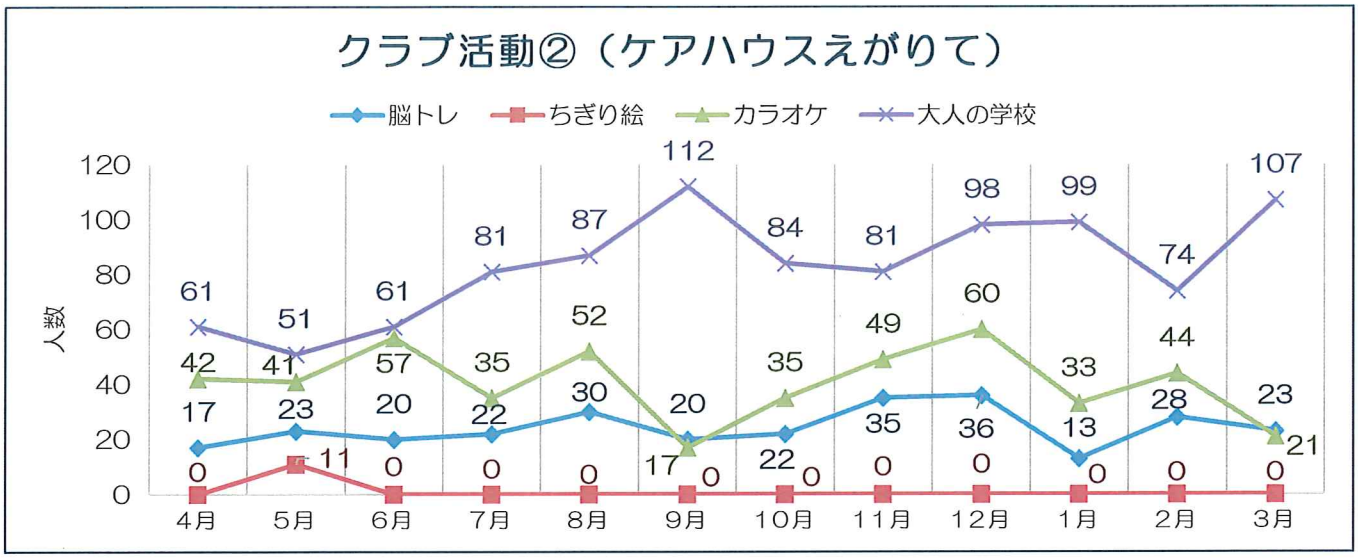


ⓑ　特別養護老人ホーム　ユニテ　けいわ



７）クラブ活動実績表（延べ数）：ケアハウスえがりてのみ実施





8）行 事 報 告

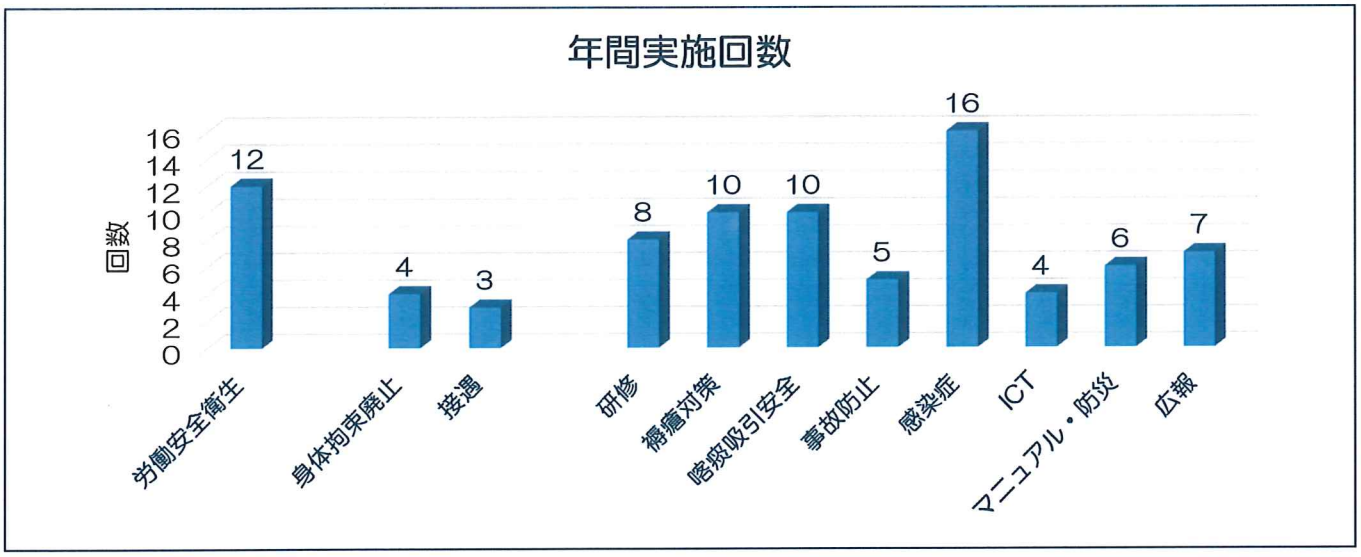
実 施 日	行　事　名	参加人数
令和　３年　４月８日	４月誕生会	誕生者８名
27 日	新型コロナウイルス感染症ワクチン第１回接種	特養・職員
５月７日	母の日誕生会	誕生者６名
18 日	新型コロナウイルス感染症ワクチン第２回接種	特養・職員
６月１日	新型コロナウイルス感染症ワクチン第１回接種	ケアハウスえがりて
２日	ユニテ（ひまわり）イベント食：握り寿司	９名
６月９日	ユニテ（さくら）イベント食：握り寿司	９名
６月 18 日	６月度誕生会	誕生者 12 名
22 日	新型コロナウイルス感染症ワクチン第２回接種	ケアハウスえがりて
７月６日	７月誕生会	誕生者６名
８月５日	花火大会	170 名
５日	えがりて納涼祭	22 名
11 日	８月度誕生会	９名
17 日	ユニテ（さくら・ひまわり）納涼祭	16 名
18 日	コスモス納涼祭	28 名
19 日	陽だまり納涼祭	29 名
25 日	さざんか納涼祭	25 名
30 日	デイサービス夏祭り	32 名
31 日	デイサービス夏祭り	25 名
９月９日	９月度誕生会	誕生者５名
18 日	部署単位での「敬老会式典」	
22 日	令和３年度永年勤続表彰式	該当者 13 名
27 日	居酒屋「ケアハウスえがりて」	22 名
28 日	居酒屋「特養」	11 名

10月4日	10月度誕生会	誕生者12名
7日	ふれあい交流会	利用者32名
26日	イベント食（陽だまり）	31名
29日	防災訓練	全職員対象
11月2日	職員健康診断	全職員対象
12日	11月度誕生会	誕生者18名
16日	インフルエンザ予防接種	全職員対象
19日	イベント食（コスモス）	30名
25日	イベント食（さざんか）	27名
30日	インフルエンザ予防接種	全職員対象
12月7日	インフルエンザ予防接種（入居者）	全入居者対象
9日	12月度誕生会	誕生者6名
15日	クリスマス会（コスモス）	28名
17日	クリスマス会（さざんか）	24名
	地域密着型運営推進会議	8名
20日	クリスマス会（ユニテ：ひまわり）	9名
22日	クリスマス会（陽だまり）	30名
	クリスマス会（ユニテ：さくら）	9名
23日	クリスマス会（ケアハウスえがりて）	25名
	クリスマス会（デイサービス）	24名
24日		23名
28日	もちつき	全員参加
29日	仕事納め	
令和4年1月1日	正月膳	105名
2日	正月膳	106名
3日	正月膳	106名
4日	仕事始め	
12日	職員成人の祝い	
14日	どんど焼き	57名
17日	1月度誕生会	誕生者17名
18	新型コロナウイルスワクチン第3回接種	全入所者・全職員
25		
28		
2月3日	ケアハウスえがりて節分	27名
7日	鍋イベント（ユニテひまわり）	9名
8日	鍋イベント（ユニテさくら）	9名
9日	鍋イベント（陽だまり）	29名

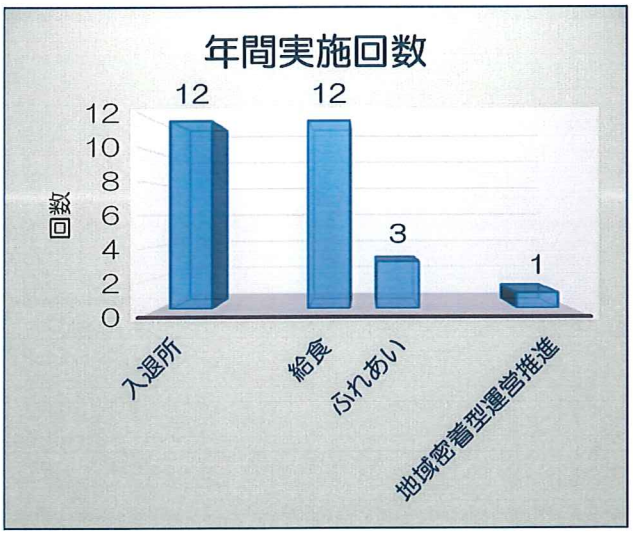
10日	鍋イベント（ケアハウスえがりて）	27名
15日	２月度誕生会	誕生者12名
17日	鍋イベント（さざんか）	24名
24日	鍋イベント（コスモス）	28名
３月３日	ひな祭り	98名
３日	節分イベント（ユニテ：さくら・ひまわり）	18名
16日	３月度誕生会	誕生者13名
29日	お花見（ケアハウスえがりて）	24名
30日	お花見（ユニテさくら・ひまわり）	18名

９）諸会議

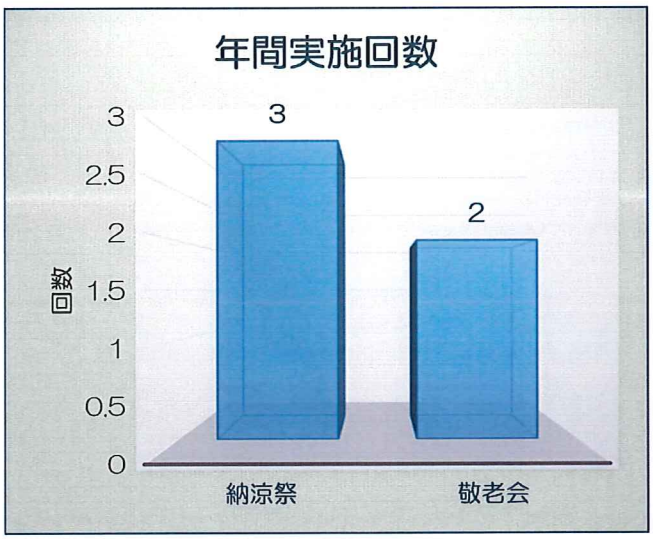
ⓐ　委員会



ⓑ　生活支援課委員会



ⓒ　行事実行委員会



令和３年度重点取り組み事項

Ⅰ　利用者・家族に寄り添った質の高いサービスの提供
Ⅱ　人材の確保と職員の育成・定着
Ⅲ　安定的持続可能な健全経営
Ⅳ　チームワークの強化
Ⅴ　地域貢献への積極的な取り組み

１）生活相談員

事業計画				結果	
重点取り組み事項	具体的目標		指標・成果	達成率（%）※指標ごとに記入	具体的達成状況と今後の課題
Ⅰ	①	ご利用者の尊重	⑴ご利用者やご家族の意向確認 ⑵終末期の意向確認 ⑶個別ケアの実践	⑴　90% ⑵100% ⑶　80%	⑴面会が出来ない期間が長く、直接ご家族と会う事が出来なかったが、極力意向の確認に努めた ⑵面会が出来ない期間も終末期は面会が出来る環境に努め、意向の確認を行った ⑶入所時に今までの生活環境や性格、趣味等を聞き取り他のスタッフと情報共有に努めた
	②	ご家族との信頼関係の構築	⑴ご利用者の心身の状態の共有 ⑵ご家族の想いを知る	⑴　90% ⑵　90%	⑴日々の様子や変化に合わせ小まめに連絡を行っていた ⑵電話や入所時等に何気ない会話の中にも耳を傾け、ご家族の想いを理解する事に努めた
Ⅱ	①	施設内外の研修参加	⑴知識と技術の向上	⑴100%	⑴施設内研修の参加や、外部研修はリモート研修に参加した
	②	プリセプター制度導入	⑴新職員の育成・定着	⑴　80%	⑴新職２名をプリセプター制度で育成を行った
	③	安定した利用者の定数確保	⑴稼働率９８%	⑴　８０%	⑴３４名が退所され、コロナ禍もあり迅速に入所への対応が難しかった
Ⅲ	①	新規加算の取得	⑴取得に合わせ書類の作成	⑴100%	⑴1月からＬＩＦＥ入力により、加算取得を実施している

	②	経費削減	(1)ＩＣＴ化によるペーパーレス化	(1)　９０％	(1)ペーパーレス化を行った
Ⅳ	①	多職種連携及び情報共有	(1)報連相の徹底	(1)　90%	(1)多職種と連携を図り情報共有に努めた
	②	部署内での連携	(1)互いを補う関係の構築	(1)100%	(1)相談員同士、ケアマネ、短期入所と連携を図りながら、業務を遂行できた
Ⅴ	①	地域貢献の実践	(1)実習生の受け入れ (2)中学生・高校生の体験	(1)　０% (2)　０%	(1)･(2) 感染予防の為、受け入れができなかった

2）ケア第１（さざんか・コスモス）

事業計画				結果	
重点取り組み事項	具体的目標		指標・成果	達成率（%） ※指標ごとに記入	具体的達成状況と今後の課題
Ⅰ	①	利用者の尊重	(1)ご利用者個々のその方らしい生活の場を実現	(1)　６０%	(1)個々に合わせたご利用者主体のケアに努めた。コロナ禍により生活の場に置いて行動範囲の制限があり十分に対応できない部分があった
			(2)人格を否定せず日々の生活の不安を取り除く	(2)　80%	(2)ご利用者に寄り添い、声を拾い生活していく中での不安を取り除くよう努めた
	②	質の高い自立支援	(1)チームケアの充実を目指して(業務の見直し、ＩＣＴ化の定着)	(1)　５０%	(1)自立介護支援システムを活用して記録を基に情報の共有・意見交換を設け業務の見直しを行って行くよう努めた。記録の内容に不足な部分があったことや統一出来ていない部分があった。今後も見直しをおこなっていく
			(2)残存機能を活用したケアの提供	(2)　６０%	(2)ケアプランに添い残存機能を活用したケアを提供したが、部分的に必要以上の介護をしてしまう事もあった。ご利用者の残存機能をしっかりと把握し機能維持に努めていく

	③	家族との連携	⑴行事への参加を積極的に呼び掛け ⑵面会時に日々の様子を伝えるなどコミュニケーションを多く図る	⑴　０% ⑵　３０%	⑴コロナ禍の為、内部のみでの行事開催となり呼びかけを行う事ができなかった ⑵コロナ禍の為面会に制限があった。面会ができ職員が立ち会えた際、限られた状態であったが近況報告を相談員へ報告してお伝えするよう努めた
Ⅱ	①	研修の充実	⑴施設内外の研修参加	⑴　７０%	⑴内部・外部研修共に参加を呼びかけ参加率が増えた。外部研修は新型コロナウイルスの影響もあったがリモートでの開催が増えたことで参加率が増えた
	②	人材定着のための取り組みとチーム力の育成	⑴理解し合える同僚や目標とする先輩職員との意見交換 ⑵働きやすい職場環境	⑴　５０% ⑵　３０%	⑴・⑵ 日頃意見を集める事や当日の職員間での意見交換は行っていった。フロア全体での会議や意見交換の場を２，３回程度しか設ける事が出来なかった。スタッフ間での細かな意見を出し合う機会を設けることが出来なかった為今後設けていくこととする
	③	資格取得の推進と強化	⑴資格未取得の職員への初任者研修受講 ⑵介護福祉士資格取得支援	⑴１００% ⑵１００%	⑴・⑵ １名の職員が初任者研修受講。１名の職員が介護福祉士国家試験に合格。他の職員については面談にて資格取得の意向を聞き取得の促しを行った
	④	特定技能第１号実習生の採用	⑴国際交流・国際貢献・国際協力の姿勢	⑴　５０%	⑴２名の特定技能実習生の採用を行った。介護においての基礎学習、職務指導をおこなった。業務上一部を独り立ちする所までの習熟に２名共に到達。約１０か月の職務を行っ

					た末２名共に退職に至った
	⑤	新人職員の育成	⑴プリセプター制度の導入	⑴１００％	⑴新人育成ができ、ほぼ一人での業務が行える所迄習得に至った。今後も継続して新人の育成を行うと共に中途採用のプリセプター制度の在り方について考えていく
Ⅲ	①	利用者定数を満たす	⑴空床期間の短縮 ⑵短期入所満床の維持	⑴　７０％ ⑵　７０％	⑴・⑵ 空床期間が長引かないよう、短期入所の受け入れを積極的に行った。今後も継続して受け入れ空床期間短縮を目指す。又、受け入れ可能な環境、体制整備を行う
	②	業務の見直しと経費節減	⑴業務の効率化と改善 ⑵経費節減 ⑶介護方法の見直し、利用者の安全且つ職員の負担軽減を図る	⑴　５０％ ⑵　５０％ ⑶　５０％	⑴自立介護支援システムを活用して記録を基に情報の共有が円滑にでき効率化があがる面があった。記録の内容に不足な部分があり必要な情報が足りない面があった為改善が必要で今後の課題とする ⑵ＰＣ内で管理できる物は行い無駄な印刷物を削減、ペーパーレス化はできた ⑶チーム全体での介護方法について意見交換等の場設けて行うことが出来なかった。一部の中で介助時の職員・ご利用者の身体の動きの負担、体の使い方を確認しあうことができご利用者本位のケアに繋げた
	③	中間管理職の育成	⑴マネジメント教育の取り組み ⑵コーチング教育の取り組み ⑶適した教育を行う環境	⑴　５０％ ⑵　50％ ⑶　50％	⑴・⑵・⑶ １名の職員がチームリーダキャリアパス研修に参加。研修での経験を基にフロアチームのマネジメント、コーチ

			構築		ングを会議や委員会にて行った。行う回数が少なかった為増やしていく
Ⅳ	①	情報の共有化を図る	⑴情報共有しやすい環境づくり	⑴　６０％	⑴会議の場が少なかったが、日々の業務内で意見交換は行えていた。個人でのコミュニケーション方法に差があった。今後は些細な事でもどの職員も誰に対しても意見交換を積極的に行って行く
	②	報告・連絡・相談の習慣化	⑴チームワークの原点	⑴　５０％	⑴報告・連絡・相談を口頭にて行うことは欠かさずできていたが引継ぎ表（ノートや日誌等)への記載漏れがあり、伝達漏れが見られることがあった。また、確認することも足りない面があった為、今後は報告・連絡・相談に加え確認迄を徹底することを努めていくこととする
	③	モチベーション向上	⑴やりがいのある職場づくり	⑴　７０％	⑴一人で抱え込まず積極的に相談、声を掛け合い協力することを行っていた。個々に役割を持ち、任されたことに責任を持つ姿勢に繋がっていた
Ⅴ	①	地域共生社会を目指したサービス	⑴外出や地域行事への参加	⑴　　０％	⑴コロナ禍の為、実施出来ていない。外出や地域行事への参加が可能になり次第行事の企画を行っていく
	②	社会貢献への実践	⑴体験学習や実習生の受け入れ	⑴　　０％	⑴コロナ禍の為、受け入れは中止していた。受け入れ可能になり次第随時受け入れをしていく

３）ケア第２（陽だまり）

事業計画				結果	
重点取り組み事項	具体的目標		指標・成果	達成率（%）※指標ごとに記入	具体的達成状況と今後の課題
Ⅰ	①	利用者の尊厳	⑴ご利用者様の個々にあった生活を尊重	⑴　６０%	⑴現状、ご利用者ニーズを引き出す為のスキルに至っていない職員が多く、スキルアップ出来る様に、指導・育成を行っていく
	②	質の高い自立支援	⑴残存機能を活かしたケアの提供	⑴　６０%	⑴ご利用者の出来る事を把握せず、全て行ってしまう事ある。ご利用者の情報を共有しながら、機能維持につなげていく
	③	家族との連絡	⑴ご家族へ行事と報告を密に図る	⑴　４０%	⑴事務所との連携が取れず、写真は撮っていても家族に提供できずにいた。今後面会時等に事務所と連携を取りながら行っていく
Ⅱ	①	研修の充実	⑴施設内研修・外部研修への参加	⑴　６５%	⑴声掛けは行っていたが、コロナ感染予防の為、外部研修は本人希望で参加しない職員もいた。今後も参加促しを行いつつ、部署内の勉強会を強化していく
	②	資格取得の推進と強化	⑴資格未取得・スキルアップの為の資格と推進	⑴　０%	⑴資格希望・研修がなかった為、発信できていない。今後ある際、情報提供していく
	③	プリセプター制度の導入	⑴プリセプター制度導入と定着	⑴１００%	⑴新人育成は出来ていた。今後は、中途採用のプリセプター制度の在り方について考えていく
Ⅲ	①	利用者定数を満たす	⑴稼働率を意識する	⑴　８５%	⑴亡くなった方が多く空床はあったが、怪我や入院等での空床は防げた。今後も意識しながら行っていく
	②	経費軽減	⑴コスト削減	⑴　５０%	⑴物が故障する事多く、使い方が間違っていた。今後は環境を整えながら正しい使い方を指導していく
Ⅳ	①	情報の共有化・働きやすい環境	⑴積極的な意見交換	⑴　７５%	⑴人員不足により、実施出来ず。会議は行えていなかったが、日々の

			⑵業務環境を整える ⑶有給休暇の取得	⑵　９０％ ⑶　　０％	業務内で意見交換は行えていた。今後は些細な事でも意見交換を積極的に行って行く ⑵随時行えていた。今後も何かあった際は見直しを行う ⑶人員不足により行えませんでした
Ⅴ	①	地域共生社会を目指したサービス	⑴地域行事の参加	⑴　　０％	⑴コロナ感染症流行で実施できていない 落ち着いて参加できる機会があった際は参加していく
	②	社会貢献への実施	⑴対応困難な方の受け入れ	⑴　８０％	⑴積極的に受け入れしていたが、正しい情報が伝えられず、事故につながるケースがあった。今後は事務所及び家族と連携しながら正しい情報を収集していく

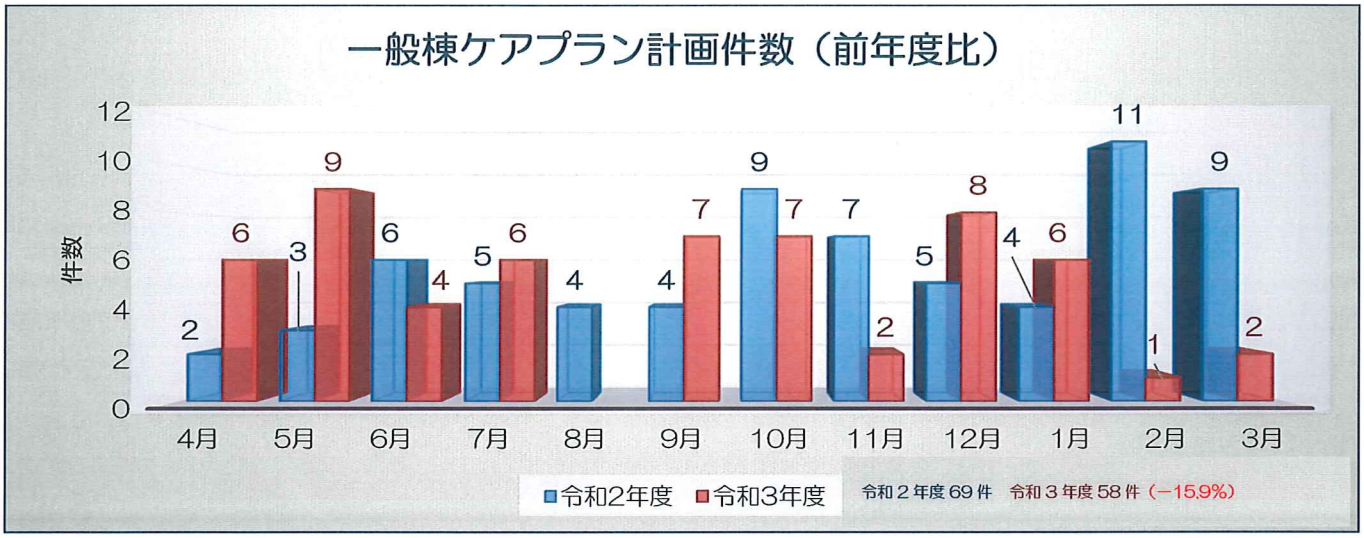
４）ケア第３（特別養護老人ホーム　ユニテ　けいわ：さくら・ひまわり）

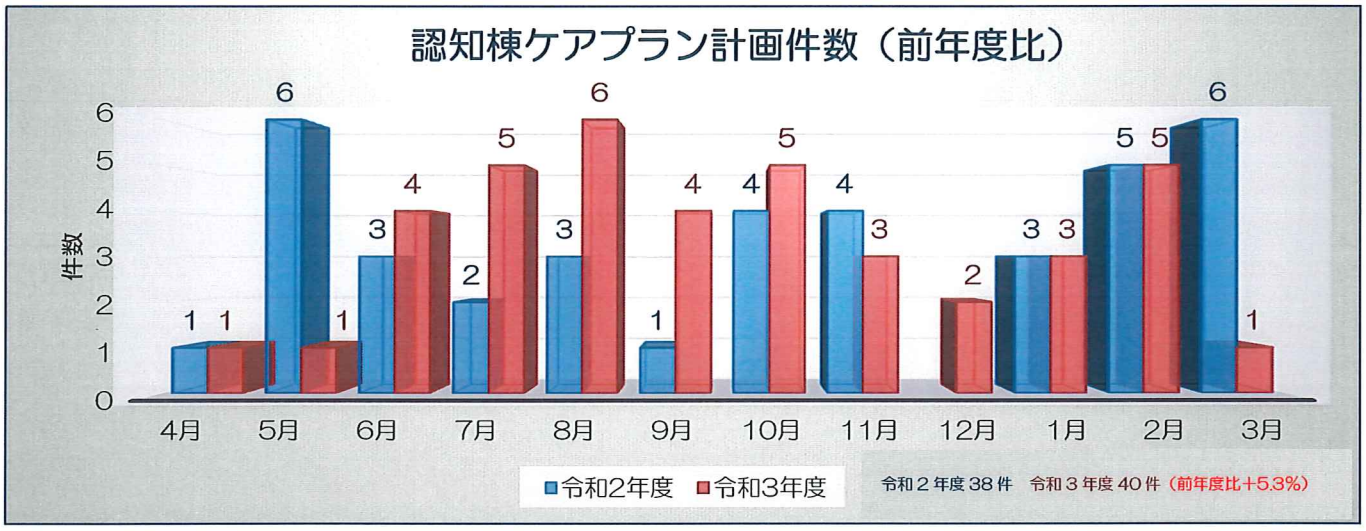
事業計画				結果	
重点取り組む事項	具体的目標		指標・成果	達成率（％） ※指標ごとに記入	具体的達成状況と今後の課題
Ⅰ	①	利用者の尊重	⑴ご利用者のニーズを大切にする ⑵ご利用者個々の支援を重視したサービスの実践	⑴　80％ ⑵　80％	⑴・⑵ 常にご利用者とコミュニケーションを取る事を心掛け、ご利用者の思いに沿ったケアを実践出来た。しかしご利用者からの不満が聞かれる事があったので、今後もコミュニケーションをとり信頼関係を持ちながら、満足して頂けるような関り、ケアを実践する
	②	質の高い自立支援	⑴チームケアの充実を目指し業務の見直し、ICT 化の定着を図る ⑵残存機能を活かしたケアの提	⑴　75％ ⑵　80％	⑴ミーティングや会議に置いて業務の見直し改善、情報共有を図りチームケアの充実を図った。継続的にチームケアが充実出来る様に情報共有、業務の見なおしを行っていく ⑵ケアプラン、PT と連携を取り

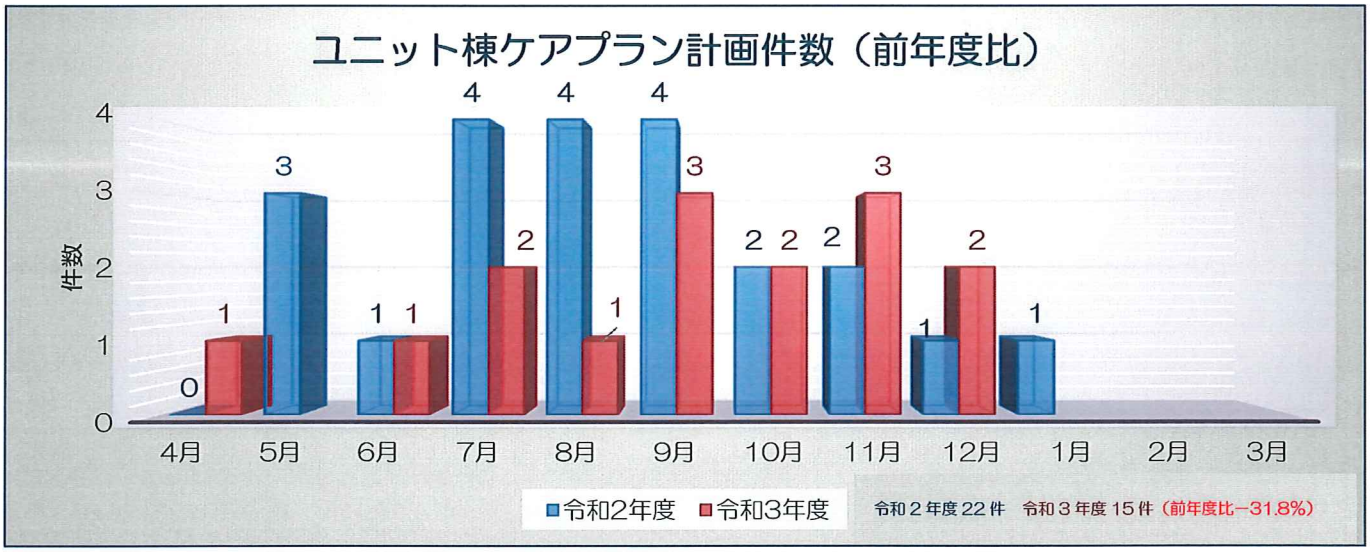
			供		残存機能を活かしたケアに取り組んだ。ご利用者のご意向も汲み取りながら今後も継続して行っていく
	③	家族との連携	⑴行事参加への積極的な呼びかけ ⑵面会時、ご家族とのコミュニケーションを積極的に図る	(1)　0% (2)　0%	(1)・(2) コロナ禍の為、ご家族をお呼びしての行事を行う事が出来なかった。又面会も職員は関わる事が出来ずコミュニケーションを図る事が出来なかった。直接会う事が出来なくてもご家族との関係を築けるような対応を検討する
Ⅱ	①	研修の充実	⑴施設内・外への研修参加	(1)　50%	⑴施設内部への研修参加の呼びかけを行ったが参加率は増えていない。外部研修はコロナ禍の２名のみの参加となった。機械がある際には積極的に参加促していく
	②	人材定着のための取り組みとチーム力の育成	⑴チームワークと信頼関係の構築 ⑵働きやすい職場環境	(1)　50% (2)　50%	(1)・(2) 信頼関係を構築する事が出来ない職員がおり相談や情報交換を行う事が出来ていなかった。それにより周囲の職員が影響を受ける事があり働きやすい職場環境を作る事が出来なかった。それに対するアプローチが不十分であった。職員間での信頼関係が構築され働きやすい環境を整えていく
	③	資格取得の推進と強化	⑴資格未取得、スキルアップのための資格取得と推進	(1)　80%	⑴面談時に介護福祉士取得、介護支援専門の資格の取得や更新研修を推進や情報提供を行った。今後も資格取得に向け情報提供を行っていく
Ⅲ	①	利用者定数を満たす	⑴稼働率を意識し空床期間を短縮する	(1)　50%	⑴空床期間を短期入所に利用することなく、長期間空床のままにしてしまう事があった。短期入

					所利用が出来る様環境を整え受け入れをしていく
	②	業務の見直しと経費削減	(1)業務の効率化と改善 (2)経費削減	(1)　75% (2)　75%	(1)業務の見直しと休暇の取り方につい当て改善を行った。継続して行っていく (2)物品の見直し、節水、節電に努めた。継続して行っていく
	③	中間管理職の育成	(1)マネジメント教育の取り組み (2)コーチング教育の取り組み (3)適した教育を行う環境の構築	(1)　50% (2)　50% (3)　50%	(1)・(2)・(3) 職位に合った研修に参加させることができたが、コロナ禍の為中止となる事もあり十分な勉強の機会を設ける事が出来なかった。年２回の面談実施コーチングを行った。今後も職位に合った研修の促し、教育を行っていく
Ⅳ	①	情報の共有化を図る	(1)情報共有しやすい環境づくり	(1)　80%	(1)毎月のミーティング、毎日の引継ぎを行う事で情報共有する事が出来た。継続して行っていく
	②	報告・連絡・相談の習慣化	(1)チームワークの原点	(1)　75%	(1)日々の関りの中で報告、連絡についてはおこなえていたが職員関係が上手く構築出来ていない事もあり、相談をしにくい環境があった。相談しやすい環境、職員関係が上手くいくよう働き掛けていく
	③	モチベーションの向上	(1)やりがいのある職場づくり	(1)　75%	(1)目標を設定する事で意欲的に行動する機会を設ける事が出来た。継続して行っていく
Ⅴ	①	地域共生社会を目指したサービス	(1)地域密着会議の実施 (2)外出や地域行事への参加	(1)　50% (2)　0%	(1)コロナ禍にあり書面形式での実施になった (2)コロナ禍の為実施する事が出来なかった
	②	社会貢献への実践	(1)体験学習や実習生の受け入れ	(1)　20%	(1)コロナ禍にあり初任者研修の実習しか受け入れる事ができなかった 受入れの機会があれば積極的に受け入れていく

５）施設ケアマネジャー


一般棟ケアプラン計画件数（前年度比）
件数
4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月
令和2年度 令和3年度
令和２年度69件 令和３年度58件（−15.9%）

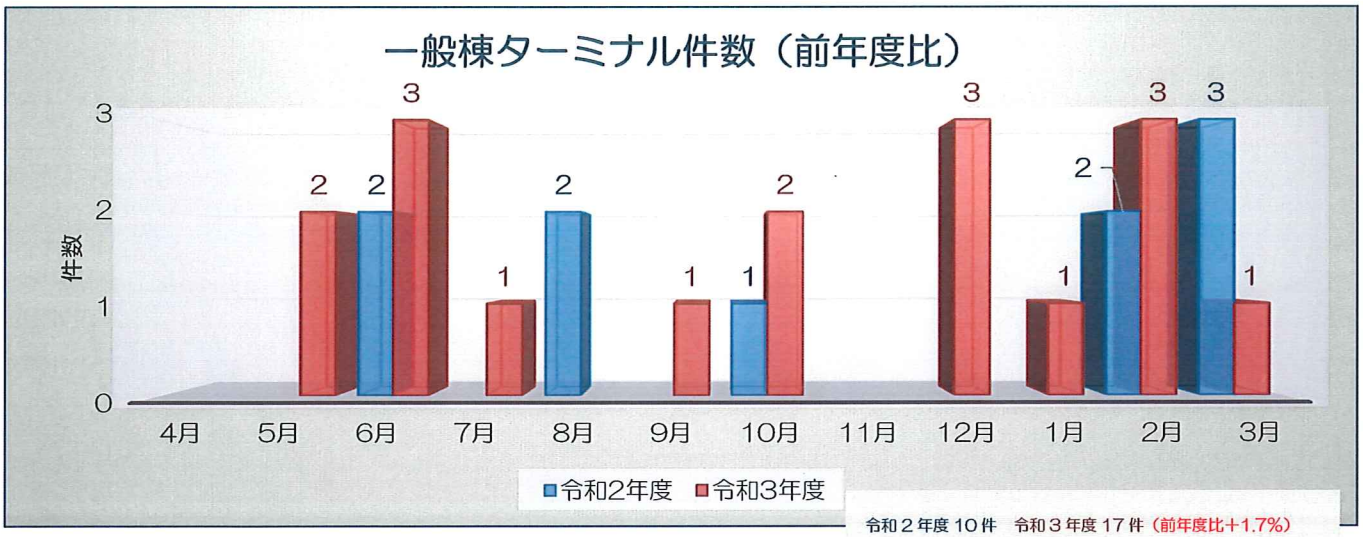

認知棟ケアプラン計画件数（前年度比）
件数
4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月
令和2年度 令和3年度
令和２年度38件 令和３年度40件（前年度比+5.3%）

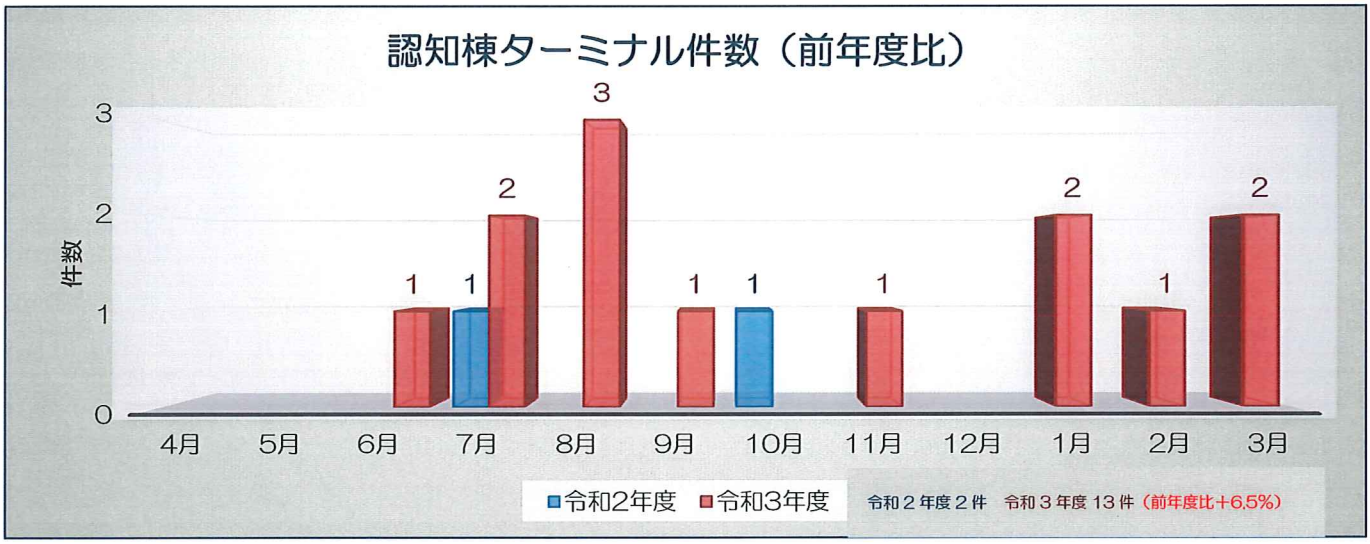

ユニット棟ケアプラン計画件数（前年度比）
件数
4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月
令和2年度 令和3年度
令和２年度22件 令和３年度15件（前年度比−31.8%）

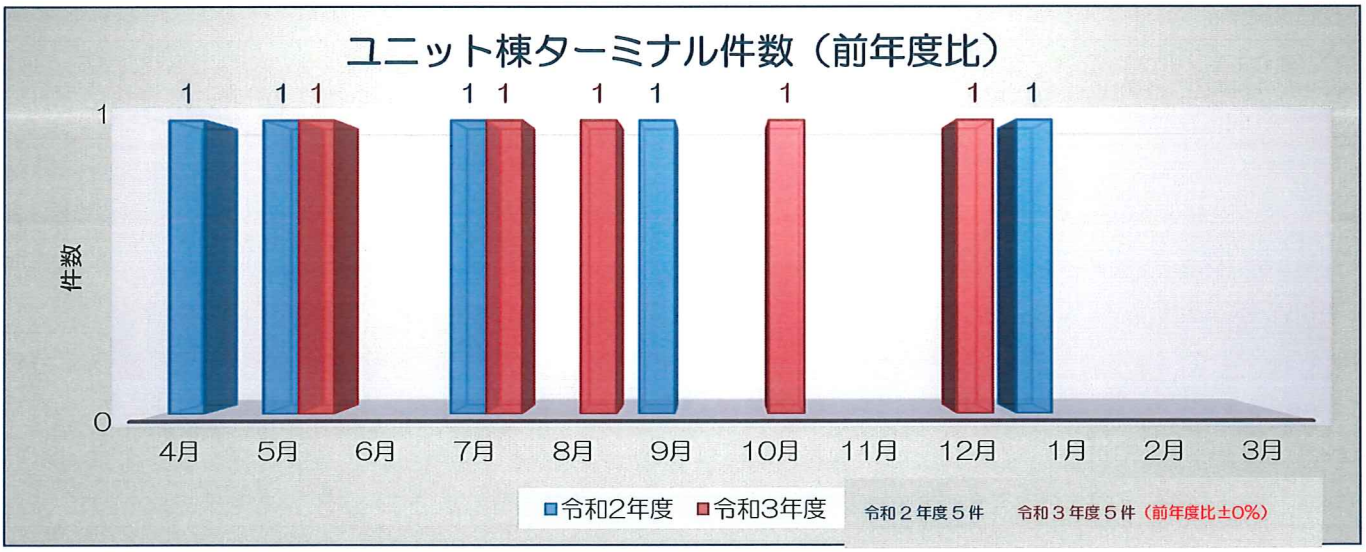
事業計画				結果	
重点取り組み事項	具体的目標		指標・成果	達成率（%）※指標ごとに記入	具体的達成状況と今後の課題
Ⅰ	①	利用者様の尊厳の保持	(1)その人らしい生活の実現 (2)意向に基づいたケアの実現 (3)個別な関わりの時間	(1) 50% (2) 70% (3) 50%	(1)･(2)･(3) 意向や個々のニーズに合わせたプランニングするも業務に追われ個別的な関りや支援がなかなかできない事もあった 適宜お話しをし、生活に対する意向を確認は行った
	②	利用者様の自立の支援	(1)その人にできる事を引き出すケアプランの作成。 (2)意欲向上や自信に繋げる支援の実施。 (3)評価･モニタリングの徹底	(1) 80% (2) 70% (3) 50%	(1)・(2) 自立や意欲向上の為のプ計画を立てる事ができた。出来る事は自身で行っていただけるようケアワーカーにも働きかけた (3)評価が遅れる事が多々あり、進捗管理をしっかり行っていく必要がある
	③	家族との信頼関係の構築	(1)定期的な状況報告と意向の確認 (2)事故や苦痛のない生活の支援	(1) 50% (2) 80%	(1)変化があればその都度報告ができたが、その他の方は定期的な連絡はできなかった (2)ターミナルケアが多くあり安全安楽な最期を支援できた。事故が多々あり対策できる事もあったかと反省点もあった
Ⅱ	①	研修参加と内容の共有	(1)得た知識･情報の共有 (2)ケアマネ業務の進捗状況や意見交換の場がある (3)研修への参加	(1) 70% (2) 60% (3) 70%	(1)共有には努めたが、自分の伝える力に不足を感じた (2)ケアマネ部会の開催があまりできなかったが個別での意見交換などは頻繁に行えた (3)参考になりそうな研修など進めていただき参加できた
	②	根拠に基づいたケアの取り組み	(1)科学的根拠に基づくケア実施の目的の周知 (2)適切な記録と評価	(1) 50% (2) 70%	(1)根拠が大事である事、根拠を記録に残す事をケアワーカーにも伝えたが、計画書以外の内容になると記録として残らない情報もあり周知に至らなかった (2)支援経過に些細な変化も残すよう努

			(3)多職種との連携・情報共有	(3) 70%	めた (3)照会でのケース会議開催も多く多職種との連携が必須だったが、情報が行き届かなかったりと反省するところもあった
	③	施設ケアプランの目的･理念の周知	(1)施設ケアプランの役割の周知 (2)ケアプランに基づいたケアの提供 (3)尊厳の保持･自立支援の定着	(1) 50% (2) 70% (3) 50%	(1)コロナ禍で短時間での会議開催や書面開催が多くケアプランの役割についてお話する機会がなかった (2)決められた対応がなかなか周知出来ない状況もありその都度必要性やケア方法再確認した (3)尊厳保持や自立に繋がるプラン作成し関わり方や細かい支援方法なども周知できるよう努めた
Ⅲ	①	加算に繋がる取り組み	(1)科学的根拠に基づくケアに向けた取り組み (2)ADL 維持･向上に繋がる取り組み (3)ケアの質の向上	(1) 50% (2) 50% (3) 50%	(1)研修にも参加し学ばせていただいているが頭で理解できても実践が難しく取り組みとしては不十分だった (2)LIFE も開始され、褥瘡や排泄に対する意識が向上し加算に繋がるようプランニングしている (3)LIFE の取り組みを施設全体で理解しケアの質に繋がるよう発信した
	②	ICT 化の定着	(1)業務の効率化と改善 (2)ペーパーレス化による経費削減	(1) 60% (2) 10%	(1)ケース担当との時間調整や欠員により会議が延期になるなど上手く進まない事もあった (2)会議参加人数分のケアプラン配布や会議日程の変更により再度プリントするなど削減が難しかった
Ⅳ	①	情報の共有	(1)報告･連絡･相談の習慣化	(1) 80%	(1)些細な事も上司やケアマネ同士報連相行えた
	②	多職種との連携強化	(1)情報の共有 (2)職種間を繋ぎ情報がスムーズに	(1) 70% (2) 70%	(1)・(2) 変化や特変があった時には情報を共有するよう努めたが新規入所も多く確認不足な部分もあった
Ⅴ	①	地域の中で求められるケア	(1)在宅サービス･家族との連携 (2)地域活動への参加	(1) 60% (2) 30%	(1)家族との連携は相談員と協力し行えた (2)コロナ禍であり活動への参加はできていない

6）医　　務


一般棟ターミナル件数（前年度比）
件数
0
1
2
3
4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月
2 2 3 1 2 1 1 2 3 1 2 3 3 1
令和2年度
令和3年度
令和２年度 10件　令和３年度 17件（前年度比+1.7%）


認知棟ターミナル件数（前年度比）
件数
0
1
2
3
4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月
1 1 2 3 1 1 1 2 1 2
令和2年度
令和3年度
令和２年度２件　令和３年度 13件（前年度比+6.5%）

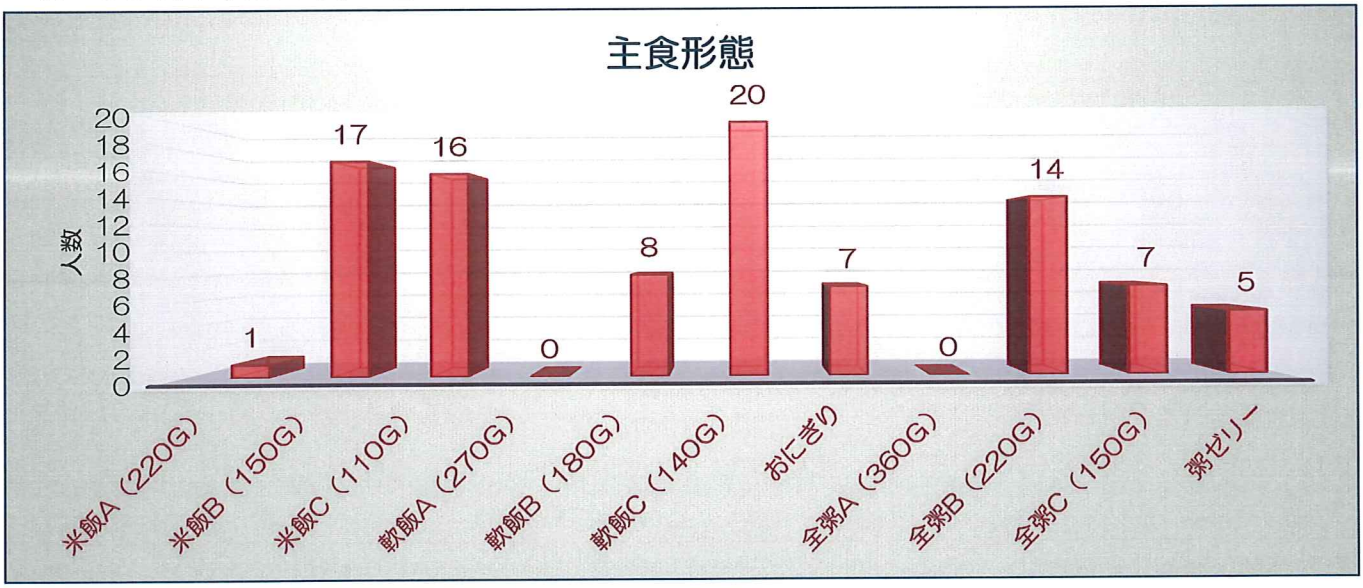

ユニット棟ターミナル件数（前年度比）
件数
0
1
4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月
1 1 1 1 1 1 1 1 1
令和2年度
令和3年度
令和２年度５件　令和３年度５件（前年度比±0%）

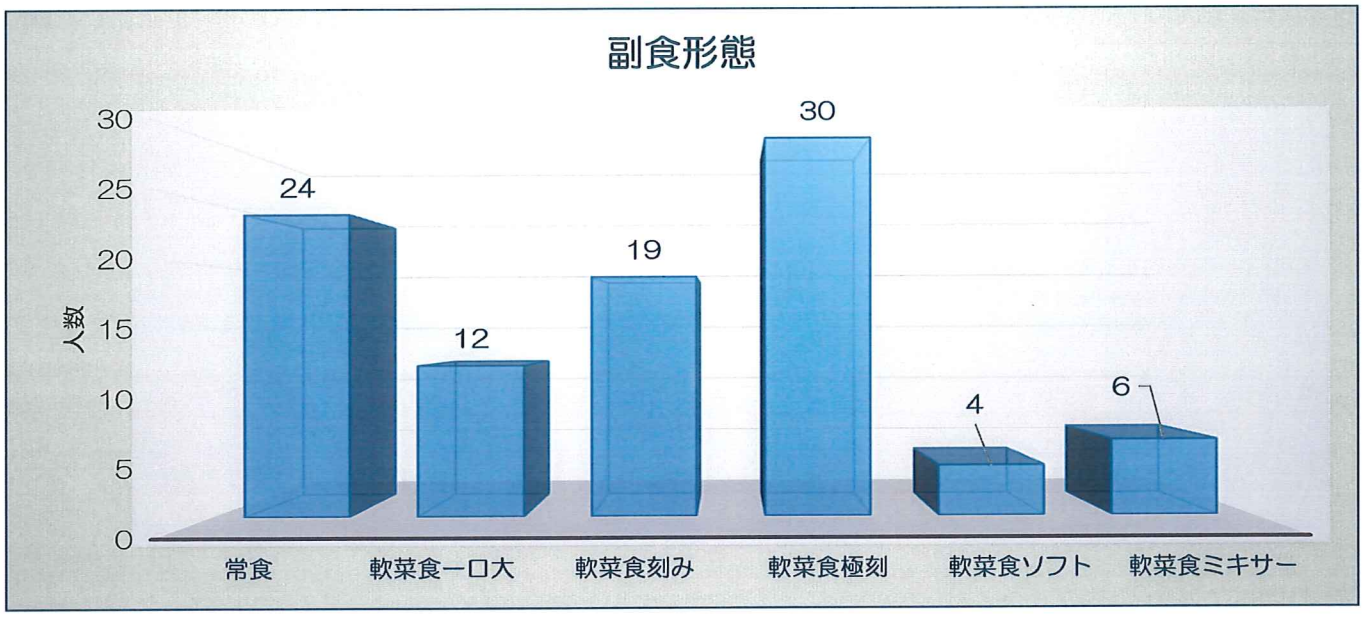
事業計画			結果	
重点取り組み事項	具体的目標	指標・成果	達成率（%） ※指標ごとに記入	具体的達成状況と今後の課題
Ⅰ	①ご利用者、ご家族の意向に沿ったケア	⑴ご利用者の健康管理 ⑵ＱＯＬの向上 ⑶ご利用者、ご家族とのコミュニケーション	⑴１００% ⑵　８０% ⑶　８０%	⑴新型コロナウイルス感染症予防に努めるとともに、ご利用者の体調変化に常に注意することができた ⑵・⑶ 行動範囲が制限される中で、ＱＯＬの向上やご家族とのコミュニケーショに関しては十分とは言えなかった
	②ご利用者ファースト	⑴意向に沿っているかのアセスメント	⑴　９０%	⑴身体的な状況を把握し、ご本人の意向をできるだけ優先するケアに努めることができた
	③ご利用者、ご家族の信頼関係の構築	⑴ケアプランに反映され実施できているか	⑴　８０%	⑴感染対策によりご家族とのコミュニケーションは対面で十分にできる状況になかった。看取りケアのご利用者とご家族には実施できた
Ⅱ	①研修の参加	⑴施設内研修、外部研修の参加	⑴　９０%	⑴zoom での研修に多く参加できた。今後も活用していきたい
	②多職種協働	⑴多職種との連携	⑴　８０%	⑴プリセプター制度の導入により、職員教育の基盤が築けた
	③自己学習	⑴ご利用者の適切な医療ケアの提供	⑴　９０%	⑴生活の中でできることを工夫し、安全に過ごせるよう情報共有し対応することができた
Ⅲ	①感染予防に努める	⑴施設内での感染を起こさない	⑴　９０%	⑴コロナ感染者となった職員もいたが、ご利用者の感染はなく今後も感染対策を徹底していきたい
	②ショートステイの受け入れ	⑴ショートステイの安定した稼働	⑴　８０%	⑴ショートステイご利用者の受け入れにより感染リスクもあるため、十分な情報収集と観察を実施していく必要がある
	③衛生材料費、光熱費の削減	⑴コスト意識をもって業務を行う	⑴１００%	⑴光熱費の無駄削減に努めることができている 衛生材料費のコスト管理、見直しを実施できている
	④ＩＣＴの活用	⑴ＩＣＴの活用	⑴　６０%	⑴施設内の情報共有には役立ってい

				るが、タブレットを施設外に持ち出すことができず病院受診時に活用できない
Ⅳ	①情報共有を図る	⑴コミュニケーションを大切にする	⑴　９０％	⑴看護師間の情報共有はできている 異職種とのコミュニケーションも大切なので意識して行っていく必要がある
	②チーム力の強化	⑴不足しているところを補える関係性 ⑵チームとしての方向性を確認できている	⑴　８０％ ⑵　９０％	⑴・⑵ スタッフの人数と業務のバランスが難しい中、自分で考えて協力していく姿勢をもつ 看取り介護のご利用者に十分関わることができるようにチームワークを大事にしていきたい
Ⅴ	①地域の中で求められるケアの提供	⑴ショートステイの受入れ ⑵在宅サービスとの連携	⑴　８０％ ⑵　８０％	⑴・⑵ 感染リスクに十分注意した上で、在宅ケアマネとの連携を図りながら地域のニーズに対応していく必要がある
	②看護学生の受け入れ	⑴看護学生が施設を理解することができる	⑴　　０％	⑴感染対策により外部の立ち入りを制限したため実施できなかった。 今後、受け入れのための条件や施設の対応を検討する必要がある

7）栄　養（入所者定員：100 名・欠員３名）

☆　95 名＋経管栄養２名＝97 名





事業計画				結果	
重点取り組み事項	具体的目標		指標・成果	達成率（%） ※指標ごとに記入	具体的達成状況と今後の課題
Ⅰ	①	食事サービスの充実	⑴利用者の食事に対する満足度の向上	⑴　90%	⑴嗜好調査の結果、90%の食事満足度評価だった。お食事ご意見箱を活用し、ご利用者の満足度を上げられるように取り組んでいく
			⑵その人にあった食事形態の選択	⑵　80%	⑵ミールラウンドを週３日以上実施し、その人にあった食事の選択ができた。感染症対策の一環で、各フロアの立ち入りが禁止になった際、ご利用者の状況確認を介護職員と密に連携ができるようしていきたい
			⑶安心・安全な食事の提供	⑶　90%	⑶HACCP 制度の導入により、衛生管理や事故防止の徹底ができた。委託業者による自主衛生診断も定期的に行った。今後も継続して安心・安全な食事提供に努める

	②	ご家族への情報提供	⑴食事サービスの情報発信	⑴100%	⑴栄養課通信（めるしぃ）を滞りなく発信することができた。けいわ荘のお食事をより知って貰えるような内容を考えていきたい
Ⅱ	①	職員の専門性の向上	⑴栄養士、調理師の知識、技術の充実化 ⑵敬和会全体の栄養士、調理師のスキルアップ	⑴　40% ⑵　33%	⑴栄養部門合同会議を年２回実施した。年６回開催予定だったが、感染症の為、中止や延期となる。書面開催等、情報共有ができるよう取り組んでいきたい ⑵栄養部門合同研修を年１回実施した。年３回開催予定だったが、感染症の為、中止や延期となる。状況を確認し、開催できるか判断していきたい
	②	研修の充実	⑴施設内研修での交流 ⑵外部研修での学習	⑴　80% ⑵　50%	⑴積極的に施設内研修へ参加し、他部署との職員交流がみられた。施設内研修へ参加できるような、勤務表の調整を行う ⑵栄養士は、外部研修としてZOOM研修に参加したが、調理師の外部研修は出来ていない。外部研修の情報が少なかったこともあるが、介護食に関係する研修に参加してもらえるよう促していく
	③	新人職員の育成	⑴新人教育の統一 ⑵サポートの充実	⑴　50% ⑵100%	⑴新人職員に対する教育として、担当者を置き、OJTの見直しを行った。新人教育体制のマニュアルの作成ができていない為、それを踏まえて今後マニュアル作成に取り組みたい ⑵新人職員に対して、定期的

					な意見交換が出来る場を設けた。継続してサポートの充実を図りたい
Ⅲ	①	コスト削減	⑴食材費の安定	⑴　80%	⑴適正在庫量、食材発注量を見直しの検討を行った。月間の食材費の変動を少なくできるようにする
			⑵厨房運営の適切な人数配置	⑵　80%	⑵作業効率化や簡易化について、栄養課会議で検討し、厨房運営に関して必要な人数配置ができている。継続して取り組んでいく
			⑶業者の選定	⑶100%	⑶令和３年12月より、取扱業者を増やし、業者別に比較して価格交渉や食材の選定ができるようにした。それにより、選択肢を増やし、コスト削減に繋げられている
	②	介護報酬改定による対応	⑴新規利用者の獲得	⑴　0%	⑴通所介護利用者の栄養ケアを行うことができなった。新規利用者を獲得できるように、計画的に実行していきたい
			⑵栄養に関する加算の実施	⑵　50%	⑵特養の栄養マネジメント強化加算として、加算取得ができたが、通所介護の栄養改善加算への取り組みができなかった。管理栄養士の配置基準が整い次第、順次取り組んでいく
	③	食事をPR	⑴食事イベント継続的開催	⑴　80%	⑴いきいき健康教室やブランチバイキング等のイベントの実施に関して、蔓延防止により、中止になってしまうこともあった。給食委員中心となり、各部署で新しいイベント食の企画を考

			⑵魅力的な食事の提供	⑵100%	え、感染症対策を行ったうえで、食事イベントを開催することができた ⑵行事や旬に合わせた献立作成ができている。料理の質を落とさないよう、ご利用者の声を大事にして、取り組んでいきたい
Ⅳ	①	働きやすい職場環境づくり	⑴信頼関係の構築 ⑵厨房内作業の標準化	⑴　50% ⑵　70%	⑴年１回のパート職員面談の実施。職員全員がコミュニケーションをとれるような、仕事以外での交流の機会を作る ⑵厨房作業のマニュアルを作成し、厨房内作業の標準化に努めている
	②	職員の団結の強化	⑴報告・連絡・相談の習慣化 ⑵責任感を養う	⑴　70% ⑵　80%	⑴連絡ノートを作り、全員が把握できるような形式に統一。報告忘れ等ミスも多少みられる為、無くせるような方法を考えたい ⑵一人一人が責任を持って、業務に取り組む姿勢がみられる。組織の一員としての、態度や言動を見直す機会を作れるようにしていきたい
	③	モチベーションの向上	⑴意見箱の反映 ⑵適度なリフレッシュを作る	⑴100% ⑵100%	⑴ご意見箱の内容を部署内に掲示し、モチベーションの向上に繋げられている ⑵休暇を取りやすい勤務体制の他、有休消化も年５日取得できている。５日以上の有休消化に努めたい
Ⅴ	①	地域へ食支援サービス	⑴地域に向けた健康教室の実施	⑴　0%	⑴密集したイベントの開催が困難の為、未達成となる。高齢者向けの地域の健康教室は開催未定の為、再度検討が必要

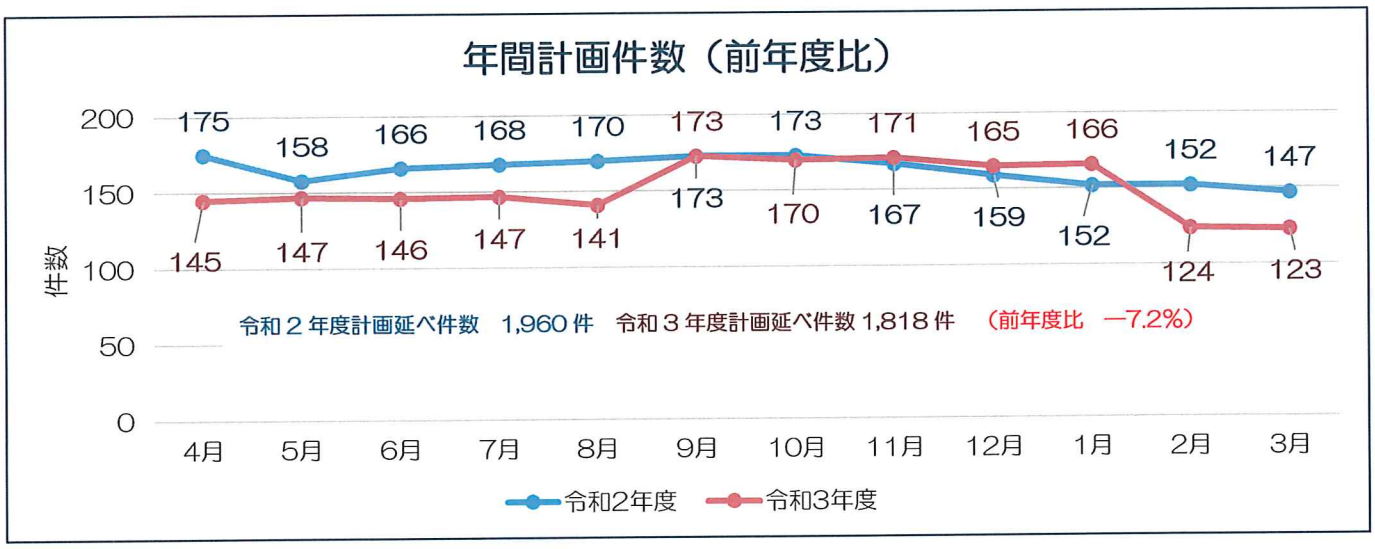
			⑵多職種との連携の強化 ⑶高齢者から子どもまでの食育	⑵　50% ⑶　50%	⑵包括や通所介護等と連携し、けいわ荘の食事を地域へPRしている。今後も多職種との交流の機会を持ち、食支援活動に力を入れる ⑶保育園との情報交換においては、栄養部門合同会議により実施している。食育活動において、相互に協力できるよう今後も連携していく
	②	情報発信の強化	⑴ホームページによる記事投稿	⑴　25%	⑴食事に関する記事投稿において、担当者が不在のため、後期から投稿ができていない。今後担当者を決めるかは未定

2．地域支援課（居宅介護支援センターけいわ荘）

事業総括

令和２年度より、引き続き新型コロナウイルス感染予防に徹する１年間でした。各事業所で新型コロナウイルスが発生したとしても、事業所としての運営を止めず、地域の方々やご利用者へ不安を与えない様に業務従事しました。また、新たな試みとして各事業所業務にタブレット活用を取り入れ、ご利用頂いているご利用者へも柔軟に対応してまいりました。

Ⅰ）居宅介護支援



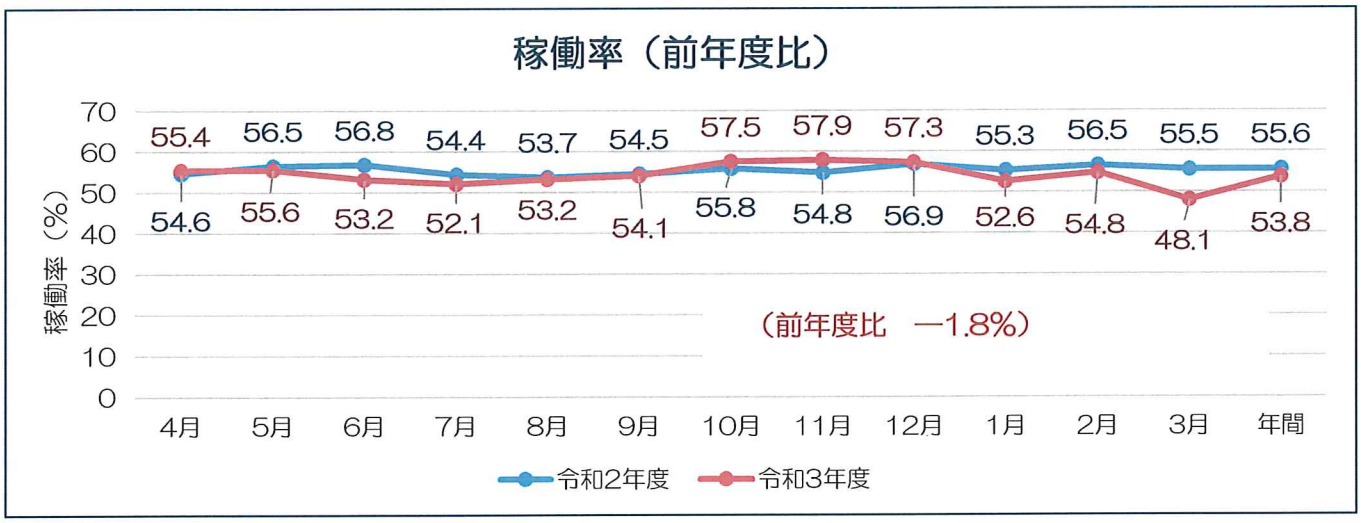
事業計画				結果	
重点取り組み事項	具体的目標		指標・成果	達成率（%）※指標ごとに記入	具体的達成状況と今後の課題
Ⅰ	①	定期的な訪問を行い、ご利用者・家族との面談機会を確保しニーズを把握する	⑴ご利用者の新しい情報の管理と情報共有する ⑵面談機会を確保し細かいニーズを把握する ⑶適切・早期のサービス調整ができる	⑴100% ⑵　80% ⑶100%	⑴訪問時、タブレットを利用し情報管理、共有する事ができた ⑵コロナ予防の為、訪問時の面談時間の短縮や電話を利用しての情報共有を意識、実践した ⑶希望、ニーズ確認し次第、関係事業所と協議し早期調整できた
	②	自助・互助を含め、自立支援へのプランニングが出来ている	⑴本人・家族のできる事に着目してサービス選定ができる ⑵自立支援に沿った目標設定ができている	⑴100% ⑵100%	⑴自助互助を意識したケアプランを作成できた ⑵本人の意向を確認し、目標設定文言が単一化しないよう努め、実行できた

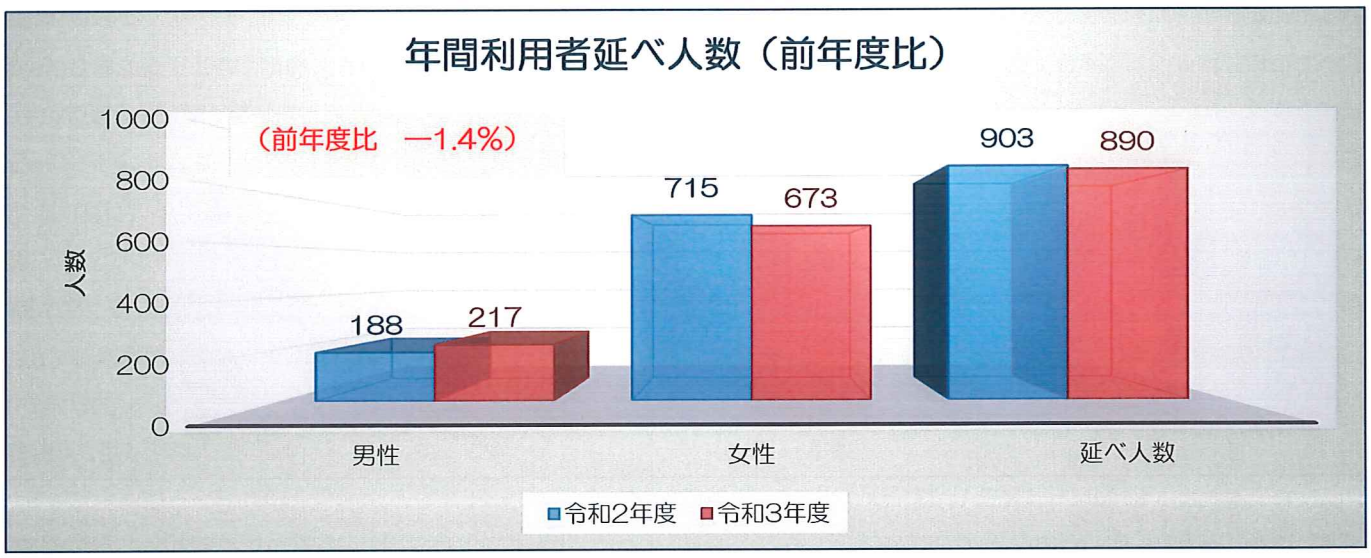
	③	ICT を活用した支援	⑴ケアマネ業務の中でタブレットを活用できていること ⑵インターネットを使用した情報提供ができていること	⑴100% ⑵　50%	⑴２月～４月まで感染対策としてZOOM を活用した業務形態を取り入れた。タブレットを利用する機会が増え、業務活用に繋がった ⑵事業所間の連絡手段にはメール等活用できたが、御利用者への連絡手段としての活用はできなかった
Ⅱ	①	休みやすい環境を整え、職員がリフレッシュできていること	⑴年次有給休暇を年５日以上取得している ⑵希望休を前もって申告できる環境をつくる ⑶休日対応できる職員を配置する事で公休日の連絡・対応を避ける	⑴100% ⑵100% ⑶　50%	⑴職員全員年間有休５日以上取得する事ができた ⑵前月の中旬までに希望休を申告する機会をつくり、確実に希望休を取る事ができた ⑶土曜・祝日に職員配置しているが、他事業所より直接携帯電話に連絡来る事があり、休日対応せざるを得ない時があった。今後は事業所を経由して貰える様に周知していく
	②	相談しやすい人間関係の構築	⑴悩みや問題を共有する機会をつくる	⑴　50%	⑴月１回面談する機会を設けていたが、問題の把握やコミュニケーションを十分取れていなかった
	③	個別ケアが出来るケアマネジャーの育成	⑴職員個々がスキルアップしている ⑵ケアマネの専門知識・経験値の取得 ⑶利用者本人の全体像を捉える事ができる	⑴100% ⑵100% ⑶　８０%	⑴・⑵ 目標援助シートを活用し、スキル向上する為の研修会へ参加した事で専 門知識を取得する事ができた ⑶アセスメントシート見直す機会を作る事で定期的に本人の全体像を捉える機会を作った
Ⅲ	①	特定事業所加算Ⅱを維持する	⑴新たな主任ケアマネジャーの育成 ⑵加算維持に必要な研修等の参加 ⑶介護保険改正内容の把握	⑴　０% ⑵100% ⑶100%	⑴今年度主任ケアマネ資格取得する人材の該当はいなかった ⑵特定事業所加算Ⅱを維持する為に必要な事はすべて行い、加算維持する事ができた ⑶法改正の研修会へ参加し重要事

			と対応ができている		項説明書等の修正にも対処した
	②	担当件数の上限を維持する	⑴積極的な新規の受け入れ ⑵地域包括支援センターとの連携を行う ⑶病院MSWとの連携を密に行う	⑴５０％ ⑵100％ ⑶100％	⑴人員基準の許す限り、新規受け入れを行った ⑵地域包括支援センター主催の研修会や連絡会へ参加し情報共有を行った ⑶コロナ禍であったが病院からのカンファレンス参加依頼にはできるだけ参加した
	③	職員個々でコストカットの意識を持つ	⑴ペーパーレスできる業務の把握と実施 ⑵SNS を利用した業務連絡を行う	⑴100％ ⑵100％	⑴・⑵ 職員内でメール、タブレットを使用紙ベースでの連絡、伝達手段を見直し、提出書類等の削減を行った
Ⅳ	①	相談しやすい雰囲気をつくる	⑴ケースごとに報連相を行う ⑵中堅職員がコーチングスキルを取得する ⑶仕事以外でもコミュニケーションをとれる環境をつくる	⑴１００％ ⑵　５０％ ⑶　　０％	⑴ミーティング時に報連相を行う時間を取っている。新規や悩み等にはすぐに対応出来た ⑵事業所内でコーチングの練習は行ったが、コーチングの研修会への参加ができなかった ⑶新型コロナ予防を意識し、仕事以外でコミュニケーションをとる機会を持たなかった
	②	仕事しやすい環境を整える	⑴事業所内の整理整頓 ⑵癒しの空間をつくる ⑶休み時間をとる	⑴１００％ ⑵１００％ ⑶１００％	⑴定期的に整理・清掃できた ⑵緑を配置し癒し空間を意識した ⑶休み時間を取る事ができた
	③	ICT を活用したコミュニケーションをとる	⑴一人の情報発信を全員で確認でき、共有するツールをつくる	⑴100％	⑴ラインや ZOOM を使用し、発信・共有できるツール作成ができた
Ⅴ	①	地域との連携体制をつくる	⑴地域の行事へ参加していること ⑵地域課題の把握と改善案の提案をしている	⑴　　０％ ⑵　５０％	⑴地域行事参加機会がなかったため、参加できなかった ⑵地域の情報収集は出来たが、改善案等の提案はできなかった 今後機会があれば行っていく
	②	地域包括支援センターと連携する	⑴包括支援センター主催の研修に参加 ⑵地域ケア会議への参加	⑴１００％ ⑵　　０％	⑴荻野地域包括支援センター主催の研修会へ全て参加した ⑵地域ケア会議の開催がなかったため参加していない

					今後、参加依頼があれば参加していく
	③	地域内での困難ケースを受け入れる	⑴行政・医療等多職種を巻き込んだ支援ができている	⑴１００％	⑴支援困難事例として依頼を頂いたケースに関しての新規は全て受け入れ対応した

Ⅱ）通所介護（定員：45 名/日）

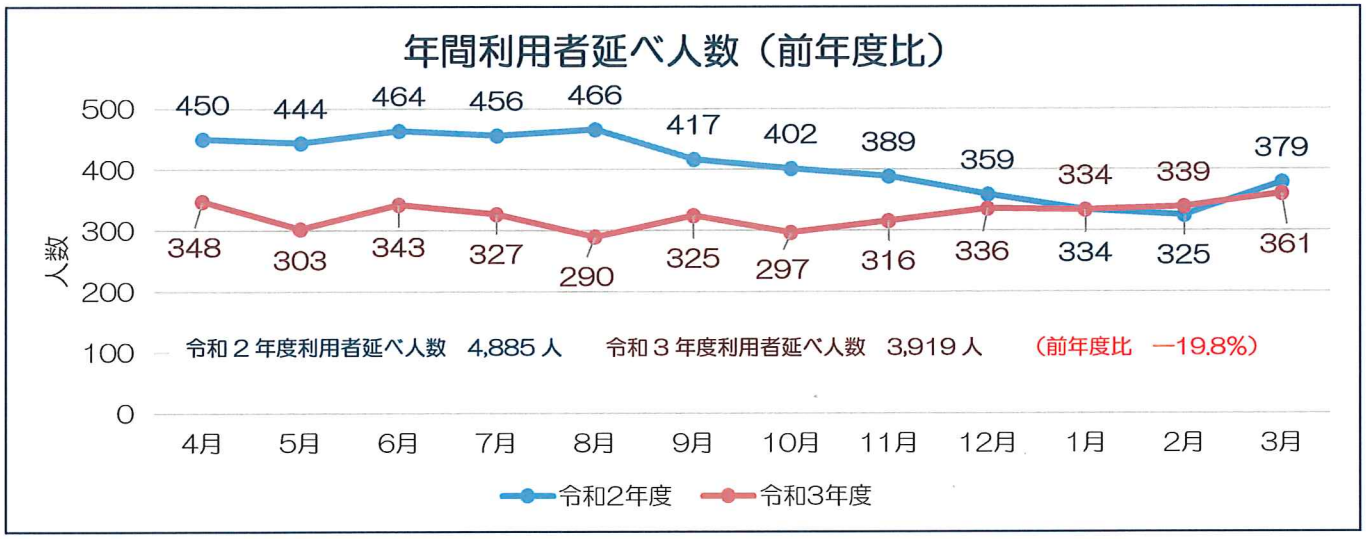


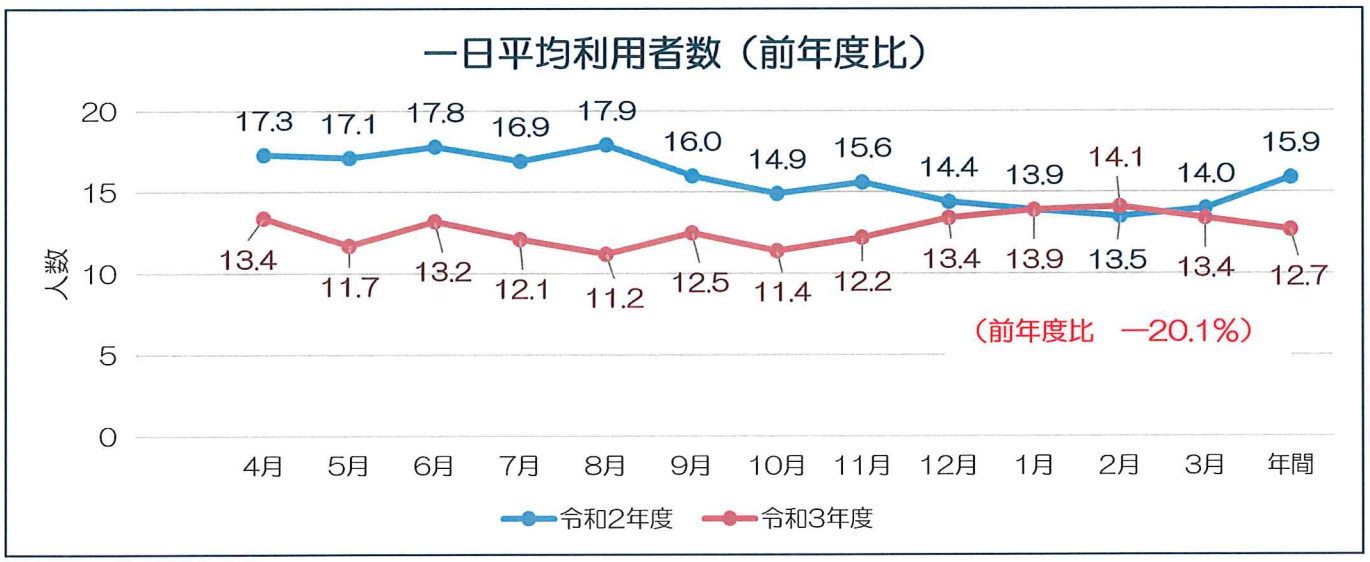


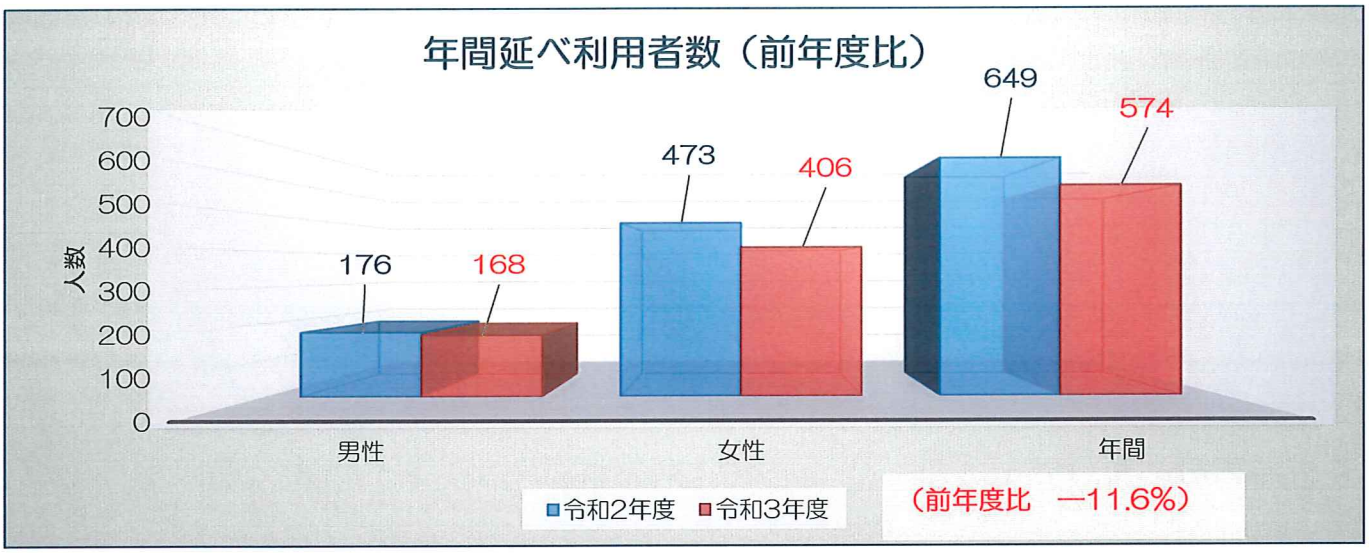
事業計画				結果	
重点取り組み事項	具体的目標		指標・成果	達成率（%） ※指標ごとに記入	具体的達成状況と今後の課題
Ⅰ	①	家族、介護者支援の充実	(1)介護負担の軽減	(1)　９０%	(1)臨時利用、振替利用や、早帰り→遅帰りなど家族の意向に沿って、対応出来た。今後も相談、傾聴も含めて家族に寄り添った対応をしていく
	②	質の高い自立支援	(1)自立支援・重度化防止	(1)　９０%	(1)利用者個々の能力を見極め、残存機能を活かすケアを実践できた
	③	ブログ立ち上げ	(1)より良いサービス、モチベーションアップ	(1)　　０%	(1)構想段階で、とまっている 引き続き、SNSの活用方法を模索していく
Ⅱ	①	研修の充実	(1)デイ内研修・外部研修の参加 (2)1ON1(ワンオンワン)ミーティング実施	(1)　８０% (2)　７０%	(1)デイ会議等で定期的に、デイ内研修は実施ができている。外部研修はコロナ禍の影響もあり、オンライン研修のみに留まっている (2)常勤は全員、非常勤は半数に留まっています。今後は全員出来る様にスケジュールを立てて行うようにする
	②	資格取得の推進	(1)資格未取得の職員への初任者研修受講 (2)介護福祉士取得の推進	(1)　２０% (2)１００%	(1)前年度は１名取得できたが、今年度は、打診したが、都合により受講はできなかった (2)介護福祉士１名合格、来年度２名が受験予定なので、合格できるようにバックアップしていく
Ⅲ	①	利用者の増加、安定利用	(1)新規利用者の確保 (2)環境整備 (3)PR活動・パンフレットの見直し	(1)　８０% (2)　９０% (3)　５０%	(1)新規依頼にはスピード感と柔軟性を持った対応に努めた (2)トイレの扉の設置、トイレ内、玄関の壁紙の貼り替えの行い、プライバシーの確保や、清潔感のある環境を整えられた (3)新しくパンフレットの作成し外部に配布した。コロナ禍の影響もあり、積極的な営業活動等は、できなかった
	②	口腔機能向上加算の体制を構築	(1)収入源の確保	(1)　　0%	(1)体制の構築までは、整わなかった

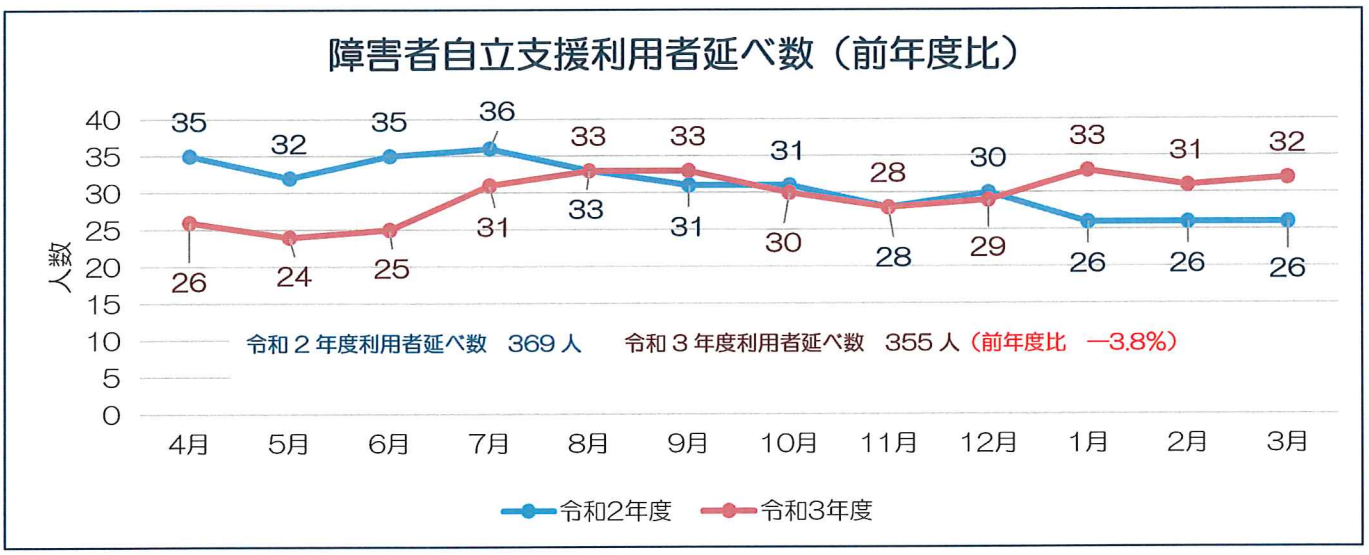
Ⅳ	①	報・連・相の徹底	⑴業務の円滑	⑴　50%	⑴報連相の徹底には至らず、今後は組織体を見直し、改善していく
	②	業務マニュアルの見直し、新規作成	⑴マニュアルの浸透	⑴　80%	⑴ヒヤリハット等の見直し、事故の減少に繋がった
Ⅴ	①	地域社会との連携	⑴多職種との連携 ⑵地域学校区、公民館発表などの積極的参加	⑴　50% ⑵　0%	⑴・⑵ コロナ禍により、地域、外部との交流や参加を自粛した。また多職種連携について、感染状況により行動した

Ⅲ）訪問介護（障害福祉を含む）







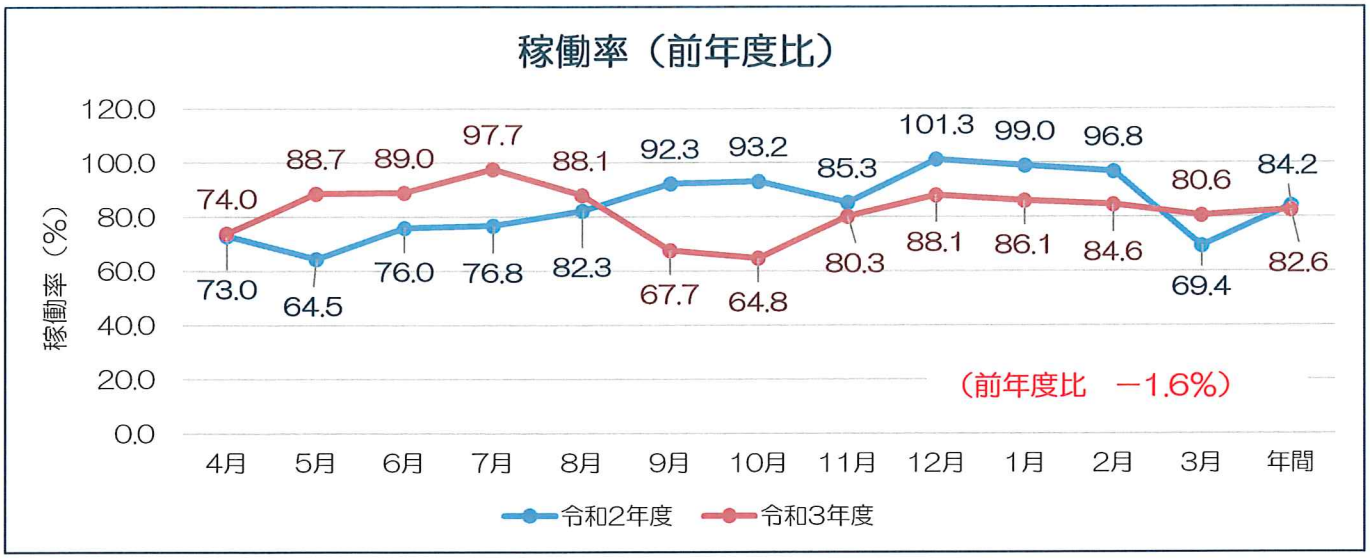


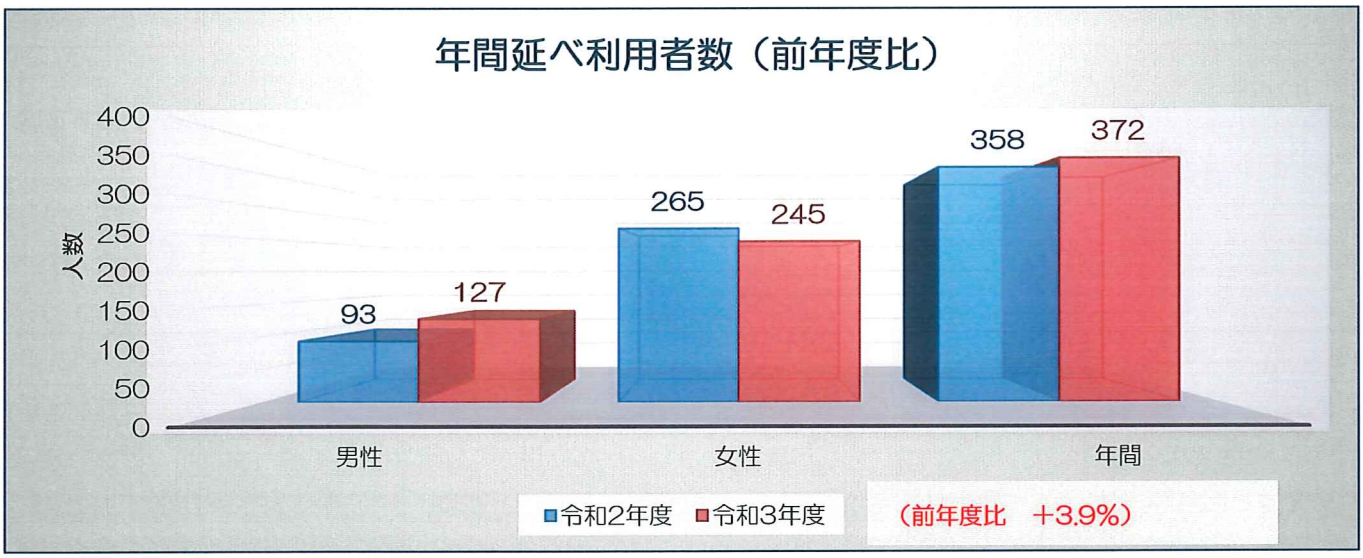
事業計画				結果	
重点取り組み事項	具体的目標		指標・成果	達成率（%）※指標ごとに記入	具体的達成状況と今後の課題
Ⅰ	①	地域の関係機関との連携	⑴多職種との連携	⑴　85%	⑴担当者会議出席や書面（ケアマネ・訪看ステーションとの fax や連絡ノートの活用）をもって情報を共有した 課題＝書面では、細部の情報が伝わらないところもある為、直接話ができるようにする
			⑵迅速な情報の共有	⑵100%	⑵早急に改善が必要な利用者に関しては、迅速に情報の共有を行った

	②	住み慣れた地域での生活支援	⑴一人ひとりの生活に合ったサービス提供 ⑵認知症対応力の向上	⑴　90% ⑵　85%	⑴利用者が何を求めているのか（意欲）に寄り添いながら、笑顔・笑い声を多く聞かれるように務めた ⑵ヘルパー会議時に行う、認知症研修を行った。課題＝認知症介護実践者研修（基礎研修）の情報をキャッチし、速やかに受講出来る体制を整える
	③	自立支援重度化防止	⑴専門職としての質の評価 ⑵モニタリングと訪問介護計画の見直し	⑴　90% ⑵　80%	⑴利用者から、良くして貰っている、安心して利用できる等の評価を得ることができた。観察力・洞察力・判断力が出来ていた ⑵サービス提供時の記録や、訪問しての評価を行うことができた。課題＝利用者宅に訪問する時間を増やすことができるようにする
Ⅱ	①	人材の確保と定着	⑴業務の役割分担 ⑵やる気、意欲を高める	⑴　70% ⑵　70%	⑴個々での事務処理となってしまい分担して行うことができなかった ⑵体調不良やコロナウイルス関係による休暇の為、人員が不足し業務が煩雑となり、疲弊感があった 課題＝お互い支え合い、認め合える環境をつくる
	②	研修の活用	⑴目標を立てる（自分を成長させる） ⑵専門分野の知識を得る	⑴　70% ⑵　70%	⑴訪問業務が優先となってしまい、研修への参加する時間を取ることができなかった ⑵認知症及び認知症ケア、感染症予防対策については、ヘルパー会議時に実技も含めて行った 課題＝⑴・⑵受けたい研修への参加ができる体制を整える
	③	ＩCTの活用	⑴会議や多職種連携の強化	⑴　20%	⑴ICT に詳しいケアマネ事業所間では行うことができたが、ほとんどの会議は、書面又は感染拡大防止対策を取り行った 課題＝緊急時等、必要時にはＩCT を使った会議ができるようにする
Ⅲ	①	認知症への対応向上	⑴認知症専門ケア加算の取得	⑴　0%	⑴現在加算の取り扱いはないが、数年後に備えた加算取得の為の取り組みがで

					きなかった 課題＝認知症介護実践者研修（基礎研修）への参加を積極的に行う
	②	創意工夫とサービスの質の向上	(1)感染症拡大防止対策の強化	(1)100%	(1)朝出勤前と昼からの訪問前に、検温を行い体調管理に努めた。また、サービス提供時には、マスク、ゴーグル保護メガネ、使い捨て手袋、予防着、アルコール消毒液ボトルを常時携帯して対応した
	③	利用率・稼働率の向上	(1)空き状況をつくらない (2)特定事業所加算Ⅱ取得の継続	(1)100% (2)100%	(1)ヘルパーの人員数を考慮しながら、目標件数・実績単位数になるように努めた (2)加算基準に適合できるように、取り組んだ
Ⅳ	①	情報の共有	(1)風通しの良い職場をつくる	(1)　50%	(1)コロナウイルスにより、密にならないようにしていたためか、個々の考えにズレが出てしまった
	②	働きやすい職場づくり	(1)一緒に考える、みんなで分かち合える環境 (2)相談しやすい環境をつくる	(1)　50% (2)　50%	(1)・(2) 情報を流しても、お互いに確認し、理解する手立てを講じることが出来なかった 課題＝確認・理解し、納得できるように、お互いを認めて話し合える場を作る
Ⅴ	①	地域とのつながりの強化	(1)自然災害時に対する迅速な対応	(1)　50%	(1)応急手当の仕方について、心肺蘇生やAEDの使用方法をヘルパー会議時に行った 課題＝防災マニュアル・フローチャートを確認しスムーズに動けるように備える
	②	社会貢献への実践	(1)初任者研修・介護福祉士実務者研修の実習生の受け入れ	(1)　0%	(1)コロナウイルスの影響もあり、実習生の受け入れはできなかった 課題＝利用者との信頼関係を築き、いつでも実習生を受け入れてもらえるようにする

Ⅳ）短期入所生活介護





事業計画				結果	
重点取り組み事項	具体的目標		指標・成果	達成率（%）※指標ごとに記入	具体的達成状況と今後の課題
Ⅰ	①	自立支援に向けた質の高いサービスを目指す	⑴ご利用者のできることを家族より聞く ⑵自宅と同じ成果ができる援助	⑴１００% ⑵１００%	⑴事前面接の時間を設け意向を聞き確認することが出来ケアプラン、介護支援計画に反映することができた ⑵担当者会議等で家族の意見要望を聞く時間を設け、同じ成果が出る様

					に援助した
	②	地域との関係の継続	(1)包括支援センター、居宅介護支援との連携	(1)１００％	(1)コロナ禍での中、予防や対策等の受け入れに支障は出たが、各事業所の協力もあり、新規受け入れをすることができた
			(2)地域や他事業所との情報の共有	(2)１００％	(2)利用中の情報を担当のケアマネジャーへ報告する事で情報共有することができた
Ⅱ	①	職員研修と委員会の参加	(1)研修会や委員会に参加し知識を高める	(1)　５０％	(1)コロナ感染予防の為、外部研修へ参加できないことが多々あつたが、内部研修へは出来る限り参加した
	②	ICT 使用方法の習得	(1)情報交換できるようにすること	(1)　５０％	(1)ケース記録、日誌を共有できるようになって事務の効率が計れた
Ⅲ	①	経費削減の取り組み	(1)ペーパーレスのできる業務の実施	(1)　８０％	(1)パソコン等を使用し、情報を電子化することで、紙媒体での情報管理少なくすることができた
	②	件数の確保	(1)各事業所との連携	(1)１００％	(1)コロナ禍の中受け入れに支障は出た毎月の金が積極的に受け入れをし、今後も９０%維持できるようにしていく
			(2)積極的な受け入れを行う	(2)100%	(2)各事業との連携を密にすることでロングショートの受け入れをする、件数の確保ができた
Ⅳ	①	働きやすい環境を整える	(1)お互いを思いやる環境づくり	(1)１００％	(1)報連相を基本としメンタルの状態の把握に心がけ出来るだけ話なし易い雰囲気を作った
	②	休みやすい体制を整える	(1)年次有給休暇を５日以上取得していること	(1)100%	(1)毎月の勤務表作成の中で計画的に休暇を入れることで指標達成できた
Ⅴ	①	地域貢献への実践	(1)地域の方々が安心して利用して頂けるように努める	(1)１００%	(1)緊急時等、地域の方が必要とされているときに迅速に受け入れを行い、安心して頂ける様に行った
	②	地域共生社会を目指したサービス提供	(1)地域活動への参加	(1)　０%	(1)コロナ禍での参加は出来なかったが今後、福祉活動、運動会文化発表会等への参加していく

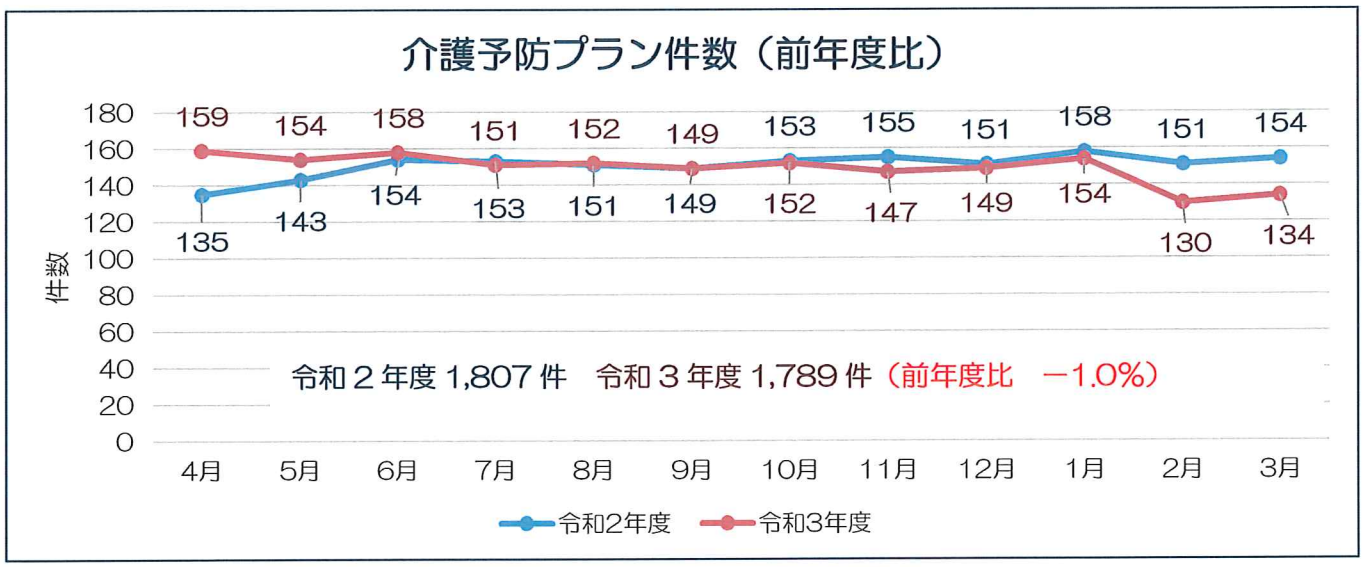
３．地域包括支援センター

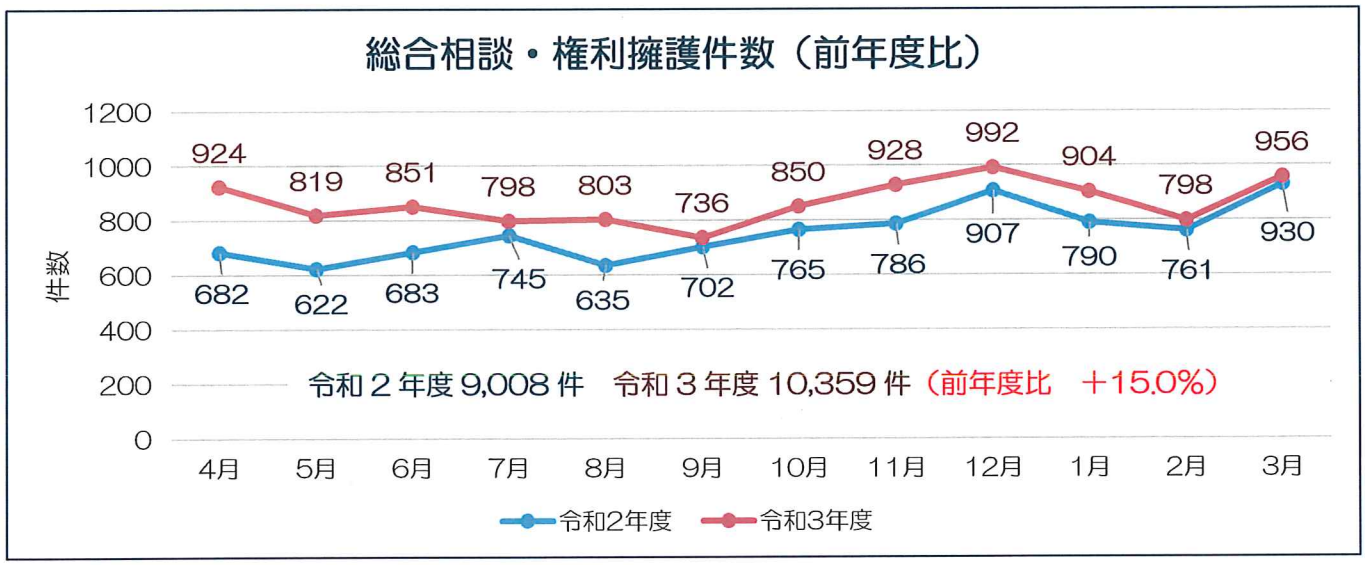
事業総括

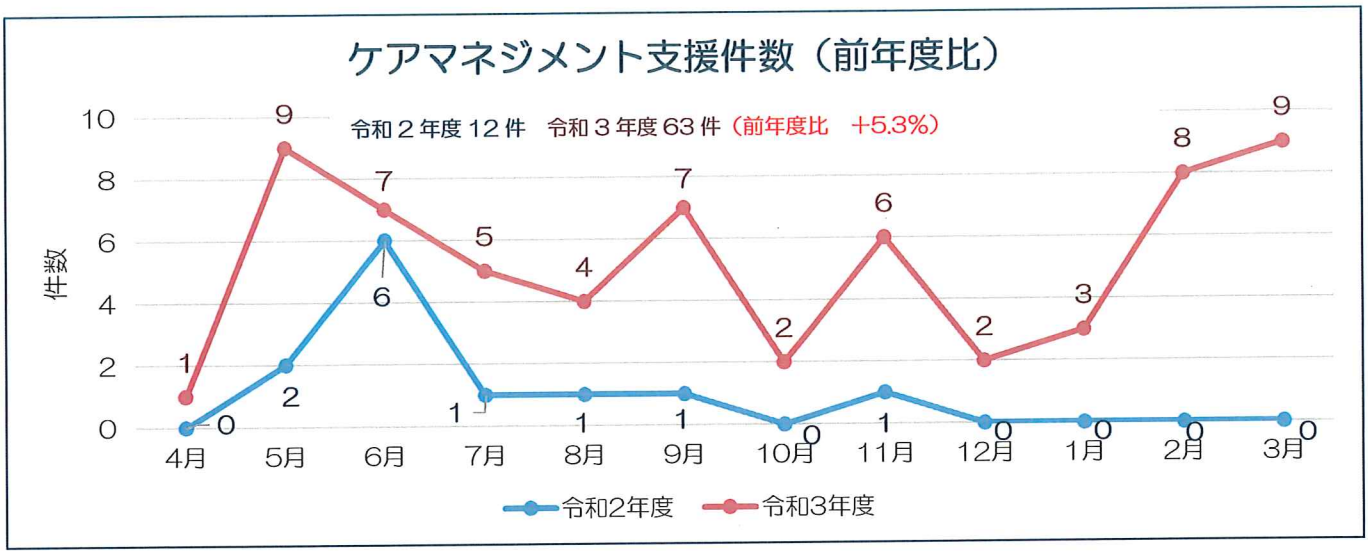
コロナウイルス感染防止に努めながら、『顔の見える包括』として職員一丸となり、業務遂行することができた。互いに認め合い、尊重しあえる仲間として、共に悩み、共に解決し、足を止めることなく地域と一体的になり前に進むことができた。

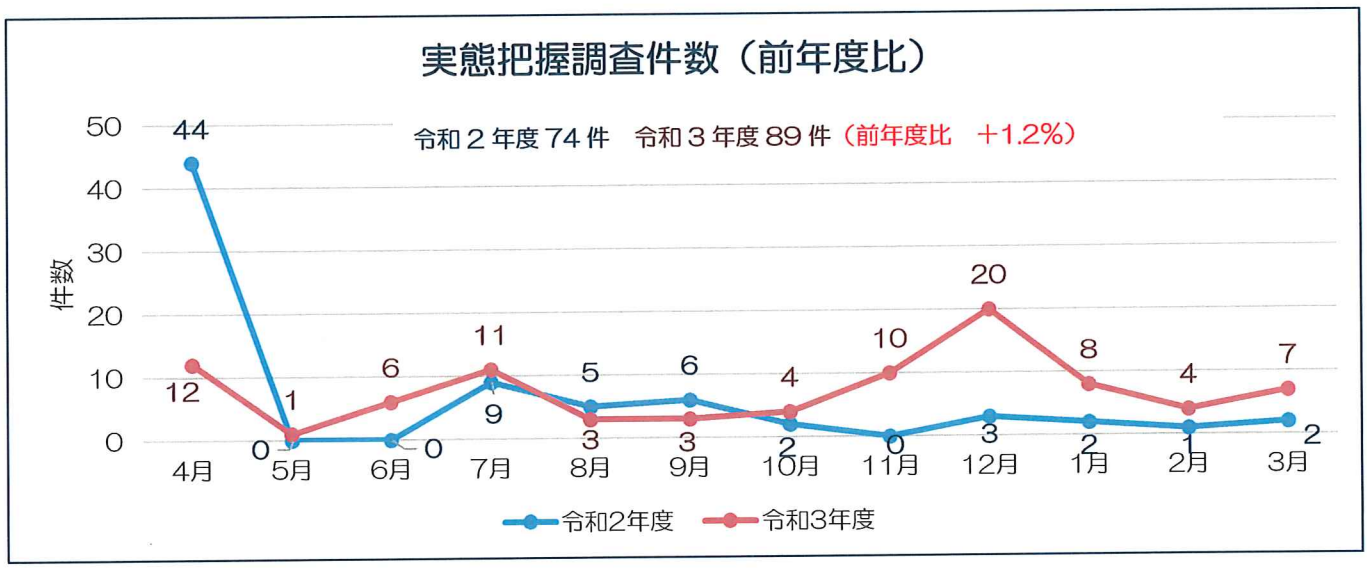
【実　績】

Ⓐ　支援件数







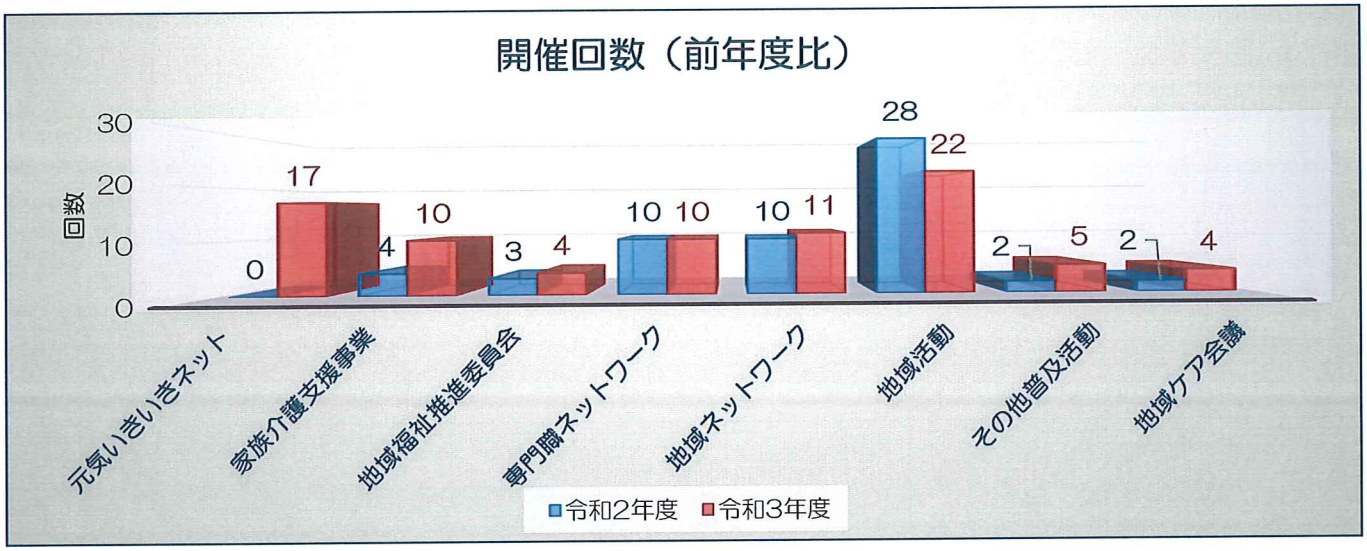


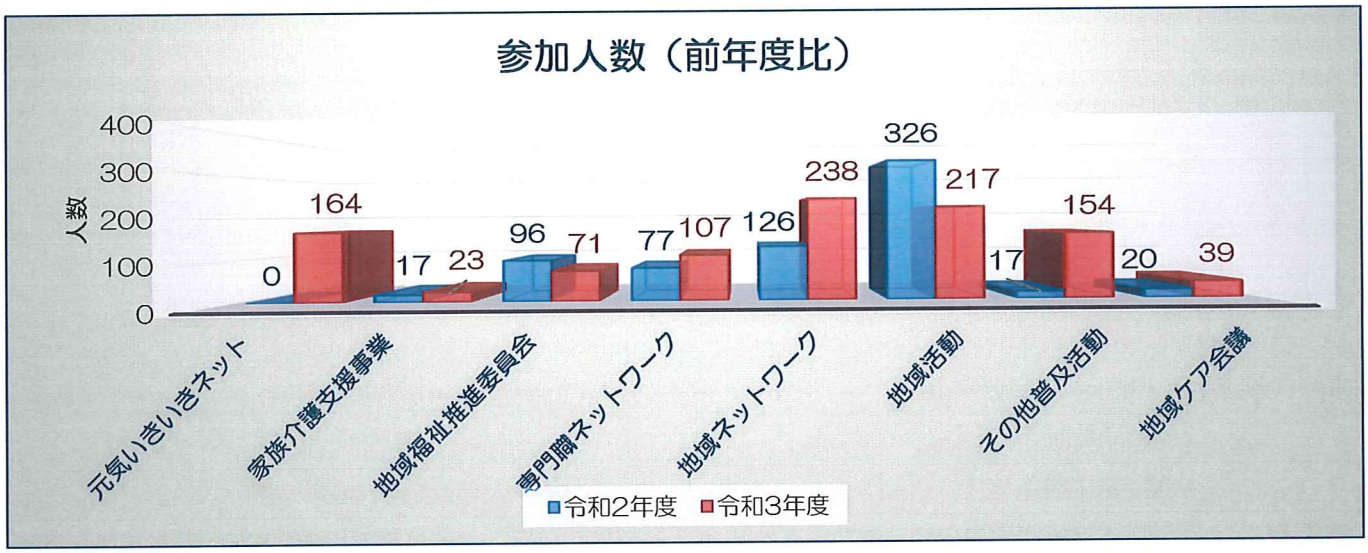
Ⓑ　教室・相談・会議等の活動状況

〔主な活動内容〕

教室・相談・会議等	主な活動内容
元気いきいきネット	ひとり暮らし食事会・地域茶話会・体操サークル
家族介護支援事業	介護家族会
地域福祉推進委員会	地域福祉推進委員会（ひとり暮らし食事会・地域茶話会・歩け歩け大会） 総会・部会等会議
専門職ネットワーク	ケアマネ連絡会・包括主催研修・後見人利用促進協議会 運営推進会議高齢者支援検討会・虐待防止ネットワーク会議
地域ネットワーク	自治連・民児協会議・老人クラブ・第二層協議体 神奈川工科大学研究支援・介護予防に資する団体等の活動支援
地域活動	地域居場所訪問・ひとり歩き高齢者模擬訓練・オレンジャー会 各事務局会議・コミュニティ交通協議会

その他普及活動	公民館まつり・上荻野文化交流会・認知症サポーター養成講座 介護予防フェスタ・住民向け研修会
地域ケア会議	地域ケア会議・企業等地域ケア会議





事業計画				結果	
重点取り組み事項	具体的目標		指標・成果	達成率（%） ※指標ごとに記入	具体的達成状況と今後の課題
Ⅰ	①	地域や各関係機関との連携の強化	(1)制度の縦割りなど区別することなく、生活軸として総合的に相談できる仕組みづくり (2)身近なところに、安心・信頼し継続的に相談できる拠点となる	(1) 90% (2)100%	(1)新型コロナウイルス禍においても、総合的に相談できるよう、行政や関係機関との連携を行った。今後も他機関との連携を継続し、チームアプローチができるようにする (2)移転前の来所相談が12%に対し、移転後は7%と落ちているが、総合相談件数が前年比より15%増加
	②	総合相談対応の強化	(1)地域の高齢者等に関するさまざまな相談を全て受け止め、適切な機関・制度・サービスに繋げるなどワンストップ・サービス拠点としての機能 (2)尊厳の保持と自立支援に向けて、地域や利用者のもつ力や可能性をともに探り、発揮できる環境を整え、本人を中心とした考え、意思決定の支援に基づく個人の自己決定権の尊重	(1) 90% (2) 90%	(1)生活困窮、複合的課題のケースが増えてきているなか、行政や関係機関と連携し、必要なサービスに繋げることができた。センター内では、１人で抱え込まず、全員で検討する雰囲気づくりができている (2)相談援助時には、本人が意思決定できるよう、伝え方を助言や提案にするなど自己決定権を尊重した。 今後も、地域や利用者のもつ力を発揮できるよう、アセスメント力、説明力の強化が必要
	③	家族の支援・連携	(1)家族の思いを受け止め、寄り添い、家族のエンパワーメントを目指す (2)介護家族会「若草」を、安心して相談できる場所として継続し、ヤングケアラー等にも対応できるようにしていく (3)認知症になっても住み慣れた地域で、その方らし	(1)100% (2) 80% (3) 80%	(1)ご本人だけでなく、その方を支えている家族の思いを受け止め支援を行った。家族の形に変化あり、家族まるごと支援できるようにした (2)新型コロナウイルス禍やヤングケアラーの視点から、ICTを活用しZOOMで家族会に参加できる環境整備を行った 今後は、ヤングケアラーを支援するためにも学校や教員へのアプローチを強化していく (3)地域版、小学校にて認知症サポーター養成講座開催。オレンジャー劇団（地域

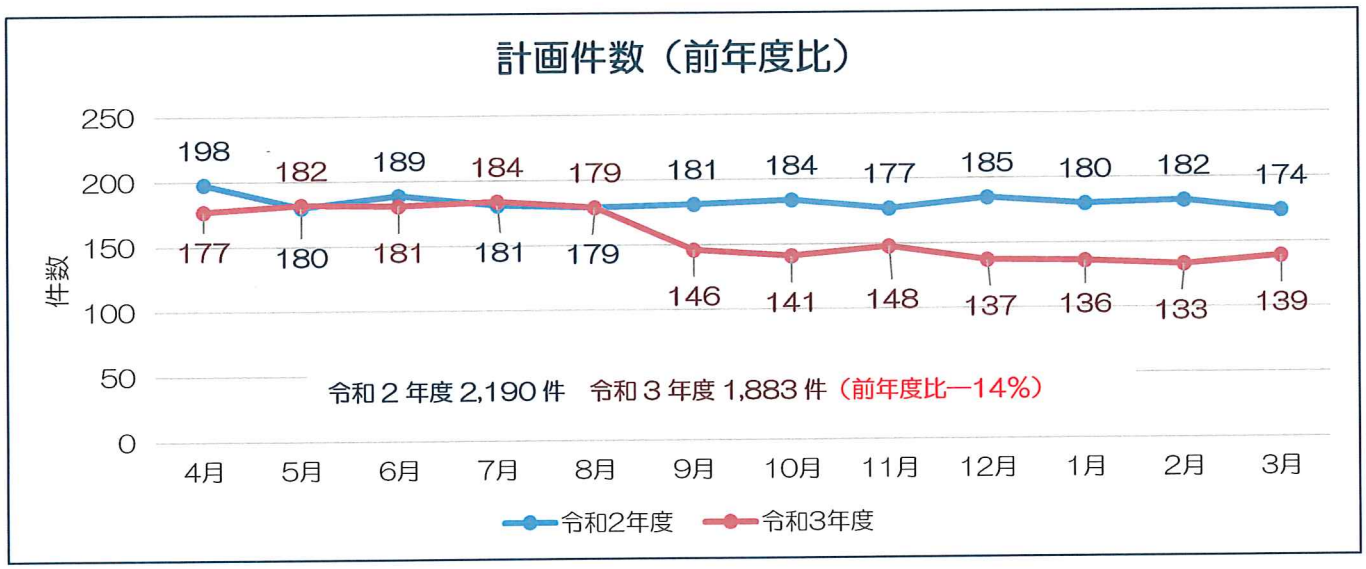
			く暮らせる地域の構築		住民）も一緒に参加し、意識付けを行うことができた
Ⅱ	①	チーム力の強化・定着のための育成	(1)相談や意見交換できる環境 (2)お互いを思いやれる、働きやすい職場環境 (3)お互いをフォローできる環境づくり	(1) 80% (2) 80% (3) 90%	(1)朝礼時にミーティング開催し、ケース報告、検討を行った (2)業務多忙で、自身のケースで一杯になることが見られたが、業務整理をするなど環境整備を行う (3)一人で抱え込まず、互いをフォローする意識はあり。継続し、さらにお互いのフォローが必要
	②	研修の充実	(1)地域包括ケア社会を構築するために必要な研修を受講 (2)様々な地域ニーズに対応できるよう、スキルアップを目指す	(1) 80% (2) 80%	(1)新型コロナウイルス禍であったが、研修へ参加しアウトプットもできた。今後、もう少し専門的な研修を受講してもらい、業務に活かせることが必要である (2)お互いのスキルを共有し、継続してスキルアップする必要がある
Ⅲ	①	委託事業の継続	(1)継続して受託できるよう、『顔がみえる包括』として信頼される包括を目指す (2)市役所との連携を密にする	(1) 90% (2) 90%	(1)新型コロナウイルス禍で公民館祭り等の普及・啓発活動は出来なかったが、「包括だより」を４回作成し周知活動を行った (2)ケースによっては、市役所との連携を密にし、相談しながら支援することができた
	②	業務の見直しと経費削減	(1)効率よく業務遂行できるよう工夫を行う (2)経費節約	(1) 80% (2)100%	(1)緊急の案件で対応することが多かったが、前年度より、残業時間の軽減はできた (2)節電や物品の無駄遣いはない。必要な物は都度検討している
Ⅳ	①	ラポール形成	(1)お互いを認め合い、思いやる気持ち、尊重 (2)業務の中から互いに信頼できる関係づくりを行う	(1)100% (2) 90%	(1)・(2) ラポール形成はできている。遠慮しすぎてしまい、他職員にお願いすることができない部分もあり。職員一人一人の業務をしっかり管理する必要がある
	②	情報の共有化	(1)報告・連絡・相談の習慣化	(1) 90%	(1)基本的には行えているが、職員の動きが多い時などは、報告が遅くなることがあった

Ⅴ	①	地域のニーズを積極的に捉え、繋がりを強める取り組み	⑴『顔がみえる包括』になるよう、積極的に地域に出向き、ニーズのアセスメントを行う ⑵地域の居場所づくり	⑴　80% ⑵　80%	⑴新型コロナウイルス禍であったため、地域の方との接触が少なかったが、民児協など定例会がある時は必ず出席、感染防止対策を徹底しオレンジャー会や家族会、体操サークルなどを実施し、地域と途切れることがないようにした ⑵地域の居場所には定期的に訪問し、主催者、参加者と話ししニーズの把握に努めた
	②	地域共生社会を目指したサービス	⑴地域のニーズと地域資源を有機的に結び付け、地域包括ケア社会の構築を推進する ⑵通所型サービスＢ・訪問型サービスＢ開設のための支援 ⑶コミュニティ交通実証運行の支援	⑴　80% ⑵　70% ⑶　90%	⑴オレンジャー会など開催し、地域のニーズを抽出。地域資源と結び付け、シームレスな支援ができるよう構築している ⑵地域住民主体としては難しく、地域の居場所創出を実施することができた ⑶協議体への参加を行い、情報や意見交換を行い、地域住民からの意見を代弁することができた

4．ケアプランセンターけいわ

事業総括

住み慣れた自宅での生活を維持できるよう、自立支援を念頭に置いたケアマネジメントの実践を行い、必要に応じては施設との連携ができた。コロナ禍であっても、感染予防対策を実践し、支援を停滞させることなく、実践することができました。



事業計画				結果	
重点取り組み事項	具体的目標		指標・成果	達成率（%） ※指標ごとに記入	具体的達成状況と今後の課題
Ⅰ	①	在宅生活の継続	(1)本人・家族の思いのすり合わせ (2)調整力の強化 (3)情報量を増やす	(1)100% (2)100% (3)100%	(1)在宅生活の維持に努めた (2)迅速かつ妥当なサービス提供ができた (3)情報収集に努めることができた
	②	各関係機関との連携	(1)チーム形成力の向上 (2)各関係機関との連携	(1)100% (2)100%	(1)関係機関との連携が強化できた (2)連携を取ることができた
Ⅱ	①	ICT 活用	(1)iPad 活用の習熟 (2)活用方法の習得 (3)感染症対策	(1)100% (2)100% (3)100%	(1)iPad 活用を学んだ (2)活用方法を広げる事ができた (3)感染者を出さずに支援の提供ができた
	②	研修への参加	(1)施設研修・外部研修への参加 (2)法定研修への参加 (3)事業所内事例検討会の開催	(1)100% (2)100% (3)100%	(1)日程調整が可能な限りの参加はできた (2)法定研修への参加職員あり。 (3)事例検討会の開催あり
	③	実習生の受け入	(1)介護支援専門員実務者	(1)100%	(1)実習生の受け入れはなかったが、受け入

		れ	研修		れ体制は整っていた
Ⅲ	①	標準件数の確保	(1)常に標準件数（35 件）の確保 (2)地域包括支援センター等との連携	(1)100% (2)100%	(1)常に標準件数を確保し、空きが出た時点で包括支援センターへ情報提供実施した (2)地域包括支援センター主催の研修会への参加ができた
	②	特定事業所加算算定の継続	(1)算定要件の順守 (2)人員確保についての工夫	(1)100% (2)100%	(1)算定要件を順守することができた (2)人員確保ができた
Ⅳ	①	事業所内での情報共有	(1)毎朝のミーティングの開催 (2)事例検討会の開催	(1)100% (2)100%	(1)毎朝就業前にミーティングを開催することができた。 (2)毎朝のミーティングの際に課題のある利用者の報告が上がった際に検討会へ移行し実施することができた
Ⅴ	①	地域包括支援センターとの協働	(1)地域包括支援センター主催の研修会への参加 (2)情報共有・連携	(1)100% (2)100%	(1)ズームも利用した研修への参加ができた (2)処遇困難事例の受け入れができた
	②	民生委員との連携	(1)担当民生委員との協力体制の構築	(1)100%	(1)地域民生委員との協力ができた

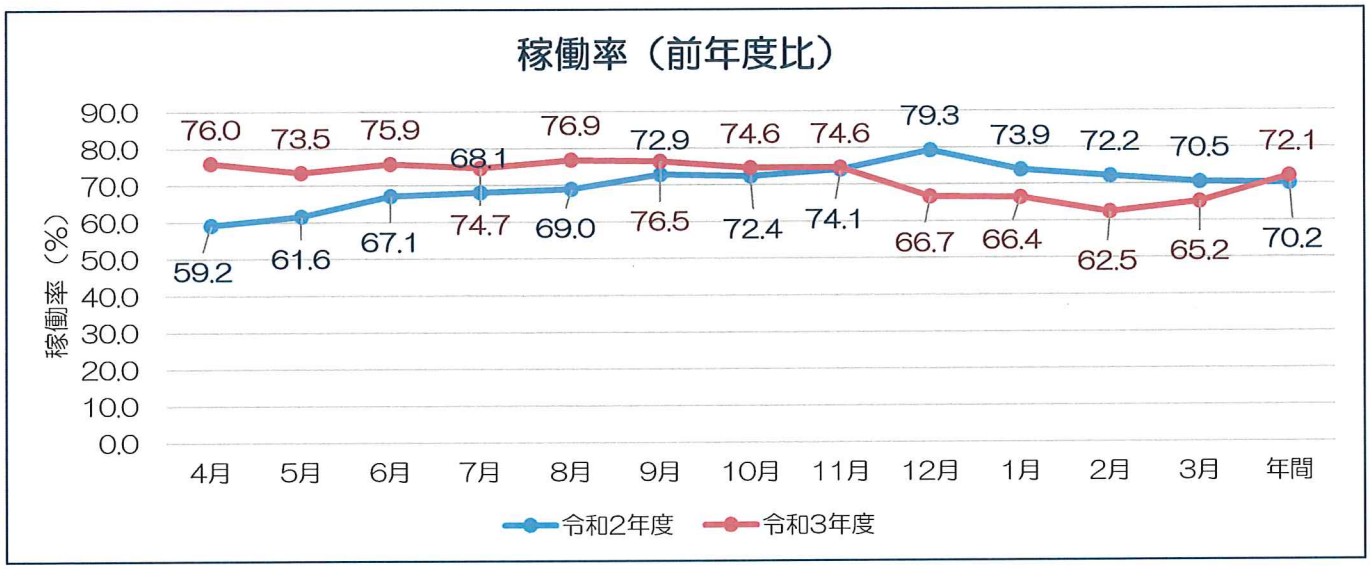
5.えまーぶる

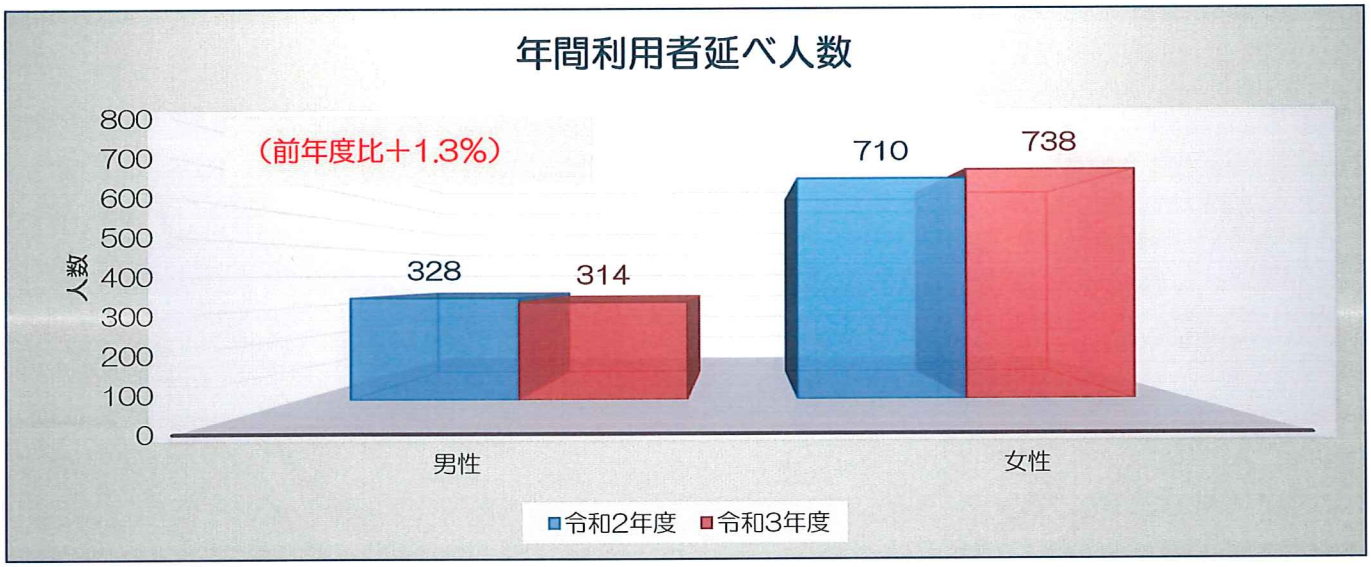
事業総括

コロナ禍の中ではありましたが、職員のチームワークの強みとICT化によってこの一年を乗り越えることができました。また、LIFEも取り組みながら稼働率の上昇に繋げることができました。

次年度に向けて、チームワークの強みを更に高め、『安定的持続可能な健全経営』に努めてまいります。

Ⅰ）通所介護事業所





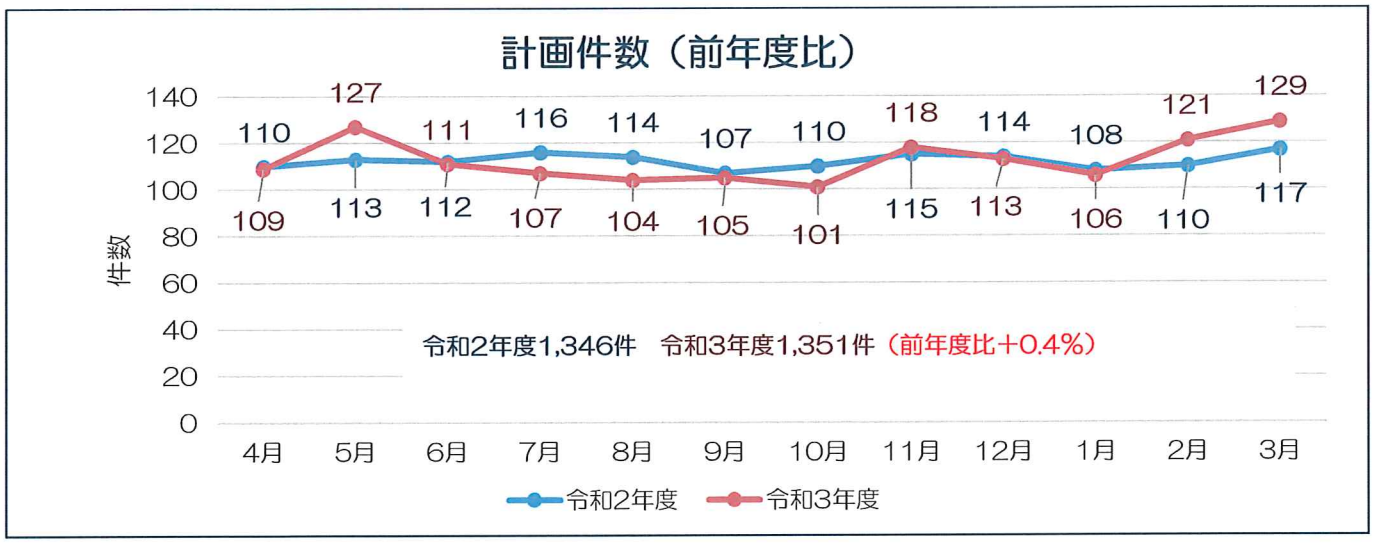
事業計画				結果	
重点取り組み事項	具体的目標		指標・成果	達成率（%） ※指標ごとに記入	具体的達成状況と今後の課題
Ⅰ	①	利用者の尊重	⑴その人らしさの実現	⑴　90%	⑴レクレーションなどを工夫し、楽しむことができた。実施できない活動もあり感染状況を確認しながら現在何ができるか今後も検討していく
			⑵個別のプログラムの検討	⑵　90%	⑵利用者に、どの様な支援が必要か記録や日々のミーティングを通し、情報の共有に努めることができた
			⑶季節行事の推進	⑶　95%	⑶クリスマス会、忘年会、敬老会など利用者、職員のみで小規模な実施だったが、楽しんでもらえた。季節を感じるような行事食を提供できた
			⑷誠実なサービスの提供	⑷　80%	⑷利用者に対して言葉使いや態度で至らなかった部分も見られた。再度接遇を重視し、関わるように努めることが課題である
	②	質の高い自立支援	⑴チームケアの充実を目指す	⑴　90%	⑴日々記録やミーティングを行い職員間での情報共有を図ったが、多職種の申し送りについてはわかりやすい言葉で行う必要がある。
			⑵自立支援のための関わり	⑵100%	⑵利用者の個々の状態を把握し自立支援に資する介助を目指し、職員間で共有意識を持つことができた。
			⑶バーセルインデックスの活用	⑶100%	⑶定期的にバーセルインデックスによる評価を実施できた。今後もADLの維持に着目した取り組みを実施していく
	③	家族との連携	⑴一帯の介護 ⑵家族との共生 ⑶信頼関係の構築	⑴100% ⑵100% ⑶100%	⑴・⑵・⑶ 適切で要望に沿った介護サービス、弁当の提供により、生活のサポートを行うことができている。また、送迎や訪問時家族とのつながりを大事にし、スタッフより家族への近況報告や連携をとる機会を増やしていける仕組みづくりに努めた

Ⅱ	①	研修の充実	⑴職員研修の充実 ⑵外部研修(オンライン)の奨励	⑴　80% ⑵　95%	⑴コロナ感染予防にて、開催の機会が少なかった ⑵オンライン研修では、特に介護報酬改定に伴う研修に参加することでタイムリーに情報を得ることができた
	②	資格取得の推進と強化	⑴介護福祉士資格の取得支援 ⑵認知症の実践者研修、実践リーダー研修、指導者研修の取得支援 ⑶中間管理職の育成	⑴　0% ⑵　0% ⑶　0%	⑴資格取得への研修機会は持てなかった。自学自習にて受験したが取得に至らなかった（1名） ⑵コロナ感染予防にて自粛 ⑶キャリアパス、アンバサダー研修に参加できなかった
	③	職員の定着	⑴労働環境の整備	⑴　90%	⑴ストレスチェックの実施他、定期的会議やミーティングにより業務負担の改善や減少を検討し、取組むことができた。また、休憩室の過ごしやすい環境つくり、整備を行った
Ⅲ	①	利用者定数を満たす	⑴デイ稼働率98%以上 ⑵稼働率の安定化 ⑶新規利用者の確保	⑴　90% ⑵100% ⑶　95%	⑴一日平均29.0人達成することができた ⑵毎月実績を共有し意識を高めることができた。利用者の状態に柔軟に対応し、個別性を重視したサービスを行うことができた ⑶コロナ感染予防で営業を行うことができなかった。居宅、包括との繋がりを持つことで新規利用者を確保することができた。事業所の空き状況をもとに新規利用者の連絡があるため今後も継続的に情報の提供を行う
	②	業務の見直しと経費節減	⑴業務効率化と改善 ⑵ペーパーレス化による経費節減 ⑶ランニングコストの削減	⑴100% ⑵100% ⑶　90%	⑴・⑵ タブレットを導入し業務の効率化とペーパーレス化を行うことができた ⑶コスト削減について、まだまだ全職員の意　識が不足している。今後も働きかけていく。また、安価な物品への変更や持ち出し票を作成し、無駄な使用をなくし経費削減に努めた

			(4)介護用具、電子機器の使用	(4)100%	(4)DVDを使用することで、職員の負担が軽減した。
	③	中間管理職の育成	(1)マネジメント教育の取り組み (2)コーチング教育の取り組み (3)キャリアパスの構築	(1) 0% (2) 0% (3) 50%	(1)マネジメント教育研修へ参加自粛 (2)コーチング教育研修へ参加自粛 (3)キャリアパス研修へ参加自粛だったが、個々が仕事の幅を広げることができた
Ⅳ	①	情報の共有を図る	(1)共有すべき情報の設定 (2)共有手段の決定 (3)共有ルールの策定	(1) 90% (2) 90% (3)100%	(1)日誌・連絡帳・会議議事録・事故報告書・マニュアルなど種類ごと目的をもって活用し、迅速に対応することができた (2)日誌や連絡帳で課題などを把握することで業務の効率化や目標などを達成することができた (3)情報がいつでも見られる状態にすることで、全体が同じ認識をもって業務を行うことができた 常に最新の情報を更新している
	②	報告・連絡・相談の習慣化	(1)意見交換しやすい環境づくり (2)多職種間の連携	(1) 80% (2)100%	(1)コロナの影響もあり全体での意見交換の機会を持つことがあまりできなかった (2)多職種で協働、共有して効率よく業務をこなすことができた
	③	感染症・防災安全対策	(1)感染症予防対策 (2)防災・災害対策訓練	(1) 100% (2) 100%	(1)・(2) BCPを作成。感染予防に対する意識を高め、訓練の実施。参加できる職員は限られているので、全職員が訓練を体験し日ごろから防災への備えを意識できるようにしていく事が今後の課題
Ⅴ	①	地域共生社会を目指したサービス	(1)家族、地域との繋がりを密にする (2)地域活動の積極的な参加 (3)多職種間の連携強化	(1) 90% (2) 70% (3)100%	(1)情勢により地域住民やボランティアとのかかわりが減ったが、送迎など施設外での挨拶を交わすことで繋がりを維持できた (2)地域活動の積極的な参加は自粛した (3)各事業所との連携が取れた

	②	社会貢献への実践	(1)介護福祉士実習生の受入れ (2)看護学生の受入れ (3)厚木中学校体験学習の受入れ	(1) 0% (2) 0% (3) 0%	(1)・(2)・(3) コロナ禍により実習の中止

Ⅱ）居宅介護支援事業所



事業計画				結果	
重点取り組み事項	具体的目標		指標・成果	達成率（%） ※指標ごとに記入	具体的達成状況と今後の課題
Ⅰ	①	利用者が満足できる生活の支援	(1)その人らしい生活の継続 (2)地域で安心して生活できる支援	(1) 90% (2) 80%	(1)利用者の生活歴や価値観を尊重した支援が行え、意向に添った情報の提案 (2)包括支援センターとの連携が図れ、地域資源を活用した支援が行えた
	②	質の高い自立支援	(1)利用者自身の選択に基づく支援 (2)できる事を大切にした支援	(1) 90% (2) 90%	(1)御本人・家族が選択しやすい様、特色の分かる資料を用いた情報の提供が行えた (2)アセスメントを重視し、自立支援を心掛けた支援の調整に努める事ができた
	③	家族との連携	(1)相談援助ができる信頼関係の構築 (2)家族や多職種との情報共有及び連携	(1) 80% (2) 80%	(1)御家族の状況や環境に応じた連絡手段が行えた (2)家族や必要な関係機関との連携が行えた

Ⅱ	①	人材定着の取り組み	(1)相談しやすい環境 (2)時間外労働の削減、有給休暇の取得	(1)100% (2) 80%	(1)ﾐｰﾃｨﾝｸﾞにより日常業務での情報の共有や意見交換が行える時間の確保ができた (2)時間内での業務を心掛け、休暇取得に努める事できた
	②	研修の充実	(1)ICT を活用した研修への参加推進 (2)法人内の職員研修への参加	(1) 90% (2) 90%	(1)ZOOM での研修参加を行う事ができた (2)業務調整し、研修参加に努める事ができた
	③	資格取得の推進と強化	(1)主任ケアマネの取得	(1) 90%	(1)研修参加により取得ができた
Ⅲ	①	利用者定数を満たす	(1)常勤標準件数35件(予防含) (2)新規の柔軟に受け入れ	(1) 70% (2) 80%	(1)新規受け入れ、終了の方と入れ替わりも有り、予定数の確保が難しかった (2)業務状況を確認し、今後も柔軟に受け入れの対応をしていく
	②	業務の見直しと経費節約	(1)業務の効率化と改善 (2)時間外労働の短縮 (3)郵送料・水光熱費・消耗品の節約	(1) 80% (2) 80% (3)100%	(1)電動自転車の活用により、訪問の移動時間短縮が行えた (2)家族都合にあわせ時間外の連絡対応があった (3)自転車での訪問や、移動途中でのポスティング、消耗品などの経費削減を意識した業務を行う事ができた
Ⅳ	①	チームワーク力の育成	(1)報告、連絡、相談がしやすい、尊重しあえる環境づくり	(1)100%	(1)日々のﾐｰﾃｨﾝｸﾞにより、情報の共有や担当者以外の状況の把握に努める事ができた
Ⅴ	①	社会貢献への実践	(1)処遇困難事例の受け入れ (2)地域包括支援センターや関係機関と連携	(1) 80% (2) 90%	(1)依頼があった際の受け入れを心掛けた (2)包括支援センターや、必要な行政や医療機関との連携を図り支援を行う事ができた

6．ケアハウス「えがりて」

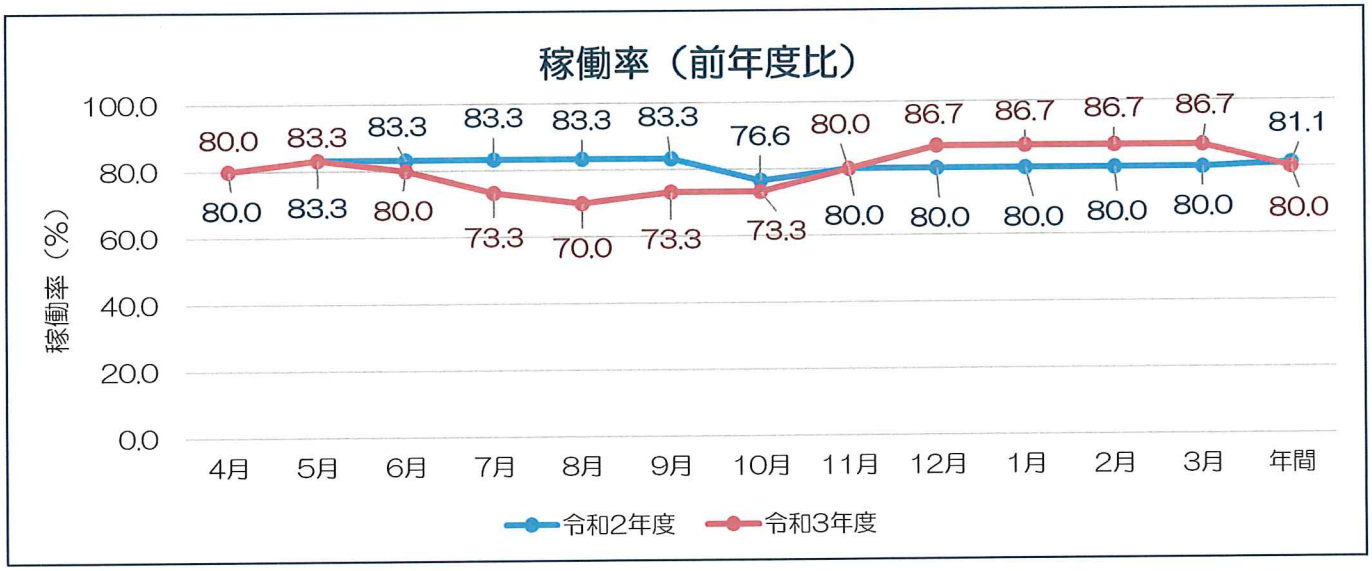
事業総括

コロナ感染症予防を念頭に置きながら、様々なイベントや余暇活動に取り組みました。思うように外出ができない暮らし中で、ひとり一人の生活寄り添い、活力や尊厳、変化がもたらされるようにする事の他、安定した暮らしをサポートするために生活相談を積極的に行いました。

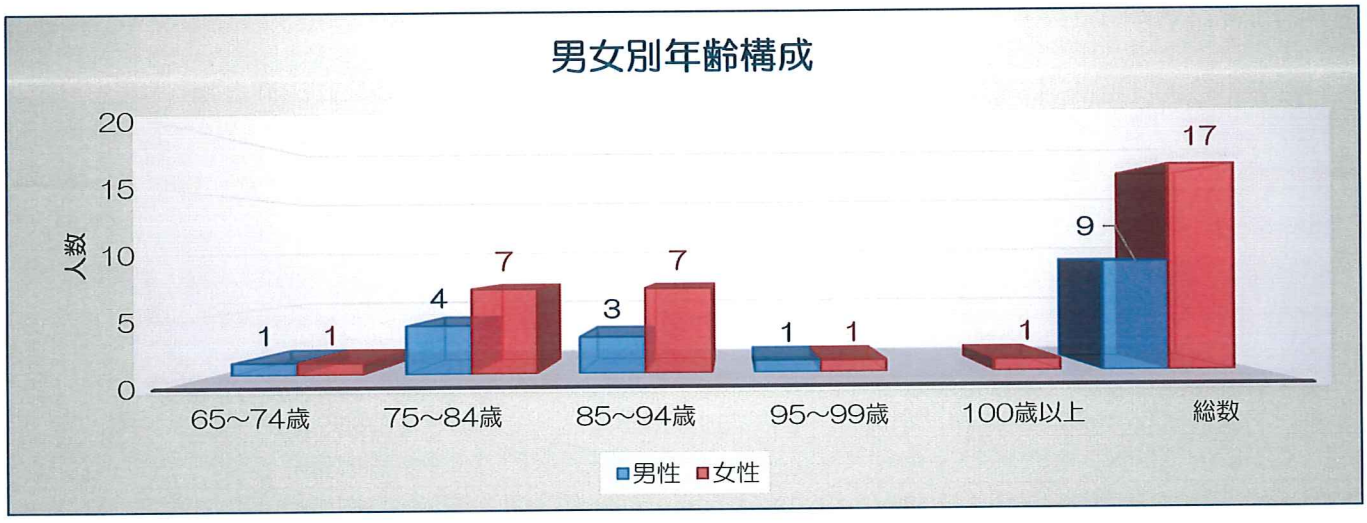
自立型の施設ではありますが、要介護者が多くなり、精神面でのサポートが必要な方も増えた事で多様なニーズ、要望にも積極的に応える事に努めましたが、どの様に支えていくのか課題も増えました。

来年度も引き続き、入居者の皆様がケアハウスを我が家のように思い『“えがりて”で暮らせて良かった』と思って頂けるサポートに努めると共に、安定的な入居者確保にも努めてまいりたいと考えております。また、スタッフがケアハウスで働きたいと思い続けられる職場であるよう、次年度も取り組みます。

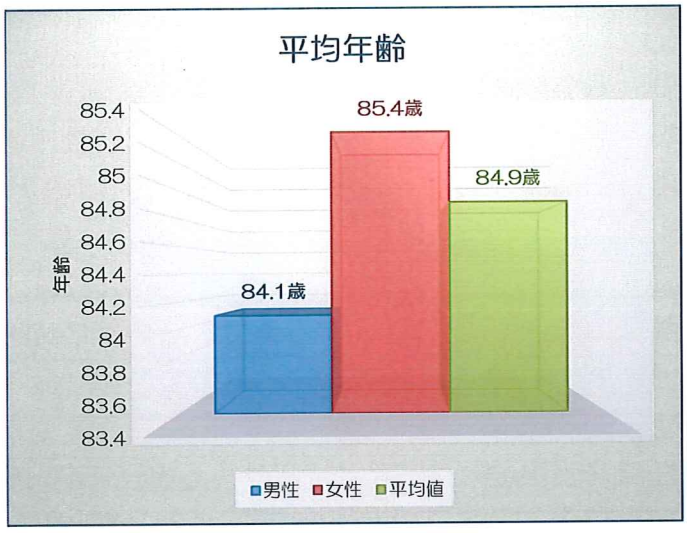
1）稼働率（前年度比）

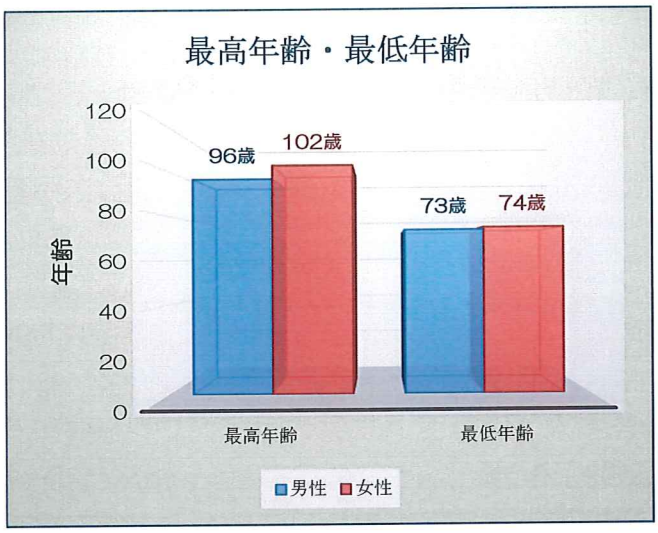


2）男女別年齢構成（令和４年３月31日現在）

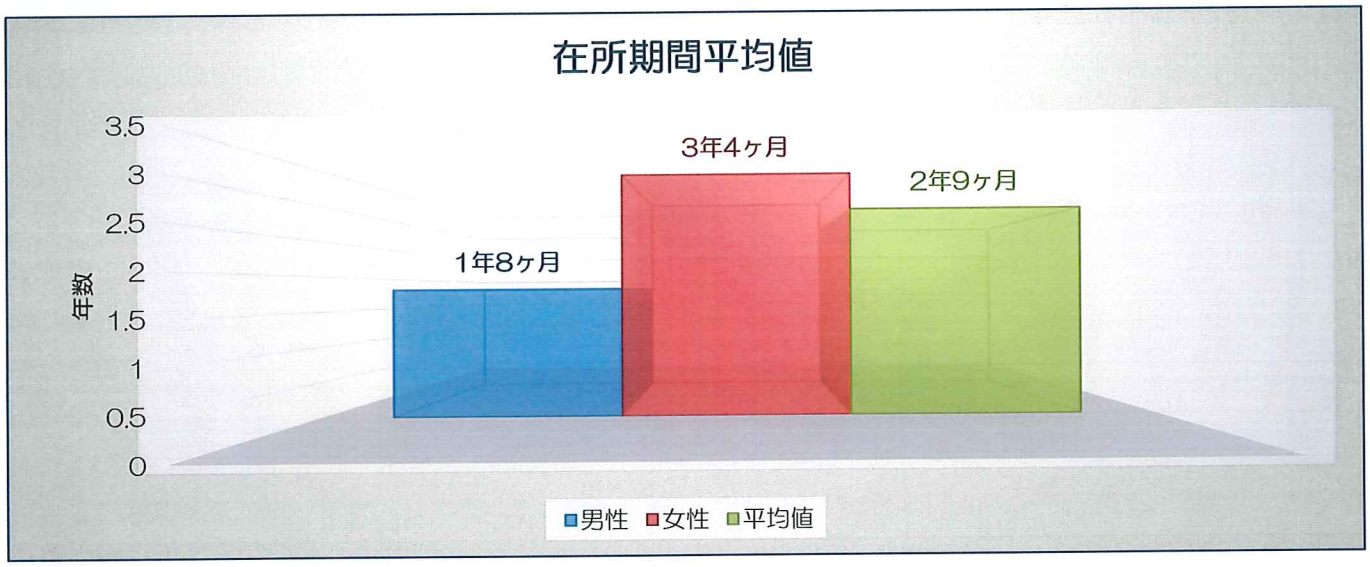


３）平均年齢・最高年齢・最低年齢（令和４年３月31日現在）





４）在所期間平均値（令和４年３月31日現在）



事業計画				結果	
重点取り組み事項	具体的目標		指標・成果	達成率（%）※指標ごとに記入	具体的達成状況と今後の課題
Ⅰ	①	生きがいを持ち、活気ある生活を送る	⑴余暇活動の充実 ⑵介護サービス利用により心身機能を維持できるように調整する。	⑴　90% ⑵　90%	⑴感染症対策を講じながら、行動計画内容に沿って実施できた ⑵個々の必要に応じた介護サービスへの調整を行う事で、機能維持につなぐことができた
	②	安心感のある暮らしの提供	⑴個々への目配りを十分に行う事と入居者とスタッ	⑴　90%	⑴相談事や不安への対応に努めました

			フとの信頼構築や人間関係の調整 ⑵健康管理やフレイル、サルコペニア状態の予防	⑵　90%	⑵行動計画内容に沿って実施出来た。屋上の環境整備などで、自発的に屋外へ出る機会が増えた事もフレイル予防につながったと思います
	③	ご家族との信頼関係の構築	⑴必要な情報の報告や連絡を行う事の他、普段からコミュニケーションを積極的に図る	⑴　90%	⑴面会や電話など従来の連絡方法の他、今年度は携帯電話のメールやＬＩＮＥ機能を利用した事で連絡がよりスムーズに行う事が出来、家族との情報共有に繋がった。次年度も継続
Ⅱ	①	ケアハウスのスタッフとしての専門性の構築	⑴軽費老人ホームの役割を理解した処遇 ⑵研修への参加	⑴　90% ⑵　30%	⑴介護や見守りが必要な方でも、その人なりの自立を基とした支援を探り、対応に繋げた ⑵今年度ほぼ施設内での研修参加だったため、外部研修への参加は次年度の課題。ケアハウス対象の研修や他施設での支援や取り組みも知りたいとの意見もあり、来年度の課題
	②	ＩＣＴ化への取り組み	⑴ほのぼのＮＥＸＴを利用した記録への取り組み	⑴　50%	⑴ほのぼのＮＥＸＴは全く取り組む事が出来なかったが、コロナ感染症対応のため、12 月から業務日誌を共有フォルダ上で陽だまり棟と連携する事となった事はＩＣＴ化に繋がったと思います。ほのぼのの利用は次年度再考
	③	働きやすい職場環境づくり	⑴休日、有給取得し易い人間関係をつくる ⑵過度に体の負担とならないようなハード、ソフトの両面で環境整備をする	⑴　90% ⑵　90%	⑴行動計画通り取り組むことができた ⑵業務中に腰痛を発症するような事は無く、互いに健康を気遣い、声を掛けあう事が度々見られました。今後もメンタルヘルスを含め、安心して働ける職場を目指します
Ⅲ	①	年間平均入居者数２６名以上を目指す	⑴内・外部事業所との連携 ⑵仲介業者の活用 ⑶ケアハウスの広報の充実	⑴100% ⑵100% ⑶　80%	⑴・⑵・⑶ 平均利用率 26 名、今年度の目標達成 ＊7 名退去、９名新規 今年度は体験入居を積極的に受け入れ、年間 13 人利用のうち９名が入

					居となるなど今までにない入居率に繋がりました。市内外の事業所からの問い合わせやケアマネへの営業活動も多く行った事で、入居に繋がったケースが前年度より増えた。仲介業者から２名入居者確保、老人ホーム検索サイトからの問い合わせは全体の７割。入居に繋がる確率は低いが、広報繋がるメリットもあり、来年度も利用継続
	②	安定して長くケアハウスで暮らして頂けるような支援	⑴健康管理、健康維持、事故予防のサポート ⑵施設内の環境整備 ⑶ＡＤＬの低下や認知症や精神疾患がある方のサポート	⑴　90% ⑵　90% ⑶　90%	⑴・⑵ Ｒ２年度の事故が 27 件、今年度が 15 件とかなり減少できた。毎月の事故対策会議で事故予測や必要な対策を速やかに行った事の他、環境整備や怪我に繋がり易い所がないかを日々注意した事も、安定して暮らしていく一助となったと思います ⑶ADL 低下や認知症状の様子を見極めながら必要な支援に繋げる事は、今後も継続します
	③	経費削減への取り組みと工夫	⑴ペーパーレス化への継続的な取り組み ⑵買い物サービスでのポイントカード活用	⑴　90% ⑵100%	⑴・⑵ 互いに声をかけあい取り組めている。どのような事が経費削減に必要な事なのか、今後も取り組みます
Ⅳ	①	相談し易い環境や人間関係づくり	⑴コミュニケーションの円滑化	⑴　90%	⑴実施出来ている
	②	信頼しあえる仕事	⑴人間関係に調和があるように努める ⑵お互いにフォローし合う	⑴　90% ⑵　90%	⑴・⑵ 行動計画通り実施出来ている。職場に笑顔が多く、互いをフォローしている場面を多く見かけます。引き続き継続
	③	情報の共有化を図る	⑴報告、連絡、相談の徹底により円滑な業務に繋げる	⑴　90%	⑴連絡帳での情報確認の他、ホワイトボードや口頭での再確認などにより、情報の共有が図れている
Ⅴ	①	外出の機会をつくる	⑴地域の社会資源を活用し施設の外に出かける機会を提供する	⑴　70%	⑴コロナ感染症の情勢により対応できない事も多くあるが、状況により少人数での買い物を行うなど、ご入居者暮

					らしや気持ちに寄り添った対応に取り組んだ
	②	地域交流	⑴ボランティアの受け入れ ⑵慰問の受け入れ	⑴　50% ⑵　　0%	⑴生け花クラブのみ実施 ⑵受け入れ無し

7．管財課

事業総括

今年度も新型コロナの影響で、点検・清掃業務において予定通りに実施できない状況でしたが、少しずつ以前の状態に戻りつつあります。ライフラインの安定供給においては、概ね順調に推移しましたが、一部の設備機器が経年劣化等による故障で正常運転出来ない状況もありました。

防災対策としまして、新館屋上の仮設発電機の整備を上げていましたが、部品調達の遅れ等により、令和４年５月の整備となりました。交通事故防止においては、職員の交通ルールの厳守と安全運転の励行により、大きな事故はありませんでした。

【重点取り組み事項】

（Ⅰ）ライフラインの安定供給　（Ⅱ）防災対策の強化　（Ⅲ）交通事故防止と車両の管理

事業計画				結果	
重点取り組み事項	具体的目標		指標・成果	達成率（%）※指標ごとに記入	具体的達成状況と今後の課題
Ⅰ	①	空調機器、設備機器の点検整備	(1)１５年経過によるユニテ空調設備の点検と整備 (2)各フロア、居室の適度な換気の実施 (3)機器故障時の速やかな対応と修理	(1)　８０% (2)　７５% (3)　８０%	(1)室内機の洗浄清掃を実施 (2)外気温を確認して、無理のない換気を実施 (3)故障した段階で、確認手配するも、部品調達が速やかにできない場合もあった
	②	水道及びガス供給設備の点検	(1)受水槽・ボイラー等設備の定期的なチェック (2)水道メーター確認による外部漏水の監視 (3)過年によるガス器具の確認と交換	(1)　８０% (2)１００% (3)　８０%	(1)給水、ボイラーに支障はなかったが、エコキュートの故障があり、修理を行った (2)水道設備に故障はなかった (3)厚木ガスにて定期に点検を行い，異常はなかった
	③	建物の保全と維持管理	(1)施設スタッフによる小規模な修理の実施 (2)工事発注時、見積複数の業者に依頼、経費削減を図る (3)建物定期報告等で建物の不具合箇所のチェックと日常の監視	(1)　９５% (2)　７５% (3)　９０%	(1)職員スタッフにてできる限り対応し、修理等を行った (2)工事業者の選定は特別な条件のない限り、２～３社に見積を依頼、金額を絞って発注 (3)定期報告での調査を細部に行い、非常用照明などの交換を行う

Ⅱ	①	防災対策の見直しと強化	(1)防災委員会の設置による各部署フローチャートの再確認と見直し及び各種訓練の強化 (2)停電時、ＢＣＰを遂行出来るよう仮設発電機を含めた電力供給方法の対策と実用 (3)定期的な安否メールの励行で地震等に備える	(1)　８０％ (2)　５０％ (3)１００％	(1)委員会は防災・マニュアル委員会で実施 避難訓練はコロナ感染を考量して、全般には行えなかったが、えがりて入居者の訓練は行った (2)新館非常用発電機の整備を計画してたが、部品の調達遅れで整備できず 令和４年５月に着手 (3)毎月１日頃に発信し、各職員との通信連絡を行う
	②	火災予防と消防訓練	(1)火災訓練等において職員が火災及び非火災時の対応をしっかり確認する。 (2)各部署、避難方法及び避難先を把握出来るようマニュアルで確認し、訓練する (3)消防設備点検で防災器具に不具合がないよう管理する	(1)　８０％ (2)　６０％ (3)１００％	(1)４月、１０月に消防訓練を実施するも、参加人員が少なく、課題が残った (2)全般的な避難訓練はできない状態だが、状況を見て実施したい (3)年間通して経年した消防設備の交換機器が発生するも、極力火災時に支障の無いよう整備したい
Ⅲ	①	交通事故防止対策の推進	(1)高齢者の交通事故多発、交通安全運動時に合わせ掲示板等で交通規則の厳守を指導 (2)事故発生時の速やかな対応と事故原因の究明 (3)ゆとり運転の推進	(1)　９０％ (2)　８５％ (3)　９５％	(1)けいわ荘、交通安全運転推進事項を標示 送迎時や通勤時に事故のないよう発信した (2)軽微な物損事故はあったが人身事故などはなかった (3)運転時に一番大切なのは交通ルールの厳守とゆとり運転に徹する事
	②	施設車両の管理	(1)車両管理台帳による点検時期の把握 (2)タイヤ溝のチェック・ブレーキランプ・エンジンオイル等の点検などを日常的に行う (3)定期的な車両清掃の励行	(1)　９０％ (2)　８５％ (3)　８０％	(1)管理台帳の修正を年３回程度実施。点検漏れの無いよう管理した (2)偶数月にタイヤチェック及びエンジンオイル等のチェックを行っている (3)定期的な清掃は行えなかったが、時々車両の汚れを見て、スタッフで行っている

8. 総務課

事業総括

令和３年度は新型コロナウイルス対策と法人・施設運営の強化を図るために費やした１年でした。

感染対策については職員や在宅関係のご利用者に数名の感染者が出ましたが、大きな感染拡大に繋がることもなく、また、施設入所者に１名の感染者も出さなかったことは業務に携わる職員全員の努力の賜物であったと思います。

法人・施設運営の強化を図るため、次世代の管理者育成に向けた管理者研修の実施、次回の介護報酬改正に向けた科学的介護研修の実施、新たな加算取得に向けた加算会議等を実施してきました。それらの研修や会議を行い、令和４年１月より新たな加算を取得することができました。さらなる加算取得のため、必要な資格の取得や体制整備に努めてまいります。

令和３年度は年間に４回の理事会と２回の評議員会を実施いたしました。適正な法人運営と組織ガバナンスの強化に努めました。また、４年に１度の理事・監事・評議員の全面改選の年となり、新たな役員の方々をお迎えすることとなりました。

法人の内部監査体制については、昨年度より実施している内部統制会議において内部監査体制の整備を行い、令和３年１２月に第１回目の内部監査を実施いたしました。引き続き令和４年度も内部監査を実施し、会計監査人制度に向けた準備を進めてまいります。

法人後見制度については、令和３年度中に２名の方の法人後見を受任いたしました。

事業計画				結果	
重点取り組み事項	具体的目標		指標・成果	達成率（%）※指標ごとに記入	具体的達成状況と今後の課題
Ⅰ	①	オンラインを活用した面会の実施	(1)面会を行うことによりご利用者の精神的安定を図る	(1)　10%	(1)オンラインによる面会は実施できなかったが、制限付きながら対面の面会を実施した
	②	ご家族の行事への参加	(1)コロナ禍における実施・参加可能な行事の見直し	(1)　10%	(1)コロナ禍により多くの行事が縮小となったが、一部行事においてご家族が参加可能な行事を行った
Ⅱ	①	資格取得の促進	(1)報酬改正で必要となってくる資格の取得を促進する	(1)　80%	(1)認知症介護実践者研修を受講した。また介護職員初任者研修を始め、介護福祉士や社会福祉士、主任介護支援専門

					員等の資格を多数の職員が取得することができた。引き続き資格取得の促進を図る
	②	研修の充実	(1)科学的介護の実践に向けた研修の充実	(1)　90%	(1)計画的に研修を実施することができ、結果として新たな加算の取得に繋がった
	③	外部の情報の取入れ	(1)関係機関や他法人も含め積極的に情報収集に努める	(1)　80%	(1)コロナ禍により外部へ出向くことは少なかったが、オンラインを利用した集まり等に参加することができた
Ⅲ	①	利用者の確保	(1)空床期間を削減し安定的な稼働率を維持する (2)新規利用者の確保	(1)　60% (2)　70%	(1)稼働率が低下した時期もあったが、相談員を中心に空床期間の削減に努めた (2)コロナの影響により入所前の手続きが増えたが、在宅施設や医療機関と連携し新規利用者の確保に努めた
	②	職員の運営、経営への参画	(1)組織の一員であることを理解するよう意識づける	(1)　70%	(1)現在取り組んでいるBSCを活用し職員ひとり一人の運営への参画を意識づけた
	③	内部監査体制の構築	(1)内部統制会議の実施と体制づくり	(1)　60%	(1)一昨年より行ってきた内部統制会議で内部監査体制を構築し、令和３年１２月に第１回の内部監査を実施した
	④	安全管理体制の構築	(1)外部研修の受講 (2)安全対策部門の設置	(1)100% (2)100%	(1)担当する職員が研修を受講し、資格を取得した (2)担当職員の資格取得に伴い既存の委員会を専門の委員会へと変更して実施開催した
	⑤	計画的な休暇の取得	(1)年次有給休暇の計画的な取得 (2)休みを取りやすい体制づくり	(1)　80% (2)　70%	(1)各部門において計画的に取得することができた (2)新型コロナウイルスによる突発的な休み等が増えたが、職員間の協力により、休みの取りやすい体制が構築できた

Ⅳ	①	情報の共有化	(1)掲示板や連絡表の活用 (2)新たな連絡体制構築の検討	(1)100% (2) 30%	(1)現在使用している掲示板や連絡表は開始から３年目を迎え、職員間の連絡ツールとして定着している (2)ハードウェア等の関係で早急な対応は難しいが、平日毎日運航しているシャトル便を活用し情報共有を行っている
	②	報告・連絡・相談の徹底	(1)業務の円滑化 (2)業務の効率化	(1) 70% (2) 70%	(1)･(2) 各部署への報告・連絡のための掲示板や、朝の朝礼等を通じ情報共有を図った。連絡等において不足することが見受けられるので、引き続き徹底していく
	③	コミュニケーションの重要性の理解	(1)挨拶の徹底 (2)他者への思いやり	(1) 90% (2) 90%	(1)・(2) 毎朝事務所で行っている朝礼で他者への感謝を伝え、挨拶の徹底を相互に確認した
Ⅴ	①	外部実習生の受け入れ	(1)コロナ禍において安全に受け入れることができる体制を整備する	(1) 0%	(1)新型コロナウイルス感染症の影響により、外部実習生の受け入れはなかった
	②	災害時の協力体制の構築	(1)地域自治会との防災協定の締結 (2)合同訓練の実施	(1) 30% (2) 0%	(1)地域自治会との話は進んでいるが、協定の締結までには至らなかった (2)新型コロナウイルス感染症の影響により、合同訓練は実施できなかった
	③	特定技能第１号外国人実習生の受け入れ	(1)国際交流・国際貢献・国際協力の姿勢	(1) 80%	(1)令和３年６月よりベトナム人の特定技能第１号実習生２名の受け入れを行った

９．研修センターけいわ　介護職員初任者研修（通学）

研修指定番号　第　Ｓ１４００１　号

事業総括

新型コロナウイルス感染症の影響により、第１回は外部受講生の受入れを中止し、施設内職員のみで実施しました。また、第２回は同様に外部受講生の受入れを中止し、施設内職員のみに限定して募集を行ったが、受講希望者がいなく、休講措置を取りました。

令和２年度より開講した研修センターけいわ介護職員初任者研修（通学）は、令和３年度において初任者研修プロジェクトチームを立ち上げ、講師からの要望や問題点等を総括し、次年度に向けた準備に取り掛かることにしました。特には、修了試験問題の見直し等を検討することとしました。

①　年間実施計画

(a)　個別番号・コース名・定員

研修個別番号	コース名	定員
1	研修センターけいわ　介護職員初任者研修（通学）	10名
2		10名

(b)　募集期間

研修個別番号	募集期間
1	令和　３年　４月　１日（木）～令和　３年　５月　７日（金）
2	令和　３年　９月　１日（木）～令和　３年10月15日（金）

(c)　講習期間

研修個別番号	講習期間
1	令和　３年　５月12日（水）～令和　３年10月13日（水）
2	令和　３年10月20日（水）～令和　４年　３月30日（水）

②　年間実施報告

研修個別番号	受講生	所属	修了証番号	修了日
1	H・S	認知棟	21－S14001－01－0001	令和３年10月13日
	S・M	一般棟	21－S14001－01－0002	
2	新型コロナウイルス感染症予防のため、外部受講生の受入れを中止。 施設内職員の受講希望がなく、休講とした。			

実績

年　度	実施回		受講者数	修了者数	備考
令和２年度	1	令和２年５月13日（水） ～令和２年10月７日（水）	0	0	休講
	2	令和２年10月28日（水） ～令和３年３月31日（水）	7	7	
令和３年度	1	令和３年５月12日（水） ～令和３年10月13日（水）	2	2	
	2	令和３年10月20日（水） ～令和４年３月30日（水）	0	0	休講

【研修会報告】

①　外部研修

月	日	研修名	主催	参加人員
4	9	〈決定版〉令和３年度介護報酬決定（栄養関連）		1
	14	介護施設向け　コロナの正しい恐れ方	ドクターメイト株式会社	1
	22	そうだったのか胃癒、そうだったのか半固形（WEB セミナー）	テルモ株式会社	1
5	17 18	令和３年度キャリアパス（中堅）	神奈川県高齢福祉施設協議会	2
	19	コロナ・クラスター発生時にリーダーがやるべきこと	ドクターメイト株式会社	1
	24 31	令和３年度キャリアパス（チームリーダー）	神奈川県高齢福祉施設協議会	2
6	1	介護施設における安全対策担当者養成研修（e ラーニング）	全国老人福祉施設協議会	1
		令和３年度社会福祉施設長資格認定講習過程（～令和４年１月）	全国社会福祉協議会	1
	8 9 10 15 17	令和３年度認知症介護実践者研修	神奈川県社会福祉事業団	2
	30	おひとり様支援としての任意後見に関する講演会	神奈川県弁護士会	1
		令和３年度第１回認知症キャラバン・メイト養成研修	神奈川県	2
		第56回関東ブロック大会及び第19回かながわ高齢者福祉研究大会合同大会（オンライン）	神奈川県社会福祉協議会	4
7	6	2021 年度前期ケアマネ更新研修専門研修過程Ⅱ	総合健康福祉財団	1
	7	令和３年度介護支援専門員資質向上研修	神奈川県高齢福祉施設協議会	1
	27	令和３年度認知症介護実践者研修	神奈川県社会福祉事業団	2
8	11 18	2021 年度前期ケアマネ更新研修専門研修過程Ⅱ	総合健康福祉財団	1
9	1 2	生きがい・助け合いサミット	さわやか福祉財団	2
	8 21	2021 年度前期ケアマネ更新研修専門研修過程Ⅱ	総合健康福祉財団	1
	28	身体拘束が疑われるグレーゾーンについて考える	けいわ・身体拘束適正化検討委員会	1
10	19 20	令和３年度認知症介護実践者研修	神奈川県社会福祉事業団	2

	21 26 28	令和３年度認知症介護実践者研修	神奈川県社会福祉事業団	2
11	12	全国軽費老人ホームセミナー～個別支援計画～	全国軽費老人ホーム協会	1
	16	『ノロウイルス・インフルエンザ感染症対策』の研修動画	神奈川県社会福祉施設協議会	施設全体
	20 27	社会福祉士実習指導者講習会	神奈川県社会福祉士会	1
	29	VR 認知症　認知症を体験する	荻野地域包括支援センター	3
	30	認知症ケアセミナー（ZOOM）	神奈川県介護支援専門員協会	1
12	7	令和３年度地域包括支援センター職員養成研修	神奈川県介護支援専門員協会	1
	14	令和３年度認知症介護実践者研修	神奈川県社会福祉事業団	2
	23	令和３年度第２回認知症キャラバン・メイト養成研修	神奈川県高齢者福祉施設協議会	2
1	14	令和３年度介護技術研修（応用編　看取り）	神奈川県高齢者福祉施設協議会	2
	20	令和３年度接遇リーダー研修	神奈川県高齢者福祉施設協議会	2
	22	令和３年度新人指導力強化研修	神奈川県高齢者福祉施設協議会	1
	24	令和３年度地域包括支援センター職員養成研修	神奈川県介護支援専門員協会	1
	27	令和３年度接遇リーダー研修	神奈川県高齢者福祉施設協議会	2
	28	令和３年度職場の課題形成・問題解決	神奈川県高齢者福祉施設協議会	2
2	16 22	令和３年度神奈川県介護支援専門員実務未経験者更新研修	介護の未来	1
	24	厚木市社会福祉施設連絡会職員研修会（ZOOM）	厚木市社会福祉施設連絡かい	1
3	3 10	令和３年度神奈川県介護支援専門員実務未経験者更新研修	介護の未来	1
		令和３年度職場の課題形成・問題解決	神奈川県高齢者福祉施設協議会	2
	11	看取りケアについて	神奈川県高齢者福祉施設協議会厚木・愛甲地区	6
	25	令和３年度神奈川県介護支援専門員実務未経験者更新研修	介護の未来	1

②　施設内研修

月	日	研　修　名	参加人員
6	22 29	『チームビルディング研修』	24 44
9	21 28	『身体拘束が疑われるグレーゾーンについて考える』	20 15
10	19 26	多職種の目線から、介護の現場を考える	38 36
3	22 29	「お仕事紹介」多職種を知る（※新型コロナ感染症予防対策により延期）	

③ 飯村研修（幹部職員研修）

月	日	研　修　名	参加人員
4	9	内部統制会議	6
5	14	科学的介護	13
6	11	内部統制会議	6
7	9	次世代管理者研修（課長クラス）	12
8	13	科学的介護	13
9	10	次世代管理者研修（主任クラス）	11
10	8	科学的介護	14
11	12	次世代管理者研修	15
12	10	内部統制会議（法人内部監査模擬研修）	6
1	31	科学的介護	12
2	18	BSC 研修	6
3	11	BSC 策定研修	6

令和3年度
事業報告書

社会福祉法人　敬和会

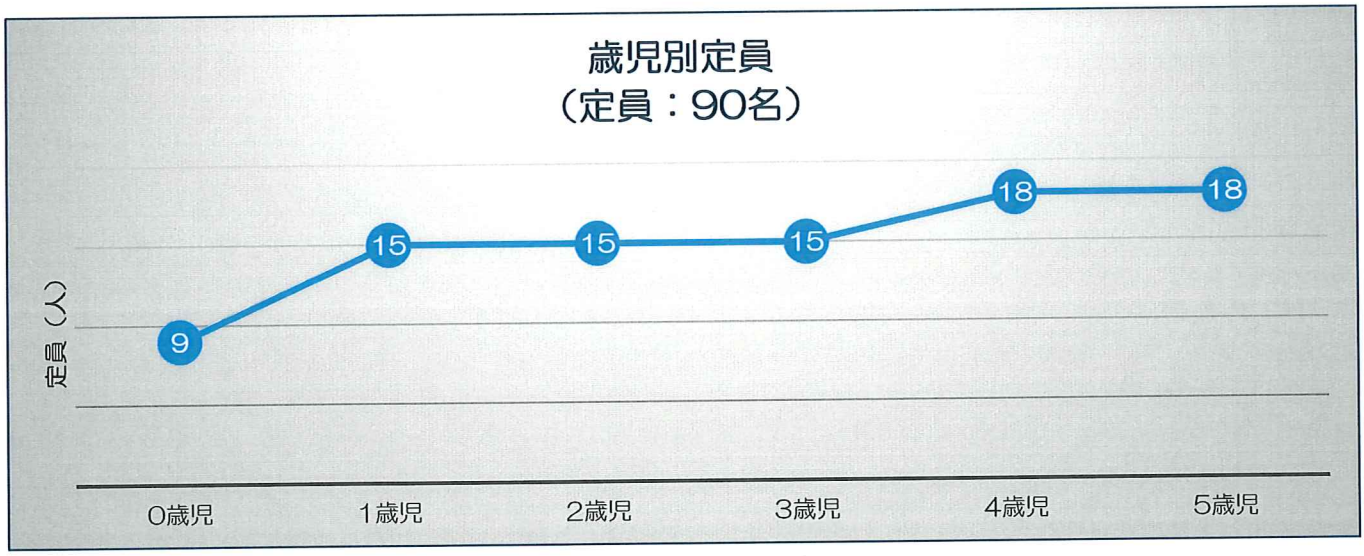
けいわ保育園
けいわ星の子保育園

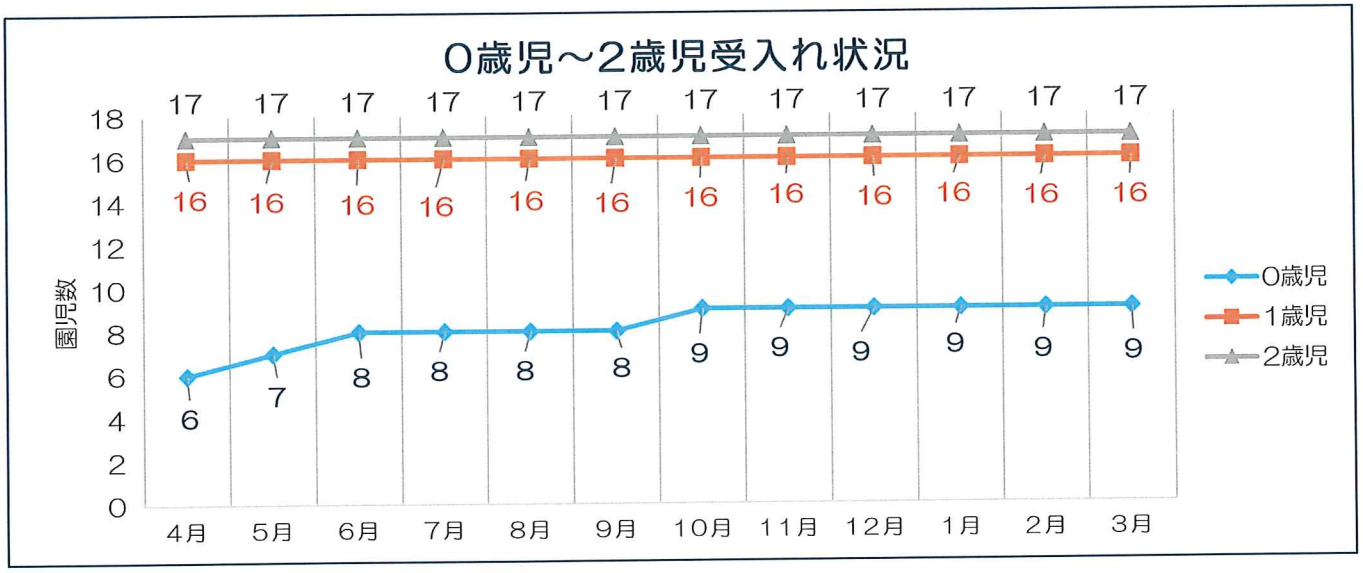
けいわ保育園

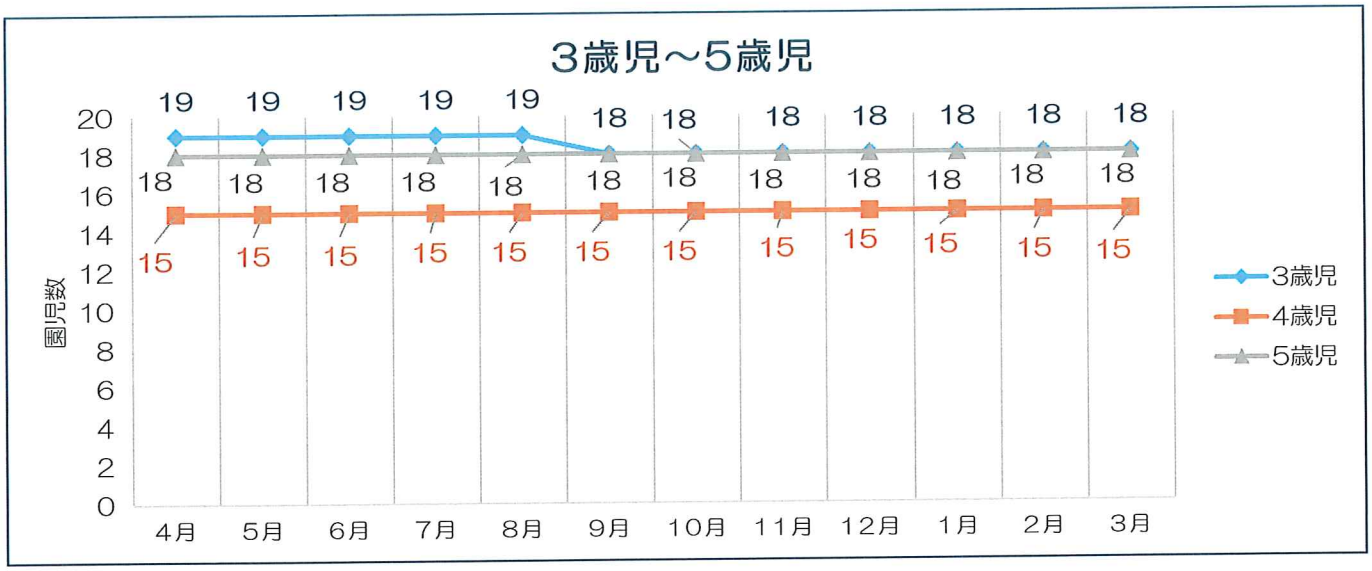
１．基本理念

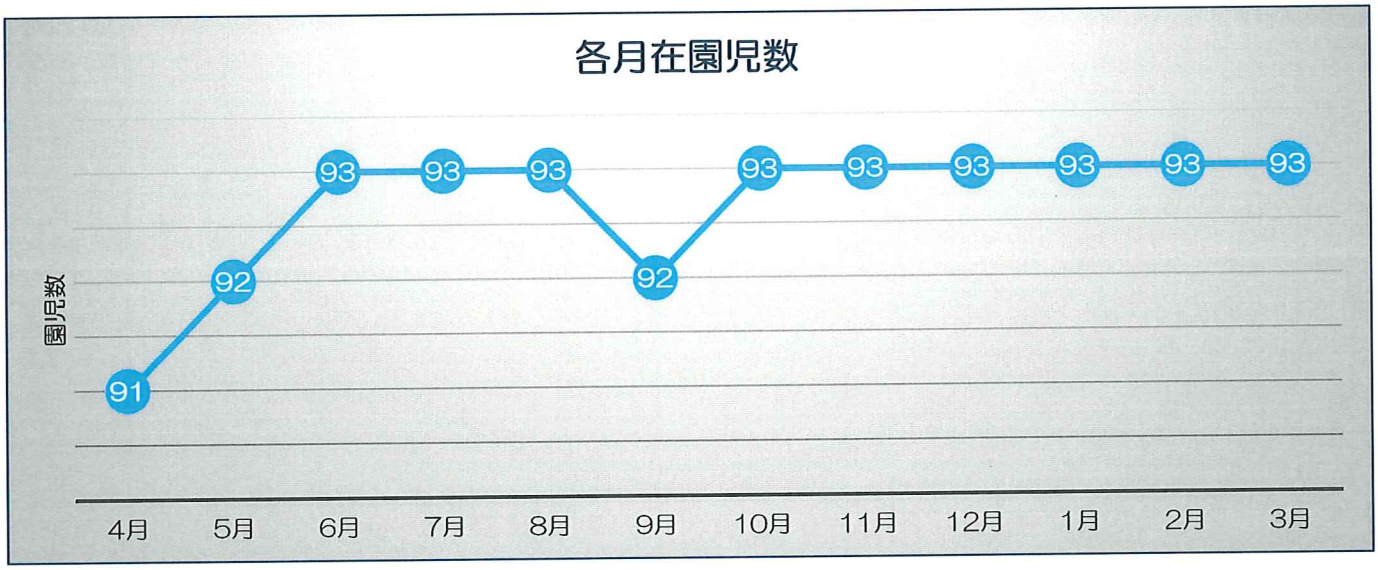
１．けいわ保育園は、子ども一人ひとりの個性を受け入れ、大切に育てます
２．けいわ保育園は、豊かな保育環境を用意し、遊びのなかで子どもの成長・発達を育みます
３．けいわ保育園は、地域社会との交流を通じて「和」を学び、生きることの「意欲」・「思いやり」を育てます
４．けいわ保育園は、子育て支援・育児支援を行います

２．令和３年度園児数









3．事業総括

令和３年度は、新型コロナウイルス感染症のまん延により、厚木市内の認可保育園では相次いで休園となる状況が続きました。

特に 2022 年の１月からはオミクロン株による急激な感染拡大により、臨時休園する保育所が急増しました。

２月 21 日、エッセンシャルワーカーをはじめとする保護者の就労等への大きな支障が生じることから、次元的な対応として、感染者が確認された場合には、感染者・有症状者のみ登園を避ける時限的な対応に変わりました。

但し、クラス内に２名以上の感染者が出た場合は登園自粛をお願いする形となりました。

結果、けいわ保育園では、３月５日～３月８日と３月 23 日は１歳児クラス、３月９日～３月 13 日は４歳児クラス、３月 22 日～３月 23日と３月 26 日～３月 29 日が０歳児クラスと登園自粛が相次ぎました。

感染者が１名でも出ているという情報を、インフルエンザや流行性耳下腺炎などと同じように保護者に伝えることができたら、注意喚起にもつながることができたのでしょうが、個人情報の壁にぶつかりまん延につながってしまったように思います。

感染防止対策として、園内の消毒やおもちゃの消毒、また手洗いや消毒の園内研修を行いました。また、けいわ星の子保育園と感染を広げないために感染状況の情報を共有したり、行事のほとんどの内容を変更、参加者を減らしたり、動画配信に切り替えました。

保育では、年齢ごとに運動のねらいを定め、走る、バランスをとる、這う、跳ぶ、投げる等の動作を取り入れた運動遊びを積極的に取り入れました。

保護者支援では、新型コロナウイルス感染症のため、懇談会や面談ができなかったので、児童の体調を中心に受け渡し時の連絡を密にしました。

４．重点取組事項

（Ⅰ）質の高い保育の提供と保護者支援を行う
（Ⅱ）職員の資質向上と魅力ある職場づくり
（Ⅲ）特色ある保育の提供及び地域における子育て支援の拠点となり、入所児童の安定的な確保を行う
（Ⅳ）理念達成のためにチームワークを強化する
（Ⅴ）地域のニーズを積極的に捉え、繋がりを強める取り組みを行う

５．具体的取組内容及び目標達成状況

具体的取組内容		取組内容と達成目標	目標達成状況
（Ⅰ） （Ⅱ）	質の高い保育の提供と保護者支援を行う 職員の資質向上と魅力ある職場づくり	①安全衛生委員会を中心に軽微な事故記録の集計と分析・事故防止の対策の検討 ②新人保育士と中堅保育士の勉強会	①軽微な事故の集計と対策の検討を行った。机の配置やおもちゃの入替を行った ②手作りペープサートを作り、職員同士で発表した。また手作りペープサートが実際に子ども達の反応がどうだったか発表した
（Ⅲ）	特色ある保育の提供及び地域における子育て支援の拠点となり、入所児童の安定的な確保を行う	①紙面を通して発達に即した離乳食の紹介と試食、簡単な調理法の紹介	①子育て情報誌の編集を行った
（Ⅳ）	理念達成のためにチームワークを強化する	①中堅保育士と新人保育士との話合いを作る	①定期的に話合いの場を設け、意見交換を行った

（Ⅴ）	地域のニーズを積極的に捉え、繋がりを強める取り組みを行う	①DVD（児童相談所からの貸し出し）を使った研修と連携	①DVD 鑑賞は未実施

6. 行事報告

時　期	内　　容
４　月	新入進級式
５　月	内科健診
６　月	おみせやさん　避難訓練（水消火器を使った消火訓練）
７　月	お楽しみ会（５歳児お泊り会にかわる行事）
８　月	
９　月	引き渡し訓練　内科健診
１０ 月	運動遊び、よさこいソーランを４歳児５歳児に動画配信
１１ 月	炊き出し訓練　内科健診
１２ 月	ミニ生活発表会（クラス毎）
１　月	餅つき
２　月	
３　月	お別れ会　卒園式

7. 園外・園内研修報告

【園外研修報告】

月	日	研修名称	主催	会場	参加人員
7	9	２歳児の発達と保育	保育プラザ	オンライン	1
	13	看護師研修	けいわ荘	けいわ荘	1
8	3 4	障害児保育	国立特別支援教育総合研究所	オンライン	1
9	8 9	マネジメント研修	和洋大学	オンライン	1
10	28	園における気になる子どもへの対応	横浜女子短期大学	横浜女子短期大学保育センター	1
	29	アレルギー対応セミナー	社会福祉法人日本保育協会	オンライン	1
	30	子どもの育ちに学ぶ	名古屋短期大学	オンライン	1
11	10	今求められる保育者の役割を考える	横浜女子短期大学	横浜女子短期大学保育センター	1
	17	まめの木における言語聴覚士の仕事	まめの木	市民交流プラザ	1

12	7	心の仕組みと心のケア	厚木市民間保育会	オンライン	5
1	20	厚木市の就学相談	厚木市	オンライン	1
	25	虐待の予防と対応	淑徳短期大学大学部	オンライン	1

【園内研修報告】

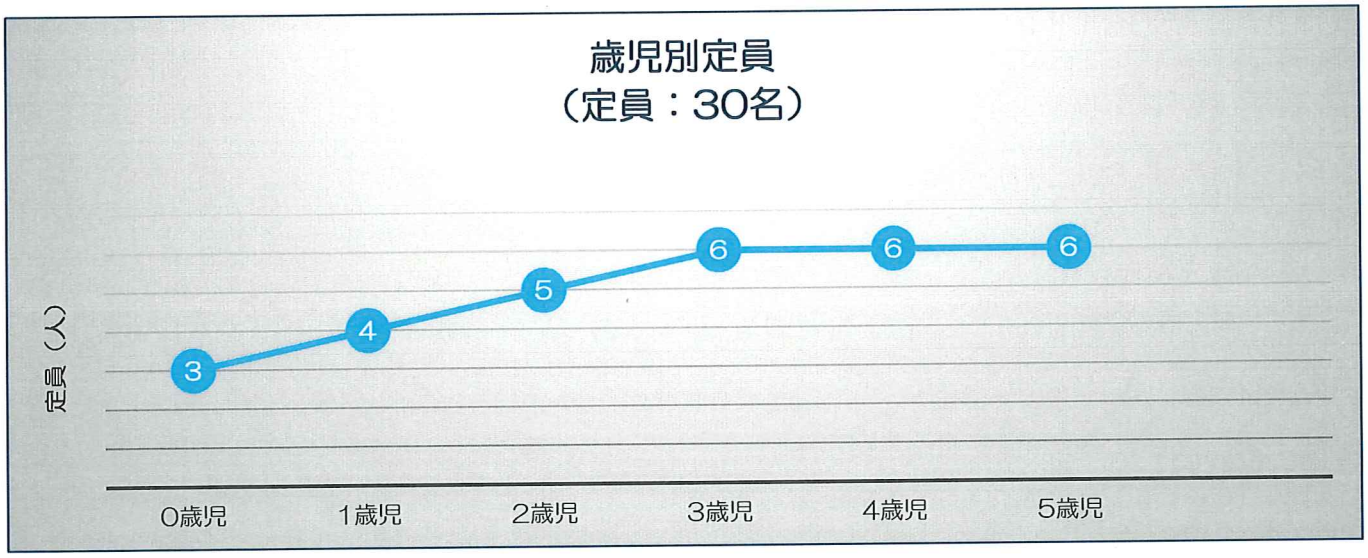
月	日	研修内容	参加人員
5	25	話合いと手作りおもちゃ作成	6
5	26	軽微な事故の検討と事故防止対策	4
6	23	話合いと手作りおもちゃ作成	6
7	29	軽微な事故の検討と事故防止対策	4
8	24	話合いと手作りおもちゃ作成	6
8	25	軽微な事故の検討と事故防止対策	4
9	24	話合いと手作りおもちゃ作成	6
10	26	軽微な事故の検討と事故防止対策	4
1	26		
3	31	話合いと手作りおもちゃ作成	6
月１回		避難訓練を通して課題の検討	30
６月中		心肺蘇生法と AED 操作法	25
		水消火器訓練	30

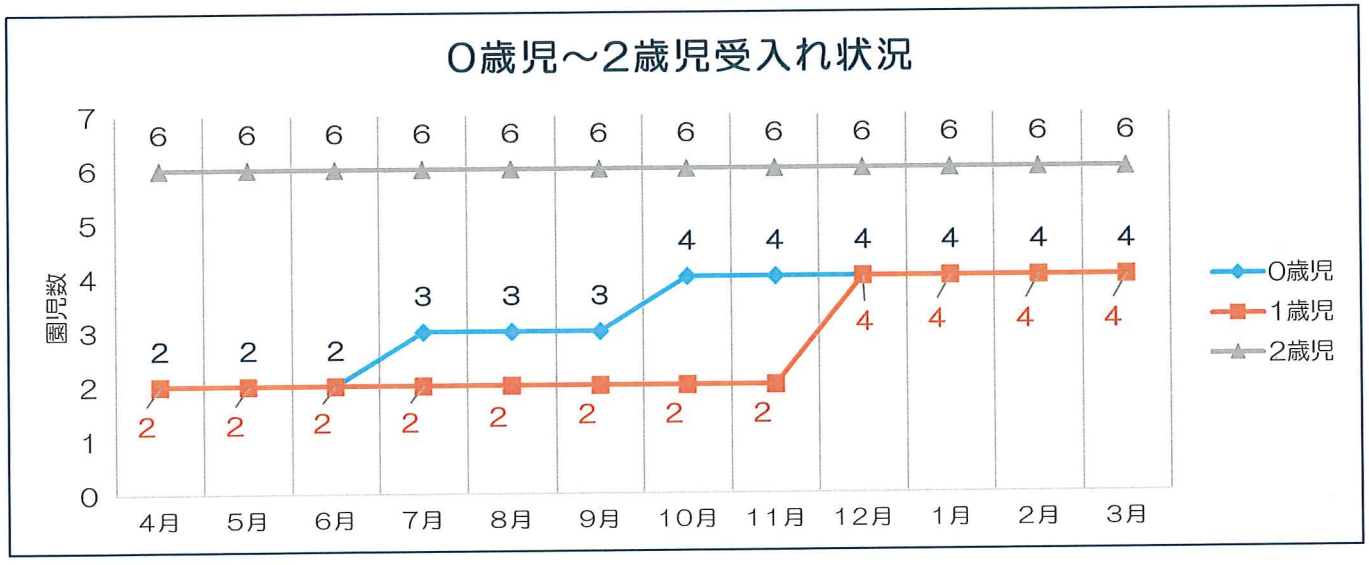
けいわ星の子保育園

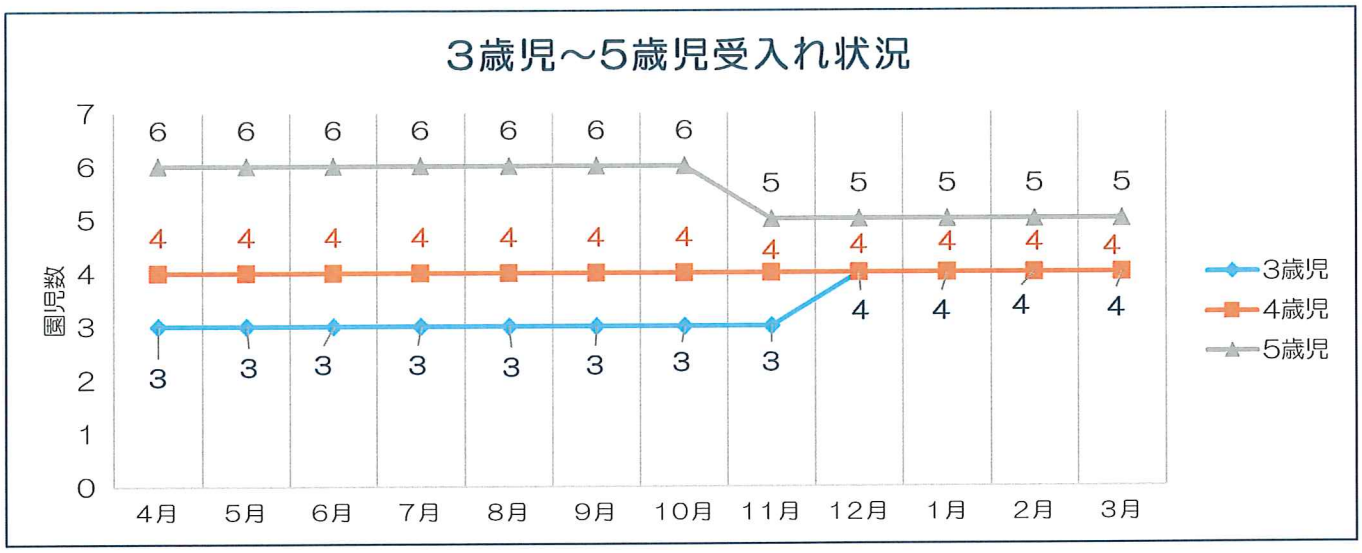
１．基本理念

1．家庭的な温かい環境のもとで、一人ひとりをしっかり受け止め情緒の安定した生活ができるように大切に育てます
2．豊かな保育環境を提供し、夜間保育園ならではの多様な体験を積むなかで、子どもの成長を育みます
3．異年齢児保育・世代間交流・地域交流などの関わりを通じ、優しい心と生きる力を育みます
4．地域の子育て支援・育児支援を行います

２．令和３年度園児数









3．事業総括

園長、主任も交代し新体制の１年目でした。園児数 23 名、常勤保育士数は前年度よりも１名減でのスタートとなりました。園児数を増やす為には保育士を確保しなければならない、というのが年度当初からの大きな課題としてあり、やっと入職した保育士も欠勤を繰り返すなど、チームワークが大切な保育という仕事において、人材確保の難しさを強く感じた１年でした。

新型コロナに関しても気を配る必要のある１年となりました。前例にない対応を求められる事案が多く、感染対策のみでなく、陽性者が出た場合の対応や保護者対応、保育体制の確保など、判断に困る場面が多くありました。

ただ、自園のみでは対応に苦慮するような事態が発生した際には、様々な機関に相談すれば力になってもらえるという事が分かったという意味では非常に意義のある１年でした。コロナ対応などにおける法人内での協力はもとより、多くの加配児を受け入れ保育をしていく上

での保育課との意見交換、要支援家庭を支える為の児相や家庭相談課との情報共有など、多くの機関との協力関係に基づいて保育園は支えられている、という事が実感できました。

4．重点取組事項

（Ⅰ）　新体制下での保育の質の確保・向上
（Ⅱ）　職員の人材育成
（Ⅲ）　保護者支援
（Ⅳ）　同法人内での協力体制の促進
（Ⅴ）　地域との交流と育児支援

5．具体的取組内容及び目標達成状況

具体的取組内容		取組内容と達成目標	目標達成状況
（Ⅰ）	新体制下での保育の質の確保・向上	①夜間保育園として大切にしている自園の理念を全職員で再確認し、理念に基づいた保育をチームで話し合いながら進める、という園としての基本を改めて徹底する	①折に触れて「園としてどうするか」という話はして、理念に基づいた意識の共有を図ってきた。前園長も積極的に現場職員の話を聞いてくれた事もあり、継続して勤務している職員については意識の共有ができた。ただ、新入の職員については、これまで培ってきた各々の意識もあり、その点の摺合せが難しかった
		②面談を通して職員一人一人の役割の確認をすると共に、その役割での課題を明確にして、目標意識をもって業務に取り組めるようにする	②年度の初めに、BSC シートと総合評価シートを活用してどのように面談を進めていくのか、という見通しを持った話をしたので、各々が自分の課題を意識して仕事に取り組めるようになった
		③新型コロナウイルスの影響も残ることも想定し、保育内容について、基本を守りながらも常に柔軟に対応できるように、意見を出し合える職員環境を維持、推進する	③保育内容について、コロナの状況を鑑みてその都度職員間で話し合いながら進めることができた。今後も、そのような話し合いは継続していく

（Ⅱ）	職員の人材育成	①新体制の下、まずは各々の役割に求められる業務内容をしっかりと把握し、分からない点があれば確認をしながら、一つ一つ着実に学んでいく ②協働的リーダーシップを発揮できる職場環境を目指し、キャリアアップ研修などを基準にそれぞれの分野におけるリーダーを決め、責任感をもって各々の能力を発揮できるようにする ③新入職員も積極的に研修を受けられるようにし、現場で学ぶだけではなく、意欲向上に繋がる機会を設ける	①面談を通して、各々の役割に求められる業務内容を具体的に伝えた。今後も継続して、園全体で職員育成を行っていく ②業務を細分化して係を新設したことで、それぞれの分野で各々が責任感を持って仕事に取り組む姿が見られた。ただ、「教わっていない初めてのことなので、何をしたらよいのかわからない」という職員もいた。長い視野を持って意識改革を進める必要がある ③各々の希望と、課題を考慮して必要と思われる研修を受けられるようにした。受けた内容をすぐに共有して、保育に活かす職員もいるが、職員によっては研修報告をしておしまい、保育内容に活かされてないという事もあった。皆で高い意識を持つことの難しさを感じる
（Ⅲ）	保護者支援	①園だよりや掲示物、ホームページなどを活用して園の活動内容への理解を促し、園への安心感・信頼感に繋げる ②子育て困難家庭はもちろん、全ての家庭に対して日々の送迎時や個人面談などを通して、相談・援助が行えるようにする ③新型コロナウイルスの影響下で進めたオンラインを使っての情報発信について、昨年度の意見を踏まえながら、より安全かつ安心できる方法を模索、実施をする	①ホームページでの情報発信には力を入れたが、保育の様子の発信は後半頻度が減ってしまった ②保護者からの様々な意見は、直接の相談ではなく現場からの報告であっても、すぐに対応して話を聞くようにした。また、要支援家庭については、積極的に家庭相談課に報告、相談をして、市全体で家庭を支えるようにした ③運動会など、実施できなかった行事については動画配信を行った。概ね好評だったが、やはり実際に見てもらえた行事の方が、評判は良かった

（Ⅳ）	同法人内での協力体制の促進	①けいわ保育園との合同会議について、昨年度の反省を参考にしながら更に職員の意見交換を推し進め、実践可能な事から子ども同士の交流を進める ②同ビル内にあるという利点を活かし、えまーぶると合同で野菜栽培をするなど、異世代間の交流が取れる機会を作る ③外部講師を招いての研修などは、一緒に行えるかどうか検討する	①園長同士での情報交換は頻繁に行い、様々な面で協力体制を築けた。ただそれを、主任を交えた会議がコロナ禍で難しかったので課題が残る ②コロナ禍で難しさがあったが、苗植えの様子を見てもらったり、収穫した野菜をおすそ分けしたりと、出来る範囲で交流を行った ③コロナ禍で、外部講師を呼んでの研修自体ができなかった
（Ⅴ）	地域との交流と育児支援	①一時保育の積極的受け入れを行う ②お話し会、子育てサロンのこれまで行ってきた子育て支援事業について、地域の子育てニーズを改めて見直し必要とされる事業を検討実施する ③夜間保育園としての役割を地域に向けてよりアピールする為に、園の特徴や取り組みを、ホームページなどを使ってより発信できるようにする ④小学校との連携について、昨年度はほぼ実施が出来なかったことを踏まえ、どのような形であれば可能なのかを模索、打診をして、子どもたちに小学校生活を伝えられるようにする	①緊急事態宣言中は受入を中止し、宣言が解除されても保育士が十分でなかったために受けられない事が多かった ②コロナ禍での子育て支援の見直しは必要で、情報発信誌の発行などのアイデアは出たが、他の業務に追われてしまい実施できなかった ③園の特徴の発信はしていたが、夜間保育の魅力が十分に発信できていないので、その点を今後の課題とする ④保育士は例年通り授業参観と懇談会に参加することができた。子どもがまだ学校見学ができていないので、コロナ禍でも安全にできる交流を模索する

6．行事報告

時　期	内　　容
4　月	進級式
5　月	内科健診　苗植え遠足
6　月	5歳児懇談会　プラネタリウム鑑賞　職員研修
7　月	七夕会　歯科検診　お楽しみ保育
8　月	夏祭りごっこ
9　月	引き渡し訓練　水消火器訓練　内科健診
10 月	プラネタリウム鑑賞　いもほり遠足　お月見会　2歳児個人面談 運動会ごっこ(動画配信)
11 月	3.4 歳児懇談会　内科健診　炊き出し訓練　戸外遠足　5歳児個人面談
12 月	クリスマス会(以上児→観覧、未満児→動画配信) 職員研修　クリスマスパーティー　餅つき
1　月	初詣　0.1 歳児懇談会　3.4 歳児個人面談　こま廻し大会
2　月	節分会　生活展
3　月	ひな祭り会　お別れ遠足　お別れ会　卒園式

7．園外・園内研修報告

【園外研修報告】

月	日	研修名称	主催	会場	参加人員
6	1	ゼロ歳児の発達と保育	保育プラザ JAPAN	オンライン	1
7	5 6	防火管理者研修	日本防火・防災協会	レンブラントホテル海老名	1
	10	3歳児の発達と保育	保育プラザ JAPAN	オンライン	1
	18	おはなしあそび講座	一声社	オンライン	1
	25	保護者の理解と感情をコントロールする技術	田口教育研究所	オンライン	1
8	29	「関わりの難しい子」ってどんな子なの？	田口教育研究所	オンライン	1
9	15	ハラスメントを予防・解決する保育の職場作り	厚木市民間保育会	オンライン	1
	29	キャリアアップ研修「主任保育士講座」	横浜女子短期大学保育センター	横浜女子短期大学 オンライン	1
10	8	現場と作る子ども主体の保育 2021	ベネッセ	オンライン	1

	13	キャリアアップ研修「主任保育士講座」	横浜女子短期大学保育センター	横浜女子短期大学 オンライン	1
10/22～11/12		子育て支援・保護者支援	ポピンズ	湘北短期大学 オンライン	1
10	31	問題行動から学ぼう!「子どもの困り感」代表的な３つの考え方	田口教育研究所	オンライン	2
11	5	キャリアアップ研修「主任保育士講座」	横浜女子短期大学保育センター	横浜女子短期大学 オンライン	1
	8	よりよい保育のための集団づくり	保育プラザJAPAN	オンライン	1
	11	まめの子における言語聴覚士の仕事	まめの木	療育相談センターまめの木	1
	17	子育て支援・保護者支援	ポピンズ	湘北短期大学 オンライン	1
12	7	心の仕組みと心のケア	厚木市民間保育会	オンライン	2
1	20	厚木市の就学相談・家庭相談の事業と役割	まめの木	オンライン	2
2/2~2/23・2/26		マネジメント	ポピンズ	オンライン	1
2	9	キャリアアップ研修「主任保育士講座」	横浜女子短期大学保育センター	横浜女子短期大学 オンライン	1
3	21	よく混同される愛着障がいと発達障害	田口教育研究所	オンライン	1

【園内研修報告】

月	日	研修名称	参加人員
6	18	日常の保育の振り返り「ビデオカンファレンス」	8
9	3	事故・災害時の体制・日常の保育での安全環境について	7
12	17	チーム保育力を高める保育者間のコミュニケーション	9
3/1~31		AEDを使った救命の手順（動画視聴）	13